

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	研究科の専攻の設置又は課程変更							
フリガナ設置者	ガッコウホウジン トウキョウジョシダイガク 学校法人 東京女子大学							
フリガナ大学の名称	トウキョウジョシダイガクダイガクイン 東京女子大学大学院 (Graduate School of Tokyo Woman's Christian University)							
大学本部の位置	東京都杉並区善福寺二丁目6番1号							
大学院の目的	東京女子大学大学院は、キリスト教精神に基づく人格形成を教育の根本方針となし、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展と人類の福祉とに寄与することを目的とする。							
新設学部等の目的	<p>【人間科学研究科】学際的視点からの研究を深め、専攻分野での自立的な研究能力を高めることにより、共生社会実現に指導的役割を担うことのできる研究者及び高度な専門的職業人の育成を目的とする。</p> <p>【人間文化科学専攻】人間の営みと知の所産である文化の諸相を解明するための専門的知識を教授するとともに、その知識を自立的に運用するために必要となる各種の資料についての読解精査力と問題分析力、その分析の成果を国内外に明らかにできる発信力を涵養する。これにより、具体的には、博士後期課程進学(大学教員・研究者)、中学校・高等学校教員、学芸員、日本語教師ほか、著述家、翻訳者、編集者、言語コーディネータなどとして活躍する人材を養成する。</p> <p>【人間社会科学専攻】現代社会の人間が直面しているさまざまな問題に人間科学・社会科学の視点、知識、方法論をもって調査研究し、事実をもとに科学的に解決策を提案できる高度な専門知識・技術を育成する。これにより、具体的には、博士後期課程進学(大学教員・研究者)、臨床心理士、中学校・高等学校教員、国・地方公共団体職員ほか、情報メディア・情報通信分野の専門家、社会調査の専門家、地域コミュニティ・企業・NPO/NGO・国際機関の職員などとして活躍する人材を養成する。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	東京女子大学大学院 人間科学研究科博士前期課程 [Graduate School of Humanities and Sciences] (Master's Degree Course)	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	東京都杉並区 善福寺二丁目6番1号
	人間文化科学専攻 [Division of Humanities and Cultures]	2	22	-	44	修士(人間文化科学)	平成24年4月 第1年次	【基礎となる学部】 現代教養学部 ・人文学科 ・国際社会学科 ・人間科学科
	人間社会科学専攻 [Division of Human and Social Sciences]	2	20	-	40	修士(人間社会科学)	平成24年4月 第1年次	
	計		42		84			

同一設置者内における 変更状況 (定員の移行、 名称の変更等)		東京女子大学大学院 文学研究科修士課程(廃止) 平成23年9月届出予定 哲学専攻 入学定員(6) 収容定員(12) 日本文学専攻 入学定員(6) 収容定員(12) 英米文学専攻 入学定員(6) 収容定員(12) 史学専攻 入学定員(6) 収容定員(12) 社会学専攻 入学定員(6) 収容定員(12) 心理学専攻 入学定員(6) 収容定員(12) 人間科学研究科博士前期課程設置に伴い文学研究科は平成24年4月学生募集停止 文学研究科は在籍学生の修了等を待って廃止する。							
		現代文化研究科修士課程(廃止) 平成23年9月届出予定 現代文化専攻 入学定員(12) 収容定員(24) 人間科学研究科博士前期課程設置に伴い現代文化研究科は平成24年4月学生募集停止 現代文化研究科は在籍学生の修了等を待って廃止する。							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	人間科学研究科 博士前期課程 人間文化科学専攻	47科目	29科目	0科目	76科目	30単位			
人間科学研究科 博士前期課程 人間社会科学専攻	68科目	5科目	5科目	78科目	30単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
	新設分	人間科学研究科 博士前期課程 人間文化科学専攻	30人 (30)	4人 (4)	0人 (0)	0人 (0)	34人 (34)	0人 (0)	5人 (6)
		人間科学研究科 博士前期課程 人間社会科学専攻	28 (28)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	34 (34)	0 (0)	11 (11)
		計	58 (58)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	68 (68)	0 (0)	16 (17)
	既設分	人間科学研究科 博士後期課程 人間文化科学専攻	18 (19)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	19 (20)	0 (0)	0 (0)
		人間科学研究科 博士後期課程 生涯人間科学専攻	16 (17)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	18 (19)	0 (0)	0 (0)
		理学研究科 数学専攻	6 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (9)	0 (0)	0 (0)
		計	40 (43)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	45 (48)	0 (0)	0 (0)
	合計		66 (68)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	78 (80)	0 (0)	16 (17)
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		82人 (82)		23人 (23)		105人 (105)		
	技術職員		3 (3)		2 (2)		5 (5)		
	図書館専門職員		8 (8)		1 (1)		9 (9)		
	その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	計		93 (93)		26 (26)		119 (119)		
大学全体									

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校舎敷地	79,655㎡	0㎡	0㎡	79,655㎡				
	運動場用地	9,613㎡	0㎡	0㎡	9,613㎡				
	小 計	89,268㎡	0㎡	0㎡	89,268㎡				
	そ の 他	5,265㎡	0㎡	0㎡	5,265㎡				
合 計	94,533㎡	0㎡	0㎡	94,533㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		42,740㎡ (42,740㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	42,740㎡ (42,740㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体		
	49室	22室	20室	7室 (補助職員 人)	6室 (補助職員 人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		届出研究科 全 体			
		人間科学研究科博士前期課程		68 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体	
	人間科学研究科 博士前期課程	504,449 〔140,614〕 (497,449 〔138,914〕)	12,304 〔7,408〕 (12,304 〔7,408〕)	5,712 〔5,706〕 (5,712 〔5,706〕)	19,507 (19,157)	1,062 (1,062)	34 (34)		
	計	504,449 〔140,614〕 (497,449 〔138,914〕)	12,304 〔7,408〕 (12,304 〔7,408〕)	5,712 〔5,706〕 (5,712 〔5,706〕)	19,507 (19,157)	1,062 (1,062)	34 (34)		
図書館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数				
		5,763㎡		733	561,944				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		1,768㎡		グ ラ ウ ン ド 1 面					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	大学全体
	経費の見積り								
	教員 1 人当り研究費等		480千円	480千円	-	-	-	-	
	共同研究費等		5,550千円	5,550千円	-	-	-	-	
	図書購入費	79,228,000	79,228,000	78,128,000	-	-	-	-	
	設備購入費	8,180,000	12,000,000	12,000,000	-	-	-	-	
学生 1 人当り 納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次		届出研究科 全 体	
	880千円	640千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			寄附金、私立大学等経常費補助金及び再編成準備引当資産（23年3月末現在残548百万円）を充当						

大学等の名称	東京女子大学								所在地
	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
	年	人	年次人	人		倍			
現代教養学部								東京都杉並区 善福寺二丁目 6番1号	
人文学科	4	345	-	1,035	学士(教養)	1.08	平成21年度		
国際社会学科	4	225	-	675	"	1.13	"		
人間科学科	4	260	-	780	"	1.09	"		
数理科学科	4	60	-	180	学士(理学)	1.23	"		
計	-	890	-	2,670		1.11			
文理学部									
哲学科	4	-	-	-	学士(文学)	-	昭和36年度	平成21年度より 学生募集停止	
日本文学科	4	-	-	-	"	-	"	"	
英米文学科	4	-	-	-	"	-	"	"	
史学科	4	-	-	-	"	-	"	"	
社会学科	4	-	-	-	"	-	"	"	
心理学科	4	-	-	-	"	-	"	"	
数理学科	4	-	-	-	学士(理学)	-	"	"	
現代文化学部									
コミュニケーション学科	4	-	-	-	学士(現代文化)	-	昭和63年度	"	
地域文化学科	4	-	-	-	"	-	"	"	
言語文化学科	4	-	-	-	"	-	"	"	
既設大学等の状況									
東京女子大学大学院									
文学研究科 (修士課程)									
哲学専攻	2	6	-	12	修士(文学)	0.24	昭和50年度		
日本文学専攻	2	6	-	12	"	0.91	昭和46年度		
英米文学専攻	2	6	-	12	"	1.08	昭和46年度		
史学専攻	2	6	-	12	"	0.33	昭和51年度		
社会学専攻	2	6	-	12	"	0.24	平成5年度		
心理学専攻	2	6	-	12	"	1.16	平成5年度		
計	-	36	-	72		0.66			
現代文化研究科 (修士課程)									

現代文化専攻	2	12	-	24	修士(学術)	0.53	平成5年度	
計	-	12	-	24		0.53		
人間科学研究科 (博士後期課程)								
人間文化科学専攻	3	4	-	12	博士(人間文化科学)	0.25	平成17年度	
生涯人間科学専攻	3	5	-	15	博士(生涯人間科学)	0.33	平成17年度	
計	-	9	-	27		0.29		
理学研究科 数学専攻 (博士前期課程)	2	6	-	12	修士(理学)	0.83	昭和46年度	平成17年度に数学専攻修士課程を博士課程に課程変更
(博士後期課程)	3	3	-	9	博士(理学)	0.33	平成17年度	
計	-	9	-	21		0.58		
附属施設の概要	<p>名称 東京女子大学図書館 目的 東京女子大学における教育及び研究に対する図書館の使命を十分に果たすため、本学における図書館資料の収集、管理及び効果的な運用を図るとともに、学術情報の提供に努める。 所在地 東京都杉並区善福寺二丁目6番1号 設置年月 昭和23年4月 規模等 兼任教員：館長1名、委員16名 蔵書数：約54万冊(逐次刊行物、視聴覚資料を含む)</p> <p>名称 東京女子大学情報処理センター 目的 情報処理活動を通じ東京女子大学の教育及び研究の向上並びに事務処理の円滑な運営に資する。 所在地 東京都杉並区善福寺二丁目6番1号 設置年月 昭和63年11月(昭和45年3月設置電子計算室を改名) 規模等 兼任教員：センター長1名、助教1名、運営委員9名 設 備：サーバー 33台 パソコン 214台</p> <p>名称 東京女子大学比較文化研究所 目的 人文・社会・自然の諸領域における比較文化的研究及び日本キリスト教史・キリスト教文化に関する研究と資料の収集を行い、併せて国内外の学術交流に貢献する。 所在地 東京都杉並区善福寺二丁目6番1号 設置年月 昭和29年6月 規模等 兼任教員：所長1名、副所長1名、商議員9名、運営委員9名 兼任教員：商議員1名 専任教員：助教1名(運営委員)</p>							

	<p>名 称 東京女子大学女性学研究所</p> <p>目 的 真に平等な社会の実現をめざし、女性学の研究・教育の発展に資する国内外共同研究の場として設置され、(1)女性学研究の促進、(2)教育面における女性学の実践、(3)女性学の発展を目的とした国内外における研究交流、(4)アジア諸国における女性学ネットワークの形成を目的として活動する。</p> <p>所 在 地 東京都杉並区善福寺二丁目 6 番 1 号</p> <p>設置年月 平成2年7月（昭和51年比較文化研究所内に女性学センターが併設され、平成2年7月に独立）</p> <p>規 模 等 兼担教員：所長1名、副所長1名、商議員9名、運営委員7名 専任教員：准教授1名(運営委員)</p>	
	<p>名 称 東京女子大学心理臨床センター</p> <p>目 的 本学大学院人間科学研究科博士前期課程人間社会科学専攻臨床心理学分野の学生の臨床実習及び臨床心理学に関する研修、研究等を行い、さらに地域社会・地域住民等の要請に応えて心理臨床活動を展開し、学内外の諸機関と協働し、地域社会の成長・発展と本学の教育・研究の推進に寄与する。</p> <p>所 在 地 東京都杉並区善福寺二丁目 6 番 1 号</p> <p>設置年月 平成21年4月</p> <p>規 模 等 兼担教員：センター長1名、指導相談員4名 兼任相談員：指導相談員1名、相談員3名 その他：臨床心理学分野の実習生</p>	

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人東京女子大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成23年度		入学定員	
東京女子大学			
現代教養学部	人文学科	345	
	国際社会学科	225	
	人間科学科	260	
	数理科学科	60	
文理学部	哲学科	0	平成21年度より学生募集停止
	日本文学科	0	平成21年度より学生募集停止
	英米文学科	0	平成21年度より学生募集停止
	史学科	0	平成21年度より学生募集停止
	社会学科	0	平成21年度より学生募集停止
	心理学科	0	平成21年度より学生募集停止
	数理学科	0	平成21年度より学生募集停止
	現代文化学部	コミュニケーション学科	0
地域文化学科		0	平成21年度より学生募集停止
言語文化学科		0	平成21年度より学生募集停止
東京女子大学大学院			
文学研究科	哲学専攻(M)	6	
	日本文学専攻(M)	6	
	英米文学専攻(M)	6	
	史学専攻(M)	6	
	社会学専攻(M)	6	
	心理学専攻(M)	6	
	現代文化研究科	現代文化専攻(M)	12
人間科学研究科	人間文化科学専攻(D)	4	
	生涯人間科学専攻(D)	5	
理学研究科	数学専攻(M)	6	
	数学専攻(D)	3	

平成24年度		入学定員		変更の事由
東京女子大学				
現代教養学部	人文学科	345		
	国際社会学科	225		
	人間科学科	260		
	数理科学科	60		
文理学部	哲学科	0	平成21年度より学生募集停止	
	日本文学科	0	平成21年度より学生募集停止	
	英米文学科	0	平成21年度より学生募集停止	
	史学科	0	平成21年度より学生募集停止	
	社会学科	0	平成21年度より学生募集停止	
	心理学科	0	平成21年度より学生募集停止	
	数理学科	0	平成21年度より学生募集停止	
	現代文化学部	コミュニケーション学科	0	平成21年度より学生募集停止
地域文化学科		0	平成21年度より学生募集停止	
言語文化学科		0	平成21年度より学生募集停止	
東京女子大学大学院				
文学研究科	哲学専攻(M)	0	平成24年度より学生募集停止	
	日本文学専攻(M)	0	平成24年度より学生募集停止	
	英米文学専攻(M)	0	平成24年度より学生募集停止	
	史学専攻(M)	0	平成24年度より学生募集停止	
	社会学専攻(M)	0	平成24年度より学生募集停止	
	心理学専攻(M)	0	平成24年度より学生募集停止	
	現代文化研究科	現代文化専攻(M)	0	平成24年度より学生募集停止
人間科学研究科	人間文化科学専攻(M)	22		研究科の専攻の課程変更(届出)
	人間社会科学専攻(M)	20		研究科の専攻の設置(届出)
人間科学研究科	人間文化科学専攻(D)	4		
	生涯人間科学専攻(D)	5		
	理学研究科	数学専攻(M)	6	
理学研究科	数学専攻(D)	3		

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況					新設学部等の学年進行終了時における状況						
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
文学研究科 哲学専攻 (廃止)	修士 (文学)	文学関係	人間科学研究科 人間文化科学専攻	5	5	人間科学研究科 人間文化科学 専攻	修士 (人間文化 科学)	文学関係	文学研究科 哲学専攻	5	5
									文学研究科 日本文学専攻	8	7
									文学研究科 英米文学専攻	7	7
									文学研究科 史学専攻	6	6
									現代文化研究科 現代文化専攻	7	5
									新規採用	1	0
			計						5	5	計
文学研究科 日本文学専攻 (廃止)	修士 (文学)	文学関係	人間科学研究科 人間文化科学専攻	8	7	人間科学研究科 人間社会科学 専攻	修士 (人間社会 科学)	文学関係 社会学・社会 福祉学関係 経済学関係 法学関係	文学研究科 心理学専攻	7	6
									文学研究科 社会学専攻	11	8
									現代文化研究科 現代文化専攻	14	13
									現代教養学部 共通教育	1	0
									新規採用	1	1
			計						8	7	計
文学研究科 英米文学専攻 (廃止)	修士 (文学)	文学関係	人間科学研究科 人間文化科学専攻	7	7						
			その他	1	1						
			退職	3	3						
			計	11	11						
文学研究科 史学専攻 (廃止)	修士 (文学)	文学関係	人間科学研究科 人間文化科学専攻	6	6						
			退職	1	1						
			計	7	7						
文学研究科 社会学専攻 (廃止)	修士 (文学)	社会学・社会 福祉学 関係	人間科学研究科 人間社会科学専攻	11	8						
			計	11	8						
文学研究科 心理学専攻 (廃止)	修士 (文学)	文学関係	人間科学研究科 人間社会科学専攻	7	6						
			その他	1	1						
			計	8	7						
現代文化研究科 現代文化専攻 (廃止)	修士 (学術)	文学関係 社会学・社会 福祉学 関係 法学関係	人間科学研究科 人間文化科学専攻	7	5						
			人間科学研究科 人間社会科学専攻	14	13						
			その他	6	6						
			計	27	24						

基礎となる大学院研究科の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は 学科の分野	手続きの区分
昭和46年4月	文学研究科日本文学専攻修士課程 設置	文学	設置認可(大学院)
	文学研究科英米文学専攻修士課程 設置	文学	
昭和50年4月	文学研究科哲学専攻修士課程 設置	文学	設置認可(研究科の専攻)
昭和51年4月	文学研究科史学専攻修士課程 設置	文学	設置認可(研究科の専攻)
平成5年4月	文学研究科社会学専攻修士課程 設置	文学	設置認可(研究科の専攻)
	文学研究科心理学専攻修士課程 設置	文学	
	現代文化研究科現代文化専攻修士課程 設置	学術	設置認可(研究科)
平成16年4月	文学研究科カリキュラム変更	文学	学則変更
	現代文化研究科カリキュラム変更	学術	
平成17年4月	人間科学研究科人間文化科学専攻博士後期課程 設置	人間文化科学	設置認可(研究科)
	人間科学研究科生涯人間科学専攻博士後期課程 設置	生涯人間科学	
平成24年4月	人間科学研究科人間文化科学専攻博士前期課程 設置	人間文化科学	設置届出(研究科の 専攻又は課程変更)
	人間科学研究科人間社会科学専攻博士前期課程 設置	人間社会科学	
平成24年4月	文学研究科・現代文化研究科の学生募集停止	-	学生募集停止(研究科)

教 育 課 程 等 の 概 要

(人間科学研究科人間文化科学専攻博士前期課程)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通 基礎	人間文化科学基礎演習	1前	2						4	1					兼1 2単位必修 オムニバス オムニバス
	人間文化科学研究法	1後		2					1						
	人間文化交流研究	1前		2						1					
	小計(3科目)	-	2	4	0	-	-	5	2	0	0	0	兼1	-	
哲学・ 思想文化分野 基礎	哲学・思想史研究	1・2前		2					1						兼1 兼1 哲学・思想 文化分野 は4単位必修 兼1 兼1 哲学・思想文化分野 は4単位必修
	哲学・思想史研究	1・2後		2					1						
	哲学・思想文化研究	1・2前		2					1						
	哲学・思想文化研究	1・2後		2					1						
	倫理・社会哲学研究	1・2前		2					1						
	倫理・社会哲学研究	1・2後		2					1						
	美学・芸術学研究	1・2前		2					1						
	美学・芸術学研究	1・2後		2					1						
	キリスト教学研究	1・2前		2					1					兼1	
	キリスト教学研究	1・2後		2					1					兼1	
	専門 哲学・思想文化演習	1・2前		2					4						
	専門 哲学・思想文化演習	1・2後		2					4						
小計(12科目)	-	0	24	0	-	-	5	0	0	0	0	兼2	-		
日本文学 文化分野 基礎 専門	和漢比較文学研究	1前		2					1						兼1 兼1 日本文学文化分野 は4単位必修*
	和漢比較文学研究	1後		2					1						
	日本文学文化研究	1前		2					1						
	日本文学文化研究	1後		2					1						
	日本語史研究	1・2前		2					1						
	日本語史研究	1・2後		2					1						
	日本古典文学研究	1・2前		2					2						
	日本古典文学研究	1・2後		2					2						
	日本近現代文学研究	1・2前		2					1						
	日本近現代文学研究	1・2後		2					1						
	漢文学研究	1・2前		2					1						
	漢文学研究	1・2後		2					1						
	日本語史演習	1・2前		2					1						
	日本語史演習	1・2後		2					1						
	日本文学演習	1・2前		2					1	1			兼1		
	日本文学演習	1・2後		2					1	1			兼1		
	漢文学演習	1・2前		2					1						
	漢文学演習	1・2後		2					1						
小計(18科目)	-	0	36	0	-	-	6	1	0	0	0	兼1	-		
英語文学 文化分野 基礎	英米文学文化研究(詩・演劇)	1前		2					1						兼1 英語文学文化分野 は6単位必修
	英米文学文化研究(詩・演劇)	1後		2					1						
	英米文学文化研究(小説)I	1前		2					2						
	英米文学文化研究(小説)	1後		2					2						
	英米文学文化研究(主題研究)	1前		2					1						
	英語学研究(言語運用)I	1前		2						1					
	英語学研究(言語運用)	1後		2						1					
	英語学研究(言語構造)I	1前		2					1						
	英語学研究(言語構造)	1後		2					1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門	英米文学文化研究演習I	1・2前		2					2						英語文学文化分野 は4単位必修 英語文学文化分野 は必修
	英米文学文化研究演習	1・2後		2					2						
	英語学研究演習I	1・2前		2					1	1					
	英語学研究演習	1・2後		2					1	1					
	特別演習(Academic English Writing)	1・2前		1					1						
	特別演習(Academic English Writing)	1・2後		1					1						
小計(15科目)		-	0	28	0	-	-	7	1	0	0	0	0	-	
歴史文化分野	世界史研究法	1前		2					4					兼1 歴史文化分野はオムニバス 2単位必修 オムニバス 「世界史研究法」と「日本史研究法」を交互に開講 歴史文化分野 は6単位必修 歴史文化分野 は4単位必修	
	日本史研究法	1前		2					4						
	文献・資料研究(日本)A	1前		2					1						
	文献・資料研究(日本)B	1後		2					1						
	文献・資料研究(東アジア)A	1前		2					1						
	文献・資料研究(東アジア)B	1後		2					1						
	文献・資料研究(ヨーロッパ)A	1前		2					1						
	文献・資料研究(ヨーロッパ)B	1後		2					1						
	日本歴史文化演習	1・2前		2					3						
	日本歴史文化演習	1・2後		2					3						
	日本・アジア歴史文化演習	1・2前		2					2						
	日本・アジア歴史文化演習	1・2後		2					2						
	ヨーロッパ歴史文化演習	1・2前		2					3						
	ヨーロッパ歴史文化演習	1・2後		2					3						
小計(14科目)		-	0	28	0	-	-	8	0	0	0	0	兼1	-	
現代日本語・日本語教育分野	現代日本語学研究	1・2前		2					1					現代日本語・日本語 教育分野は6単位必修 現代日本語・日本語 教育分野は6単位必修	
	現代日本語学研究	1・2後		2					1						
	社会言語学研究	1・2前		2					1						
	社会言語学研究	1・2後		2					1						
	日本語教育学研究	1・2前		2						1					
	日本語教育学研究	1・2後		2						1					
	現代日本語学演習	1・2前		2					1						
	現代日本語学演習	1・2後		2					1						
	社会言語学演習	1・2前		2					1						
	社会言語学演習	1・2後		2					1						
	日本語教育学演習	1・2前		2					1						
	日本語教育学演習	1・2後		2					1						
小計(12科目)		-	0	24	0	-	-	4	1	0	0	0	0		
共通	(研究指導)	(1)	-						29	3				-	
	論文指導演習	2前	1						29	3					
	論文指導演習	2後	1						29	3					
	小計(2科目)	-	2	0	0	-	-	29	3	0	0	0	0		
合計(76科目)		-	4	144	0	-	-	30	4	0	0	0	兼5	-	
学位又は称号	修士(人間文化科学)	学位又は学科の分野			文学関係										
修了要件及び履修方法											授業期間等				
修了要件 2年以上在学し、専攻共通科目4単位以上、入学時に選択した研究分野の科目12単位以上、論文指導演習2単位を含む計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。											1学年の学期区分		2学期		
											1学期の授業期間		15週		
											1時限の授業時間		90分		
履修方法 日本文学文化分野の学生は、「*」の4科目のうち、次の 和漢比較文学研究 及び の2科目計4単位 日本文学文化研究 及び の2科目計4単位 のいずれか2科目計4単位を修得しなければならない。															

別記様式第2号(その2の1)

教育課程等の概要																	
(人間科学研究科人間社会科学専攻博士前期課程)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通	人間社会科学基礎論	1前	2						4	1					兼1 2単位必修	仏二バス	
	国際コミュニケーションワークショップ	1前		2												仏二バス	
	論文作成・プレゼンテーション技法	1後		2					5								
	小計(3科目)	-	2	4	0				9	1	0	0	0	兼1	-		
臨床心理学分野	心理学研究法特論	1・2後		2										兼1	臨床心理学分野は 2単位必修	仏二バス	
	臨床心理学研究法特論	1・2前		2					2								
	臨床心理学特論1	1前		2					1						臨床心理学分野は 必修	仏二バス	
	臨床心理学特論2	1後		2					1							仏二バス	
	臨床心理面接特論1	1前		2					1							仏二バス	
	臨床心理面接特論2	1後		2					1							仏二バス	
	臨床心理査定演習1	1前		2					1							仏二バス	
	臨床心理査定演習2	1後		2					1							仏二バス	
	臨床心理基礎実習1	1前		1					2							仏二バス	
	臨床心理基礎実習2	1後		1					2							仏二バス	
	臨床心理実習1	2前		1					3							仏二バス	
	臨床心理実習2	2後		1					3							仏二バス	
	障害者(児)心理学特論	1・2前		2										兼1	臨床心理学分野は 2単位必修		
	老年心理学特論	1・2後		2										兼1			
	精神医学特論A	1・2前		2					1								
	精神医学特論B	1・2後		2					1								
	学校臨床心理学特論	1・2後		2					1						臨床心理学分野は 2単位必修		
	心理療法特論A	1・2後		2					1					兼1			
	心理療法特論B	1・2前		2										兼1			
	心理療法特論C	1・2前		2										兼1			
小計(20科目)	-	0	36	0				5	0	0	0	0	兼5	-			
心理・コミュニケーション科学分野	基礎 心理・コミュニケーション科学基礎論	1前		2					2	2				兼1	心理・コミュニケーション 科学分野は必修	仏二バス	
	専門 心理学(感覚知覚認知)	1・2前		2					1					兼1 兼1	心理・コミュニケーション 科学分野は10単位必修		
	心理学(感覚知覚認知)	1・2後		2					1								
	心理学(発達)	1・2前		2						1							
	心理学(発達)	1・2後		2						1							
	心理学(家族・対人関係)	1・2前		2													
	心理学(家族・対人関係)	1・2後		2													
	心理学(社会)	1・2前		2					1								
	心理学(社会)	1・2後		2					1								
	心理学(文化)	1・2前		2					1								
	心理学(文化)	1・2後		2					1								
	コミュニケーション科学(メディア)	1・2前		2					1								
	コミュニケーション科学(メディア)	1・2後		2					1								
	コミュニケーション科学(広告)	1・2前		2					1								
	コミュニケーション科学(広告)	1・2後		2					1								
	コミュニケーション科学(現代社会)	1・2前		2						1							
	コミュニケーション科学(現代社会)	1・2後		2						1							
コミュニケーション科学(電子メディア)	1・2前		2										兼1				
コミュニケーション科学(電子メディア)	1・2後		2										兼1				
コミュニケーション科学(ヒューマン・コンピュータ・インタラクション)	1・2前		2					1									
コミュニケーション科学(ヒューマン・コンピュータ・インタラクション)	1・2後		2					1									
小計(21科目)	-	0	42	0				6	2	0	0	0	兼2	-			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考						
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手							
グローバル共生社会分野	グローバル共生社会論	1後		2					4	1					グローバル共生社会分野は2単位必修	オムニバス				
	グローバルジェンダー分析	1前		2					4	1						オムニバス				
	グローバル社会基礎研究(国際関係論)	1・2前		2					1											
	グローバル社会基礎研究(国際関係論)	1・2後		2					1											
	グローバル社会基礎研究(国際機構論)	1・2後		2										兼1						
	グローバル社会基礎研究(国際法)	1・2前		2										兼1						
	共生経済基礎研究(ミクロ経済学)	1・2前		2					1											
	共生経済基礎研究(マクロ経済学)	1・2後		2					1											
	共生経済基礎研究(社会統計学)	1・2前		2					1											
	共生経済基礎研究(経済思想)	1・2後		2					1											
	共生社会基礎研究(社会学原論)	1・2前		2						1										
	共生社会基礎研究(社会文化論)	1・2後		2					1											
	共生社会基礎研究(質的調査)	1・2前		2										兼1						
	共生社会基礎研究(多変量解析)	1・2後		2										兼1						
	地域共生研究(アメリカ)	1・2前		2					1							グローバル共生社会分野は10単位必修				
	地域共生研究(アメリカ)	1・2後		2					1											
	地域共生研究(東アジア)	1・2前		2					1											
	地域共生研究(東アジア)	1・2後		2					1											
	平和共生研究(多文化共生論)	1・2前		2					1											
	平和共生研究(平和教育学)	1・2前		2						1										
	共生経済研究(公共政策論)	1・2後		2					1											
	共生経済研究(環境経済学)	1・2前		2						1										
	共生経済研究(開発経済学)	1・2後		2					1											
	共生経済研究(国際金融論)	1・2前		2					1											
	共生社会研究(産業と労働の社会学)	1・2後		2					1											
	共生社会研究(少子高齢化と福祉)	1・2後		2					1											
	グローバルジェンダー研究(仕事と家族)	1・2後		2						1										
	グローバルジェンダー研究(社会福祉)	1・2前		2					1											
	グローバルジェンダー研究(コミュニケーション)	1・2前		2					1											
	グローバルジェンダー研究(開発と平和構築)	1・2前		2					1											
	グローバルジェンダー研究(比較ジェンダー研究)	1・2後		2					1											
	共生社会拠点実習	1・2通		2					3	1						演習	オムニバス			
小計(32科目)		-	0	64	0				17	4	0	0	0	兼4	-					
共通	(研究指導)	(1)	-						28	6										
	論文指導演習	2前	1						28	6										
	論文指導演習	2後	1						28	6										
	小計(2科目)		-	2	0	0			28	6	0	0	0	0	-					
合計(78科目)		-	4	146	0				28	6	0	0	0	兼12	-					
学位又は称号	修士(人間社会科学)	学位又は学科の分野	文学関係、社会学・社会福祉学関係、経済学関係、法学関係																	
修了要件及び履修方法										授業期間等										
修了要件 2年以上在学し、専攻共通科目4単位以上、入学時に選択した研究分野の科目12単位以上、論文指導演習2単位を含む計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。										1学年の学期区分							2学期			
										1学期の授業期間							15週			
										1時限の授業時間							90分			
履修方法																				
注1 臨床心理実習1を履修するには、臨床心理学特論1、臨床心理学特論2、臨床心理面接特論1、臨床心理面接特論2の各2単位及び臨床心理基礎実習1、臨床心理基礎実習2の各1単位を修得していなければならない。																				
2 臨床心理学特論1、臨床心理学特論2、臨床心理面接特論1、臨床心理面接特論2、臨床心理査定演習1及び臨床心理査定演習2は重ねて履修できない。																				
3 臨床心理学特論1、臨床心理学特論2、臨床心理面接特論1、臨床心理面接特論2、臨床心理査定演習1、臨床心理査定演習2、臨床心理基礎実習1、臨床心理基礎実習2、臨床心理実習1、臨床心理実習2、学校臨床心理学特論、心理療法特論A、心理療法特論B及び心理療法特論Cの履修は、臨床心理学分野の学生に限る。																				

教育課程等の概要

(文学研究科哲学専攻修士課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
哲学	哲学特論(古代・中世)	1・2前		2												
	哲学特論(古代・中世)	1・2後		2												
	哲学特論(近世・近代)	1・2前		2					1							
	哲学特論(近世・近代)	1・2後		2					1							
	哲学特論(現代)	1・2前		2					1							
	哲学特論(現代)	1・2後		2					1							
	哲学特論(美学分野)	1・2前		2					1							
	哲学特論(美学分野)	1・2後		2					1							
	哲学特論(学際的分野)	1・2前		2					1							
	哲学特論(学際的分野)	1・2後		2					1							
	哲学演習(古代・中世)	1・2通		4											兼1	
	哲学演習(近世・近代)	1・2通		4						2						
	哲学演習(現代)	1・2通		4						1						
	哲学演習(美学分野)	1・2通		4						1						
	哲学演習(学際的分野)	1・2通		4						1						
小計(15科目)		-	0	40	0				4	0	0	0	0	0	兼1	-
キリスト教学	キリスト教学特論(聖書学)	1・2前		2					1							
	キリスト教学特論(聖書学)	1・2後		2					1							
	キリスト教学特論(キリスト教史)	1・2前		2					1							
	キリスト教学特論(キリスト教史)	1・2後		2					1							
	キリスト教学演習(聖書学)	1・2通		4											兼1	
	キリスト教学演習(キリスト教史)	1・2通		4												
小計(6科目)		-	0	16	0				1	0	0	0	0	0	兼1	-
(研究指導)		1~2	-						5							
合計(21科目)		-	0	56	0				5	0	0	0	0	0	兼2	-
学位又は称号	修士(文学)		学位又は学科の分野			文学関係										
修了要件及び履修方法										授業期間等						
修了要件										1学年の学期区分		2学期				
2年以上在学し、専攻科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。										1学期の授業期間		15週				
										1時限の授業時間		90分				
履修方法																
提出する修士論文の研究分野に応じ、以下のとおりとする。																
哲学で修士論文を提出する者：哲学特論より4単位、哲学演習より4単位、計8単位を必修とする。																
キリスト教学で修士論文を提出する者：哲学分野の特論または演習より4単位、キリスト教学特論より4単位、キリスト教学演習より4単位、計12単位を必修とする。																

教育課程等の概要

(文学研究科日本文学専攻修士課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
日本語学	現代日本語特論	1・2前		2					1						
	現代日本語特論	1・2後		2					1						
	日本語史特論	1・2前		2					1						
	日本語史特論	1・2後		2					1						
	現代日本語演習	1・2通		4					1						
	日本語史演習	1・2通		4					1						
	小計(6科目)	-	0	16	0				2	0	0	0	0	0	-
日本文学	日本文学特論	1・2前		2					1						
	日本文学特論	1・2後		2					1						
	日本上代文学特論	1・2前		2					1						
	日本上代文学特論	1・2後		2					1						
	日本中古文学特論	1・2前		2					1						
	日本中古文学特論	1・2後		2					1						
	日本中世文学特論	1・2前		2											
	日本中世文学特論	1・2後		2											
	日本近世文学特論	1・2前		2					1						
	日本近世文学特論	1・2後		2					1						
	日本近現代文学特論	1・2前		2										兼1	
	日本近現代文学特論	1・2後		2										兼1	
	日本上代文学演習	1・2通		4					1						
	日本中古文学演習	1・2通		4					1						
	日本中世文学演習	1・2通		4											
日本近世文学演習	1・2通		4					1							
日本近現代文学演習	1・2通		4						1						
	小計(17科目)	-	0	44	0				4	1	0	0	0	兼1	-
中国文学	中国文学特論	1・2前		2					1						
	中国文学特論	1・2後		2					1						
	小計(2科目)	-	0	4	0				1	0	0	0	0	0	-
	(研究指導)	1~2	-						6	1					
	合計(25科目)	-	0	64	0				7	1	0	0	0	兼1	-
学位又は称号	修士(文学)	学位又は学科の分野			文学関係										
修了要件及び履修方法										授業期間等					
修了要件 2年以上在学し、専攻科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。 履修方法 提出する修士論文の研究分野に応じ、以下のとおりとする。 日本語学で修士論文を提出する者：日本語学分野の特論より8単位、演習より8単位、日本文学分野の特論または演習より4単位、計20単位を必修とする。 日本文学で修士論文を提出する者：日本語学分野の特論または演習より4単位、日本文学分野より、「日本文学特論」、「日本文学特論」各2単位、それ以外の日本文学分野の特論より4単位、演習より8単位、計20単位を必修とする。										1学年の学期区分		2学期			
										1学期の授業期間		15週			
										1時限の授業時間		90分			

教育課程等の概要

(文学研究科英米文学専攻修士課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
英文学	英文学特論(詩)	1・2前		2					1							
	英文学特論(詩)	1・2後		2												
	英文学特論(演劇)	1・2前		2					1							
	英文学特論(演劇)	1・2後		2					1							
	英文学特論(小説)	1・2前		2					1							
	英文学特論(小説)	1・2後		2					1							
	英文学特論(文化)	1・2前		2												
	英文学特論(文化)	1・2後		2												
	英文学特論(評論)	1・2前		2					1							
	英文学特論(評論)	1・2後		2					1							
	英文学特論(主題研究)	1・2前		2												
	英文学演習(詩)	1・2通		4												
	英文学演習(演劇)	1・2通		4					1							
	英文学演習(小説)	1・2通		4					1							
	英文学演習(文化)	1・2通		4												
	英文学演習(評論)	1・2通		4												
	英文学演習(主題研究)	1・2前		2					1							
小計(17科目)	-	0	44	0				4	0	0	0	0	0		-	
米文学	米文学特論(詩)	1・2前		2					1							
	米文学特論(詩)	1・2後		2					1							
	米文学特論(演劇)	1・2前		2												
	米文学特論(演劇)	1・2後		2												
	米文学特論(小説)	1・2前		2					2							
	米文学特論(小説)	1・2後		2					2							
	米文学特論(文化)	1・2前		2												
	米文学特論(文化)	1・2後		2												
	米文学特論(評論)	1・2前		2												
	米文学特論(評論)	1・2後		2												
	米文学特論(主題研究)	1・2後		2					1							
	米文学演習(詩)	1・2通		4												
	米文学演習(演劇)	1・2通		4												
	米文学演習(小説)	1・2通		4					2							
	米文学演習(文化)	1・2通		4					1							
	米文学演習(評論)	1・2通		4												
	米文学演習(主題研究)	1・2前		2					1							
小計(17科目)	-	0	44	0				5	0	0	0	0	0		-	
英語学	英語学特論(言語運用)	1・2前		2					1							
	英語学特論(言語運用)	1・2後		2					1							
	英語学特論(言語構造)	1・2前		2					1							
	英語学特論(言語構造)	1・2後		2					1							
	英語学特論(主題研究)	1・2前		2					1							
	英語学演習(言語運用)	1・2通		4					1							
	英語学演習(言語構造)	1・2通		4					1							
	英語学演習(主題研究)	1・2後		2					1							
小計(8科目)	-	0	20	0				3	0	0	0	0	0		-	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
特別演習	特別演習 (Thesis Writing)	1・2通		2					1						
	小計 (1科目)	-	0	2	0		-		1	0	0	0	0	0	-
	(研究指導)	1~2	-						11						
合計 (43科目)		-	0	110	0		-		11	0	0	0	0	0	-
学位又は称号	修士(文学)	学位又は学科の分野			文学関係										
修了要件及び履修方法										授業期間等					
修了要件 2年以上在学し、専攻科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。										1学年の学期区分		2学期			
										1学期の授業期間		15週			
										1時限の授業時間		90分			
履修方法 提出する修士論文の研究分野に応じ、以下のとおりとする。 英文学で修士論文を提出する者：英文学分野の特論より8単位、演習より8単位、英語学分野より4単位、計20単位を必修とする。 米文学で修士論文を提出する者：米文学分野の特論より8単位、演習より8単位、英語学分野より4単位、計20単位を必修とする。 英語学分野で修士論文を提出する者：英文学分野、米文学分野より4単位、英語学分野の特論より8単位、演習より8単位、計20単位を必修とする。															

教育課程等の概要

(文学研究科史学専攻修士課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
特別講義	歴史学講義(地域)	1・2前		2										兼1	オムニバス
	歴史学講義(超域)	1・2前		2					4						
	小計(2科目)	-	0	4	0	-	-	4	0	0	0	0	0	兼1	
特別演習	歴史学特別演習	1・2後	2						1					0	
	小計(1科目)	-	2	0	0	-	-	1	0	0	0	0	0	0	-
日本史	日本古代史研究	1・2前・後		2					1						
	日本中世史研究	1・2前・後		2					1						
	日本近現代史研究	1・2前・後		2											
	日本史研究	1・2前・後		2											
	日本古代史演習	1・2前・後		2					1						
	日本中世史演習	1・2前・後		2					1						
	日本近現代史演習	1・2前・後		2											
	日本史演習	1・2前・後		2											
小計(8科目)	-	0	16	0	-	-	2	0	0	0	0	0	0	-	
東洋史	東アジア史研究	1・2前・後		2					1						
	東南アジア史研究	1・2前・後		2					1						
	東洋史研究A	1・2前・後		2											
	東洋史研究B	1・2前・後		2											
	東アジア史演習	1・2前・後		2					1						
	東南アジア史演習	1・2前・後		2					1						
	東洋史演習	1・2前・後		2											
	小計(7科目)	-	0	14	0	-	-	2	0	0	0	0	0	0	-
西洋史	西洋古代史研究	1・2前・後		2										兼1	
	西洋近世史研究	1・2前・後		2					1						
	西洋近現代史研究	1・2前・後		2										兼1	
	西洋史研究A	1・2前		2										兼1	
	西洋史研究B	1・2後		2										兼1	
	西洋史研究C	1・2後		2										兼1	
	西洋古代史演習	1・2前・後		2					1						
	西洋近世史演習	1・2前・後		2					1						
	西洋近現代史演習	1・2前・後		2					1						
	西洋史演習	1・2前・後		2										兼2	
小計(10科目)	-	0	20	0	-	-	3	0	0	0	0	0	兼5	-	
(研究指導)	1~2	-						7							
合計(28科目)	-	2	54	0	-	-	7	0	0	0	0	0	兼6	-	
学位又は称号	修士(文学)	学位又は学科の分野	文学関係												
修了要件及び履修方法										授業期間等					
修了要件 2年以上在学し、専攻科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。										1学年の学期区分		2学期			
										1学期の授業期間		15週			
										1時限の授業時間		90分			
履修方法 提出する修士論文の研究分野に応じ、以下のとおりとする。 専攻全員：特別講義の「歴史学講義(地域)」あるいは「歴史学講義(超域)」より1科目2単位、特別演習の「歴史学特別演習」2単位を必修とする。 日本史で修士論文を提出する者：日本史分野の研究より4単位、演習より8単位、計12単位を必修とする。 東洋史で修士論文を提出する者：東洋史分野の研究より4単位、演習より8単位、計12単位を必修とする。 西洋史で修士論文を提出する者：西洋史分野の研究より4単位、演習より8単位、計12単位を必修とする。															

教育課程等の概要

(文学研究科社会学専攻修士課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
社会学	社会学研究(社会学理論)	1・2前・後		2					1						
	社会学研究(社会科学の歴史)	1・2前・後		2											
	社会学研究(社会統計学)	1・2前		2					1						
	社会学研究(知識社会学)	1・2後		2					1						
	社会学研究(労働社会学)	1・2前		2					1						
	社会学研究(福祉社会学)	1・2前・後		2					2						
	社会学研究(地域社会学)	1・2前・後		2											
	社会学研究(現代社会論)	1・2前・後		2						1					
	社会学研究(日本文化論)	1・2前・後		2											
	社会学研究(国際開発論)	1・2前・後		2					1						
	社会学研究(公共政策論)	1・2前		2					1	1					
	社会学演習(社会学理論)	1・2前・後		2						1					
	社会学演習(社会科学の歴史)	1・2前・後		2					1						
	社会学演習(社会統計学)	1・2前・後		2					1						
	社会学演習(知識社会学)	1・2前・後		2					1						
	社会学演習(労働社会学)	1・2前・後		2					1						
	社会学演習(福祉社会学)	1・2前・後		2					2						
	社会学演習(地域社会学)	1・2前・後		2											
	社会学演習(現代社会論)	1・2前・後		2						1					
	社会学演習(国際開発論)	1・2前・後		2					1						
社会学演習(公共政策論)	1・2後		2					1	1						
社会調査実習	1・2前		2					1					兼1		
(研究指導)	1～2	-						8	3						
合計(22科目)		-	0	44	0		-	8	3	0	0	0	兼1	-	
学位又は称号	修士(文学)	学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係										
修了要件及び履修方法										授業期間等					
修了要件 2年以上在学し、専攻科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。 履修方法 社会学研究より8単位、社会学演習より8単位、計16単位を必修とする。ただし、社会学研究8単位中には修士論文と対応して履修した社会学演習と同一領域の社会学研究4単位を含まなければならない。										1学年の学期区分		2学期			
										1学期の授業期間		15週			
										1時限の授業時間		90分			

教育課程等の概要

(文学研究科心理学専攻修士課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
認知心理学	認知心理学特論(知識)	1・2前		2													
	認知心理学特論(知識)	1・2後		2													
	認知心理学演習(知識)	1・2前		2													
	認知心理学演習(知識)	1・2後		2													
	認知心理学特論(記憶)	1・2前		2					1								
	認知心理学特論(記憶)	1・2後		2					1								
	認知心理学演習(記憶)	1・2前		2					1								
	認知心理学演習(記憶)	1・2後		2					1								
	知覚心理学特論	1・2		2													
	学習心理学特論	1・2		2													
	言語心理学特論	1・2後		2													
思考心理学特論	1・2		2														
小計(12科目)		-	0	24	0	-			1	0	0	0	0	0	-		
発達心理学	発達心理学特論	1・2前		2						1							
	発達心理学特論	1・2後		2						1							
	発達心理学演習	1・2前		2						1							
	発達心理学演習	1・2後		2						1							
	老年心理学特論	1・2後		2													
	家族心理学特論	1・2前		2											兼1		
	臨床発達心理実習1	1・2前		1						1							
	臨床発達心理実習2	1・2後		1					1								
小計(8科目)		-	0	14	0	-			1	1	0	0	0	兼1	-		
臨床心理学	臨床心理学特論1	1・2前		2					1								
	臨床心理学特論2	1・2後		2					1								
	臨床心理面接特論1	1・2前		2					1								
	臨床心理面接特論2	1・2後		2					1								
	臨床心理査定演習1	1・2前		2					1								
	臨床心理査定演習2	1・2後		2					1								
	障害者(児)心理学特論	1・2前		2											兼1		
	障害者(児)心理学特論	1・2後		2													
	障害者(児)心理学演習	1・2前		2													
	障害者(児)心理学演習	1・2後		2													
	投映法特論	1・2		2													
	心理療法特論	1・2後		2					1								
	家族療法・家族面接法特論	1・2後		2													
	学校臨床心理学特論	1・2前		2													
	精神医学特論	1・2前		2					1								
	精神保健学特論	1・2前		2					1								
	臨床心理基礎実習1	1前		1					1					兼1		オムニバス	
	臨床心理基礎実習2	1後		1					1					兼1		オムニバス	
臨床心理実習1	2前		1					3							オムニバス		
臨床心理実習2	2後		1					3							オムニバス		
小計(20科目)		-	0	36	0	-			5	0	0	0	0	兼2	-		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
社会心理学	社会心理学特論(対人行動)	1・2前		2					1						兼1	
	社会心理学特論(対人行動)	1・2後		2					1							
	社会心理学演習(対人行動)	1・2前		2					1							
	社会心理学演習(対人行動)	1・2後		2					1							
	社会心理学特論(集合行動)	1・2前		2												
	社会心理学特論(集合行動)	1・2後		2												
	社会心理学演習(集合行動)	1・2前		2												
	社会心理学演習(集合行動)	1・2後		2												
	集団力学特論	1・2		2												
	組織心理学特論	1・2		2												
	人間関係特論	1・2前		2												
文化心理学特論	1・2		2													
小計(12科目)		-	0	24	0	-			1	0	0	0	0	兼2	-	
心理学総合研究	心理学研究法特論	1・2前		1					2	1						
	心理学研究法特論	1・2後		1					2	1						
	臨床心理学研究法特論	1・2前		1					4						オムニバス	
	臨床心理学研究法特論	1・2後		1					4						オムニバス	
小計(4科目)		-	0	4	0	-			6	1	0	0	0	0	-	
(研究指導)		1~2	-						7	1						
合計(56科目)			-	0	102	0	-			7	1				兼5	-
学位又は称号	修士(文学)		学位又は学科の分野				文学関係									
修了要件及び履修方法										授業期間等						
修了要件										1学年の学期区分		2学期				
2年以上在学し、専攻科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。										1学期の授業期間		15週				
										1時限の授業時間		90分				
履修方法																
提出する修士論文の研究分野に応じ、以下のとおりとする。																
心理学分野で修士論文を提出する者：認知心理学分野より4単位、発達心理学分野及び臨床心理学分野(「障害者(児)心理学特論」、「障害者(児)心理学特論」、「障害者(児)心理学演習」、「障害者(児)心理学演習」、「家族療法・家族面接法特論」、「精神医学特論」、「精神保健学特論」)より4単位、社会心理学分野より4単位、心理学総合研究の「心理学研究法特論」、「心理学研究法特論」の計2単位、合計14単位を必修とする。ただし必修単位の中には、演習の単位を4単位含まなければならない。																
臨床心理学分野で修士論文を提出する者：認知心理学分野より4単位、臨床心理学分野の「臨床心理学特論1」、「臨床心理学特論2」、「臨床心理面接特論1」、「臨床心理面接特論2」、「臨床心理査定演習1」、「臨床心理査定演習2」の計12単位及び「臨床心理基礎実習1」、「臨床心理基礎実習2」、「臨床心理実習1」、「臨床心理実習2」の計4単位、社会心理学分野より4単位、心理学総合研究の「臨床心理学研究法特論」、「臨床心理学研究法特論」の計2単位、合計26単位を必修とする。																

教育課程等の概要

(現代文化研究科現代文化専攻修士課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
現代文化基礎論	国際コミュニケーションワークショップ	1・2前	2												兼1	
	国際コミュニケーションワークショップ	1・2後	2												兼1	
	文化動態論	1・2前		2					1							
	文化動態論	1・2後		2					1							
	地域発展論	1・2前		2												
	地域発展論	1・2後		2												
	現代思想論	1・2前		2												
	現代思想論	1・2後		2												
	エスニシティ論	1・2前		2					1							
	エスニシティ論	1・2後		2					1							
	ジェンダー論	1・2前		2					1							
	ジェンダー論	1・2後		2					1							
	女性学研究	1・2前		2					1							
	女性学研究	1・2後		2					1							
	社会言語論	1・2前		2					1							
	社会言語論	1・2後		2					1							
	比較文学論	1・2前		2												
	比較文学論	1・2後		2												
	国際関係論	1・2前		2					1							
	国際関係論	1・2後		2					1							
	現代文化基礎論演習(文化研究の方法)	1・2前		2					1							
	現代文化基礎論演習(文化研究の方法)	1・2後		2					1							
	現代文化基礎論演習(社会研究の方法)	1・2前		2												
	現代文化基礎論演習(社会研究の方法)	1・2後		2												
	現代文化基礎論演習(ジェンダー研究の方法)	1・2前		2					1							
	現代文化基礎論演習(ジェンダー研究の方法)	1・2後		2					1							
	現代文化基礎論演習(女性・ジェンダー史研究の方法)	1・2前		2					1							
現代文化基礎論演習(女性・ジェンダー史研究の方法)	1・2後		2					1								
現代文化基礎論演習(国際関係研究の方法)	1・2前		2					1								
現代文化基礎論演習(国際関係研究の方法)	1・2後		2					1								
小計(30科目)		-	4	56	0		-	7	0	0	0	0	0	兼1	-	
コミュニケーション論	マス・コミュニケーション論	1・2前		2					1							
	マス・コミュニケーション論	1・2後		2					1							
	メディアコミュニケーション論	1・2前		2					1							
	メディアコミュニケーション論	1・2後		2					1							
	広告コミュニケーション論	1・2前		2					1							
	広告コミュニケーション論	1・2後		2					1							
	メディアとジェンダー研究	1・2前		2					1							
	メディアとジェンダー研究	1・2後		2					1							
	マルチメディアと認知研究	1・2前		2					1							
	マルチメディアと認知研究	1・2後		2					1							
情報コミュニケーション論	1・2前		2					1								
情報コミュニケーション論	1・2後		2					1								

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	行動計量研究	1・2前		2											兼1	
	行動計量研究	1・2後		2												
	異文化コミュニケーション論	1・2前		2					1							
	異文化コミュニケーション論	1・2後		2					1							
	文化心理研究	1・2前		2					1							
	文化心理研究	1・2後		2					1							
	コミュニケーション研究演習(情報社会とメディア)	1・2前		2					1							
	コミュニケーション研究演習(情報社会とメディア)	1・2後		2					1							
	コミュニケーション研究演習(情報とコミュニケーション)	1・2前		2					1							
	コミュニケーション研究演習(情報とコミュニケーション)	1・2後		2					1							
	コミュニケーション研究演習(メディアと社会心理)	1・2前		2						1						
	コミュニケーション研究演習(メディアと社会心理)	1・2後		2						1						
	コミュニケーション研究演習(人間行動とコミュニケーション)	1・2前		2					1							
	コミュニケーション研究演習(人間行動とコミュニケーション)	1・2後		2					1							
	コミュニケーション研究演習(文化と心理)	1・2前		2					1							
	コミュニケーション研究演習(文化と心理)	1・2後		2					1							
	小計 (28科目)	-	0	56	0	-	-	-	7	1	0	0	0	0		
地 域 文 化 論	地域文化方法論	1・2前		2												
	地域文化方法論	1・2後		2												
	日本文化論	1・2前		2					1							
	日本文化論	1・2後		2					1							
	文化比較論(中国文化)	1・2前		2					1							
	文化比較論(中国文化)	1・2後		2					1							
	文化比較論(朝鮮文化)	1・2前		2					1							
	文化比較論(朝鮮文化)	1・2後		2					1							
	文化比較論(アメリカ政治文化)	1・2前		2					1							
	文化比較論(アメリカ政治文化)	1・2後		2					1							
	文化比較論(アメリカ大衆文化)	1・2前		2					1							
	文化比較論(アメリカ大衆文化)	1・2後		2					1							
	日本文化論演習	1・2前		2					1							
	日本文化論演習	1・2後		2					1							
	文化比較論演習(中国文化)	1・2前		2					1							
	文化比較論演習(中国文化)	1・2後		2					1							
	文化比較論演習(朝鮮文化)	1・2前		2					1							
文化比較論演習(朝鮮文化)	1・2後		2					1								
文化比較論演習(アメリカ政治文化)	1・2前		2					1								
文化比較論演習(アメリカ政治文化)	1・2後		2					1								
文化比較論演習(アメリカ大衆文化)	1・2前		2					1								
文化比較論演習(アメリカ大衆文化)	1・2後		2					1								
小計 (22科目)	-	0	44	0	-	-	-	5	0	0	0	0	0	0	-	
	言語文化研究(日本語)	1・2前		2					1						兼1 兼1	
	言語文化研究(日本語)	1・2後		2					1							
	言語文化研究(英語)	1・2前		2												
	言語文化研究(英語)	1・2後		2												
	言語文化研究(言語調査)	1・2前		2					1							
	言語文化研究(言語調査)	1・2後		2					1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
言語文化論	日英対照言語研究(言語構造)	1・2前		2					1						
	日英対照言語研究(言語構造)	1・2後		2					1						
	日英対照言語研究(翻訳)	1・2前		2						1					
	日英対照言語研究(翻訳)	1・2後		2						1					
	言語教育論(日本語教育)	1・2前		2					1						
	言語教育論(日本語教育)	1・2後		2					1						
	言語教育論(英語教育)	1・2前		2					1						
	言語教育論(英語教育)	1・2後		2					1						
	言語文化研究演習(日本語)	1・2前		2					1						
	言語文化研究演習(日本語)	1・2後		2					1						
	言語文化研究演習(英語)	1・2前		2											
	言語文化研究演習(英語)	1・2後		2											
	言語文化研究演習(言語調査)	1・2前		2					1						
	言語文化研究演習(言語調査)	1・2後		2					1						
	日英対照言語研究演習(言語構造)	1・2前		2					1						
	日英対照言語研究演習(言語構造)	1・2後		2					1						
	日英対照言語研究演習(翻訳)	1・2前		2						1					
	日英対照言語研究演習(翻訳)	1・2後		2						1					
	言語教育論演習(日本語教育)	1・2前		2						1					
	言語教育論演習(日本語教育)	1・2後		2						1					
言語教育論演習(英語教育)	1・2前		2					1							
言語教育論演習(英語教育)	1・2後		2					1							
小計(28科目)	-	0	56	0	-	-	-	7	2	0	0	0	兼1	-	
(研究指導)	1~2	-						23	3						
合計(108科目)	-	4	212	0	-	-	-	24	3	0	0	0	兼3	-	
学位又は称号	修士(学術)	学位又は学科の分野					文学関係、社会学・社会福祉学関係、法学関係								
修了要件及び履修方法										授業期間等					
修了要件										1学年の学期区分		2学期			
2年以上在学し、専攻科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。										1学期の授業期間		15週			
										1時限の授業時間		90分			
履修方法															
提出する修士論文の研究分野に応じ、以下のとおりとする。															
現代文化基礎論で修士論文を提出する者：現代文化基礎論分野の「国際コミュニケーションワークショップ」、「国際コミュニケーションワークショップ」各2単位、講義科目より8単位、演習科目より4単位、合計16単位を必修とする。															
コミュニケーション論で修士論文を提出する者：現代文化基礎論分野の「国際コミュニケーションワークショップ」、「国際コミュニケーションワークショップ」各2単位、講義科目より4単位、コミュニケーション論分野の講義科目より4単位、演習科目より4単位、合計16単位を必修とする。															
地域文化論で修士論文を提出する者：現代文化基礎論分野の「国際コミュニケーションワークショップ」、「国際コミュニケーションワークショップ」各2単位、講義科目より4単位、地域文化論分野の講義科目より4単位、演習科目より4単位、合計16単位を必修とする。															
言語文化論で修士論文を提出する者：現代文化基礎論分野の「国際コミュニケーションワークショップ」、「国際コミュニケーションワークショップ」各2単位、講義科目より4単位、言語文化論分野の講義科目より4単位、演習科目より4単位、合計16単位を必修とする。															

教 育 課 程 等 の 概 要

(現代教養学部人文学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基盤講義	人文学入門	1 前	2						3						兼1	哲学専攻は 必修 哲学専攻は 2単位必修 哲学専攻は 6単位必修 日本文学専攻は 必修 日本文学専攻は 12単位必修 英語文学文化専攻 は4単位必修 史学専攻は 必修 日本文学専攻の学生は、 「*」印の範囲において8 単位を修得しなければならない。ただし、選択必修 科目の単位として修得し た単位を除く。
	哲学入門	1 前		2					1						兼1	
	哲学入門	1 後		2					1						兼1	
	哲学概論	2 前		2					1						兼1	
	倫理学概論	2・3 後		2					1						兼1	
	美学概論	2・3 後		2					1						兼1	
	キリスト教学概論	2・3 前		2											兼1	
	西洋哲学史A	2・3 前		2											兼1	
	西洋哲学史A	2・3 後		2											兼1	
	西洋哲学史B	2・3 前		2					1						兼1	
	西洋哲学史B	2・3 後		2					1						兼1	
	キリスト教史	2・3 後		2											兼1	
	東洋思想史	2・3 前		2											兼1	
	日本語史入門	1 前後		2					1						兼1	
	日本語文法入門	1 前後		2											兼1	
	日本古典文学入門	1 前後		2					1						兼1	
	日本近現代文学入門	1 前後		2						1					兼1	
	漢文学入門	1 前後		2					1						兼1	
	日本語学概論	1・2・3 前		2											兼1	
	日本語学概論	1・2・3 後		2											兼1	
	日本語史概論	1・2・3 前		2											兼1	
	日本語史概論	1・2・3 後		2											兼1	
	日本文学概論(古典)	1・2・3 前		2					1						兼1	
	日本文学概論(古典)	1・2・3 後		2					1						兼1	
	日本文学概論(近現代)	1・2・3 前		2											兼1	
	日本文学概論(近現代)	1・2・3 後		2											兼1	
	中国文学概論	1・2・3 前		2					1						兼1	
	中国文学概論	1・2・3 後		2					1						兼1	
	中国語学概論	1・2・3 前		2											兼1	
	中国語学概論	1・2・3 後		2											兼1	
	日本文化学概論	1・2・3 前		2					1						兼1	
	日本文化学概論	1・2・3 後		2					1						兼1	
英語学基礎論(ことばと社会)	2 前		2					1						兼1		
英語学基礎論(ことばのしくみ)	2 後		2											兼1		
英語文学・文化基礎論A	2 前		2							1				兼1		
英語文学・文化基礎論A	2 後		2							1				兼1		
英語文学・文化基礎論B	2 前		2								1			兼1		
英語文学・文化基礎論B	2 後		2								1			兼1		
史学概論	2 前		2					1						兼1		
日本史概説	1・2 前		2					1						兼1		
日本史概説	1・2 後		2											兼1		
東洋史概説	1・2 前		2					1						兼1		
東洋史概説	1・2 後		2					1						兼1		
西洋史概説	1・2 前		2					1						兼1		
西洋史概説	1・2 後		2											兼1		
小計(45科目)	-		2	88	0			-	14	1	2	0	0	兼11		
特殊講義	哲学特論(存在論)A	2・3・4 前		2					1							「哲学特論(存在論)A ,A」と 「哲学特論(存在論)B ,B」を交互に開講
	哲学特論(存在論)A	2・3・4 後		2					1							
	哲学特論(存在論)B	2・3・4 前		2					1							
	哲学特論(存在論)B	2・3・4 後		2					1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	哲学特論(生命論)A	2・3・4 前		2					1							
	哲学特論(生命論)A	2・3・4 後		2					1							『哲学特論(生命論)A ,A』と『哲学特論(生命論)B ,B』を交互に開講
	哲学特論(生命論)B	2・3・4 前		2					1							
	哲学特論(生命論)B	2・3・4 後		2					1							
	哲学特論(科学論)A	2・3・4 前		2										兼1		『哲学特論(科学論)A ,A』と『哲学特論(科学論)B ,B』を交互に開講
	哲学特論(科学論)A	2・3・4 後		2										兼1		
	哲学特論(科学論)B	2・3・4 前		2					1							
	哲学特論(科学論)B	2・3・4 後		2					1							
	倫理学特論A	2・3・4 前		2										兼1		『倫理学特論A ,A』と『倫理学特論B ,B』を交互に開講
	倫理学特論A	2・3・4 後		2										兼1		
	倫理学特論B	2・3・4 前		2										兼1		
	倫理学特論B	2・3・4 後		2										兼1		
	美学特論A	2・3・4 前		2					1							『美学特論A ,A』と『美学特論B ,B』を交互に開講
	美学特論A	2・3・4 後		2					1							
	美学特論B	2・3・4 前		2										兼1		
	美学特論B	2・3・4 後		2										兼1		
	キリスト教学特論A	2・3・4 前		2					1							『キリスト教学特論A ,A』と『キリスト教学特論B ,B』を交互に開講
	キリスト教学特論A	2・3・4 後		2					1							
	キリスト教学特論B	2・3・4 前		2					1							
	キリスト教学特論B	2・3・4 後		2					1							
	思想史特論A	2・3・4 前		2										兼1		『思想史特論A ,A』と『思想史特論B ,B』を交互に開講
	思想史特論A	2・3・4 後		2										兼1		
	思想史特論B	2・3・4 前		2					1							
	思想史特論B	2・3・4 後		2										兼1		
	思想史特論C	2・3・4 前		2										兼1		『思想史特論C ,C』を毎年1組開講(3年で一巡)
	思想史特論C	2・3・4 後		2										兼1		
	現代日本語(語彙・表記)A	2・3・4 前		2										兼1		『現代日本語(語彙・表記)A ,A』と『現代日本語(語彙・表記)B ,B』を交互に開講(3年で一巡)
	現代日本語(語彙・表記)A	2・3・4 後		2										兼1		
	現代日本語(語彙・表記)B	2・3・4 前		2										兼1		
	現代日本語(語彙・表記)B	2・3・4 後		2										兼1		
	現代日本語(語彙・表記)C	2・3・4 前		2										兼1		『現代日本語(語彙・表記)C ,C』を毎年1組開講(3年で一巡)
	現代日本語(語彙・表記)C	2・3・4 後		2										兼1		
	現代日本語(文法・談話)A	2・3・4 前		2										兼1		『現代日本語(文法・談話)A ,A』と『現代日本語(文法・談話)B ,B』を交互に開講(3年で一巡)
	現代日本語(文法・談話)A	2・3・4 後		2										兼1		
	現代日本語(文法・談話)B	2・3・4 前		2										兼1		
	現代日本語(文法・談話)B	2・3・4 後		2										兼1		
	現代日本語(文法・談話)C	2・3・4 前		2										兼1		『現代日本語(文法・談話)C ,C』を毎年1組開講(3年で一巡)
	現代日本語(文法・談話)C	2・3・4 後		2										兼1		
	日本語史(古代中世)A	2・3・4 前		2										兼1		『日本語史(古代中世)A ,A』と『日本語史(古代中世)B ,B』を交互に開講(3年で一巡)
	日本語史(古代中世)A	2・3・4 後		2										兼1		
	日本語史(古代中世)B	2・3・4 前		2										兼1		
	日本語史(古代中世)B	2・3・4 後		2										兼1		
	日本語史(古代中世)C	2・3・4 前		2										兼1		『日本語史(古代中世)C ,C』を毎年1組開講(3年で一巡)
	日本語史(古代中世)C	2・3・4 後		2										兼1		
	日本語史(中近世)A	2・3・4 前		2					1							『日本語史(中近世)A ,A』と『日本語史(中近世)B ,B』を交互に開講(3年で一巡)
	日本語史(中近世)A	2・3・4 後		2					1							
	日本語史(中近世)B	2・3・4 前		2					1							
	日本語史(中近世)B	2・3・4 後		2					1							
	日本語史(中近世)C	2・3・4 前		2					1							『日本語史(中近世)C ,C』を毎年1組開講(3年で一巡)
	日本語史(中近世)C	2・3・4 後		2					1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	日本文学(上代)A	2・3・4 前		2					1						* を毎年1組開講(3年で一巡) 「日本文学(上代)A・A」 「日本文学(上代)B・B」 「日本文学(上代)C・C」 を毎年1組開講(3年で一巡) 「日本文学(中古)A・A」 「日本文学(中古)B・B」 「日本文学(中古)C・C」 を毎年1組開講(3年で一巡) 「日本文学(中世)A・A」 「日本文学(中世)B・B」 「日本文学(中世)C・C」 を毎年1組開講(3年で一巡) 「日本文学(近世)A・A」 「日本文学(近世)B・B」 「日本文学(近世)C・C」 を毎年1組開講(3年で一巡) 「日本文学(近現代)A・A」 「日本文学(近現代)B・B」 「日本文学(近現代)C・C」 を毎年1組開講(3年で一巡) 「日本文学(近現代)A・A」 「日本文学(近現代)B・B」 「日本文学(近現代)C・C」 を毎年1組開講(3年で一巡) 「中国文学A・A」 「中国文学B・B」 「中国文学C・C」 「言語学」と「英語史」を交互に開講 英語文学文化専攻は4単位必修
	日本文学(上代)A	2・3・4 後		2					1						
	日本文学(上代)B	2・3・4 前		2					1						
	日本文学(上代)B	2・3・4 後		2					1						
	日本文学(上代)C	2・3・4 前		2					1						
	日本文学(上代)C	2・3・4 後		2					1						
	日本文学(中古)A	2・3・4 前		2					1						
	日本文学(中古)A	2・3・4 後		2					1						
	日本文学(中古)B	2・3・4 前		2					1						
	日本文学(中古)B	2・3・4 後		2					1						
	日本文学(中古)C	2・3・4 前		2					1						
	日本文学(中古)C	2・3・4 後		2					1						
	日本文学(中世)A	2・3・4 前		2									兼1		
	日本文学(中世)A	2・3・4 後		2									兼1		
	日本文学(中世)B	2・3・4 前		2									兼1		
	日本文学(中世)B	2・3・4 後		2									兼1		
	日本文学(中世)C	2・3・4 前		2									兼1		
	日本文学(中世)C	2・3・4 後		2									兼1		
	日本文学(近世)A	2・3・4 前		2					1						
	日本文学(近世)A	2・3・4 後		2					1						
	日本文学(近世)B	2・3・4 前		2									兼1		
	日本文学(近世)B	2・3・4 後		2									兼1		
	日本文学(近世)C	2・3・4 前		2					1						
	日本文学(近世)C	2・3・4 後		2					1						
	日本文学(近現代)A	2・3・4 前		2						1					
	日本文学(近現代)A	2・3・4 後		2						1					
	日本文学(近現代)B	2・3・4 前		2						1					
	日本文学(近現代)B	2・3・4 後		2						1					
	日本文学(近現代)C	2・3・4 前		2						1					
	日本文学(近現代)C	2・3・4 後		2						1					
	日本文学A	2・3・4 前		2					1						
	日本文学A	2・3・4 後		2					1						
	日本文学B	2・3・4 前		2									兼1		
	日本文学B	2・3・4 後		2									兼1		
	日本文学C	2・3・4 前		2					1						
	日本文学C	2・3・4 後		2					1						
	中国文学A	2・3・4 前		2									兼1		
	中国文学A	2・3・4 後		2									兼1		
	中国文学B	2・3・4 前		2									兼1		
	中国文学B	2・3・4 後		2									兼1		
	中国文学C	2・3・4 前		2									兼1		
	中国文学C	2・3・4 後		2									兼1		
	言語情報処理	2・3・4 前		2									兼1		
	言語情報処理	2・3・4 後		2									兼1		
	創作論	2・3・4 前		2									兼1		
	創作論	2・3・4 後		2									兼1		
	言語文化論	2・3・4 後		2									兼1		
	言語学	3・4 前		2									兼1		
	言語学	3・4 後		2									兼1		
	英語史	3・4 前		2					1						
	英語史	3・4 後		2					1						
	英文学史	3・4 前		2									兼1		
	英文学史	3・4 後		2									兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	米文学史	3・4 前		2					1							
	米文学史	3・4 後		2					1							
	英語学(英語の構造)	3・4 前		2										兼1		「英語学(英語の構造)」と「英語学(英語の歴史)」を交互に開講
	英語学(英語の構造)	3・4 後		2										兼1		
	英語学(英語の歴史)	3・4 前		2					1							
	英語学(英語の歴史)	3・4 後		2					1							
	英語学(英語の意味)	3・4 前		2										兼1		
	英語学(英語の意味)	3・4 後		2										兼1		
	英語学(英語の諸相)	3・4 前		2										兼1		
	英語学(英語の諸相)	3・4 後		2										兼1		
	英語学(意味論)	2・3・4 前		2										兼1		
	英語学(語用論)	2・3・4 後		2										兼1		
	英語文学(詩)	3・4 前		2					1							「英語文学演習(詩)」と交互に開講
	英語文学(詩)	3・4 後		2					1							
	英語文学(演劇)A	3・4 前		2										兼1		「英語文学(演劇)A」, A「英語文学(演劇)B」, Bを交互に開講
	英語文学(演劇)A	3・4 後		2										兼1		
	英語文学(演劇)B	3・4 前		2										兼1		
	英語文学(演劇)B	3・4 後		2										兼1		
	英語文学(小説)A	3・4 前		2						1						
	英語文学(小説)A	3・4 後		2						1						
	英語文学(小説)B	3・4 前		2					1							
	英語文学(小説)B	3・4 後		2					1							
	英語文学(小説)C	3・4 前		2					1							「英語文学(小説)C」, C「英語文学(小説)D」, Dを交互に開講
	英語文学(小説)C	3・4 後		2					1							
	英語文学(小説)D	3・4 前		2							1					
	英語文学(小説)D	3・4 後		2							1					
	英語文学(児童文学)	3・4 前		2										兼1		
	英語文学(児童文学)	3・4 後		2										兼1		
	英語文学(評論)	3・4 前		2						1						「英語文学演習(評論)」と交互に開講
	英語文学(評論)	3・4 後		2							1					
	英語文学・文化A	3・4 前		2						1						「英語文学・文化A」, A「英語文学・文化B」, Bを交互に開講
	英語文学・文化A	3・4 後		2						1						
	英語文学・文化B	3・4 前		2					1							
	英語文学・文化B	3・4 後		2					1							
	英語学(英語と文化)A	2・3・4 前		2										兼1		
	英語学(英語と文化)B	2・3・4 後		2										兼1		
	異文化理解	2・3・4 前		2					1							
	異文化理解	2・3・4 後		2					1							
	翻訳研究(翻訳と異文化理解)	2・3・4 前		2										兼1		
	翻訳研究(異文化摩擦の諸相)	2・3・4 後		2										兼1		
	日本古代史	2・3・4 前		2										兼1		史学専攻は6単位必修
	日本中世史	2・3・4 前		2					1					兼1		
	日本近世史	2・3・4 前		2										兼1		
	日本近現代史	2・3・4 前		2										兼1		
	中国史	2・3・4 前		2					1							
	アジア史	2・3・4 前		2					1							
	ギリシア・ローマ史	2・3・4 前		2										兼1		
	アメリカ史	2・3・4 前		2										兼1		
	イギリス史	2・3・4 前		2										兼1		
	ドイツ史	2・3・4 前		2					1							
	日本史特論(古代)A	2・3・4 後		2					1							毎年1科目開講(3年で一巡)
	日本史特論(古代)B	2・3・4 後		2					1							
	日本史特論(古代)C	2・3・4 後		2					1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	日本史特論(中世)A	2・3・4 後		2									兼1	史学専攻は 6単位必修	毎年1科目開講(3年で一巡)	
	日本史特論(中世)B	2・3・4 後		2									兼1			
	日本史特論(中世)C	2・3・4 後		2									兼1			
	日本史特論(近世)A	2・3・4 後		2									兼1			
	日本史特論(近世)B	2・3・4 後		2									兼1			
	日本史特論(近世)C	2・3・4 後		2									兼1			
	日本史特論(近現代)A	2・3・4 後		2									兼1			
	日本史特論(近現代)B	2・3・4 後		2									兼1			
	日本史特論(近現代)C	2・3・4 後		2									兼1			
	東洋史特論(中国)A	2・3・4 後		2					1							毎年1科目開講(3年で一巡)
	東洋史特論(中国)B	2・3・4 後		2					1							
	東洋史特論(中国)C	2・3・4 後		2					1							
	東洋史特論(アジア)A	2・3・4 後		2								兼1				毎年1科目開講(3年で一巡)
	東洋史特論(アジア)B	2・3・4 後		2					1							
	東洋史特論(アジア)C	2・3・4 後		2					1							
	西洋史特論(古代)A	2・3・4 後		2									兼1			毎年1科目開講(3年で一巡)
	西洋史特論(古代)B	2・3・4 後		2									兼1			
	西洋史特論(古代)C	2・3・4 後		2									兼1			
	西洋史特論(中世)A	2・3・4 前		2									兼1			毎年1科目開講(3年で一巡)
	西洋史特論(中世)B	2・3・4 前		2									兼1			
	西洋史特論(中世)C	2・3・4 前		2									兼1			
	西洋史特論(近世)A	2・3・4 後		2									兼1			毎年1科目開講(3年で一巡)
	西洋史特論(近世)B	2・3・4 後		2									兼1			
	西洋史特論(近世)C	2・3・4 後		2									兼1			
	西洋史特論(近現代)A	2・3・4 後		2					1							毎年1科目開講(3年で一巡)
	西洋史特論(近現代)B	2・3・4 後		2					1							
	西洋史特論(近現代)C	2・3・4 後		2								兼1				
	美術史(日本)	2・3・4 前		2									兼1			毎年1科目開講(3年で一巡)
	美術史(東洋)	2・3・4 前		2									兼1			
	美術史(西洋)	2・3・4 前		2									兼1			
	考古学(日本)	2・3・4 後		2									兼1	毎年1科目開講(3年で一巡)		
	考古学(東洋)	2・3・4 後		2									兼1			
	考古学(西洋)	2・3・4 後		2					1							
	歴史学特別講義A	3・4 後		2									兼1	年度ごとに交互に開講		
	歴史学特別講義B	3・4 後		2									兼1			
	小計(195科目)	-	0	390	0	-			20	2	1	0	0	兼39		
基盤演習	人文学基礎演習	1 前後	2						9	1	1			兼2	哲学専攻は 必修	毎年1科目開講(3年で一巡)
	哲学基礎演習	1 後	2						1							
	2年次演習(哲学)	2 前	2						1							
	2年次演習(哲学)	2 後	2						1							
	日本語学演習(現代語)A	2・3 通	4										兼1	毎年1科目開講(3年で一巡)		
	日本語学演習(現代語)B	2・3 通	4										兼1			
	日本語学演習(現代語)C	2・3 通	4										兼1			
	日本語学演習(日本語史)A	2・3 通	4										兼1	毎年1科目開講(3年で一巡)		
	日本語学演習(日本語史)B	2・3 通	4										兼1			
	日本語学演習(日本語史)C	2・3 通	4						1							
	日本文学演習(古典)A	2・3 通	4										兼1	毎年1科目開講(3年で一巡)		
	日本文学演習(古典)B	2・3 通	4										兼1			
	日本文学演習(古典)C	2・3 通	4										兼1			
	日本文学演習(上代)A	2・3 通	4							1				毎年1科目開講(3年で一巡)		
日本文学演習(上代)B	2・3 通	4							1							
日本文学演習(上代)C	2・3 通	4							1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	日本文学演習(中古)A	2・3 通	4										兼1	日本文学専攻は 4単位必修	* 毎年1科目開講(3年で一巡)
	日本文学演習(中古)B	2・3 通	4										兼1		
	日本文学演習(中古)C	2・3 通	4					1							
	日本文学演習(中世)A	2・3 通	4										兼1		
	日本文学演習(中世)B	2・3 通	4										兼1		
	日本文学演習(中世)C	2・3 通	4										兼1		
	日本文学演習(近世)A	2・3 通	4					1							
	日本文学演習(近世)B	2・3 通	4					1							
	日本文学演習(近世)C	2・3 通	4					1							
	日本文学演習(近代)A	2・3 通	4										兼1		
	日本文学演習(近代)B	2・3 通	4										兼1		
	日本文学演習(近代)C	2・3 通	4										兼1		
	日本文学演習(現代)A	2・3 通	4						1						
	日本文学演習(現代)B	2・3 通	4						1						
	日本文学演習(現代)C	2・3 通	4						1						
	日本文学演習A	2・3 通	4					1							
	日本文学演習B	2・3 通	4										兼1		
	日本文学演習C	2・3 通	4					1							
	中国文学演習(古典)A	2・3 通	4					1							
	中国文学演習(古典)B	2・3 通	4										兼1		
	中国文学演習(古典)C	2・3 通	4					1							
	中国文学演習(近現代)A	2・3 通	4										兼1		
	中国文学演習(近現代)B	2・3 通	4										兼1		
	中国文学演習(近現代)C	2・3 通	4										兼1		
	Freshman English Seminar	1 前	2										兼5		
	Freshman English Seminar	1 後	2										兼5		
	英語音声学	2 前	2					1					兼4		
	英語音声学	2 後	2										兼1		
	Sophomore Reading & Writing	2 前	2										兼5		
	Sophomore Reading & Writing	2 後	2										兼5		
	英文法(知識と実践)	2 通	4										兼5		
	英語学基礎演習	1 前	2					1					兼1		
	英語学基礎演習	1 後	2					1					兼1		
	英語文学基礎演習	1 前	2						1				兼1		
	英語文学基礎演習	1 後	2						1				兼1		
	Presentation 基礎演習	2 前	2										兼2		
	Presentation 基礎演習	2 後	2										兼2		
	歴史学基礎演習	1 後	2					6					兼1		
	歴史学演習	2 前	2					6					兼1		
	日本史基礎演習(古代)	2 後	2					1							
	日本史基礎演習(中世)	2 後	2					1							
	日本史基礎演習(近世)	2 後	2										兼1		
	日本史基礎演習(近現代)	2 後	2										兼1		
	東洋史基礎演習(中国)	2 後	2					1							
	東洋史基礎演習(アジア)	2 後	2					1							
	西洋史基礎演習(古代)	2 後	2					1							
	西洋史基礎演習(中世)	2 後	2										兼1		
	西洋史基礎演習(近世)	2 後	2										兼1		
	西洋史基礎演習(近現代)	2 後	2					1							
	歴史民俗調査A	2・3 後	2										兼1		
	歴史民俗調査B	2・3 後	2										兼1		
	小計(67科目)	-	2	206	0			-	17	2	1	0	0	兼29	年度ごとに交互に開講

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
発展演習	哲学演習(英語文献)A	3・4通	4						1						哲学専攻は4単位	年度ごとに交互に開講		
	哲学演習(英語文献)B	3・4通	4						1									
	哲学演習(独語文献)A	3・4通	4						1									
	哲学演習(独語文献)B	3・4通	4						1									
	哲学演習(仏語文献)A	3・4通	4						1									
	哲学演習(仏語文献)B	3・4通	4						1									
	哲学演習(西洋古典語文献)A	3・4通	4											兼1				
	哲学演習(西洋古典語文献)B	3・4通	4											兼1				
	倫理学演習A	3・4通	4						1								哲学専攻は8単位必修(印の4単位を含む)	年度ごとに交互に開講
	倫理学演習B	3・4通	4						1									
	美学演習A	3・4通	4						1									
	美学演習B	3・4通	4						1									
	キリスト教学演習A	3・4通	4											兼1			年度ごとに交互に開講	
	キリスト教学演習B	3・4通	4											兼1				
	思想史演習A	3・4通	4						1					兼1	年度ごとに交互に開講			
	思想史演習B	3・4通	4											兼1				
	3年次演習(現代日本語)	3通	4											兼1	日本文学専攻は4単位必修	年度ごとに交互に開講		
	3年次演習(日本語史)	3通	4						1									
	3年次演習(日本古代文学)	3通	4						1									
	3年次演習(日本中近世文学)	3通	4						1									
	3年次演習(日本近現代文学)A	3通	4						1									
	3年次演習(日本近現代文学)B	3通	4							1								
	3年次演習(中国文学)	3通	4						1									
	Junior Composition	3通	4						1								兼5	
	Comprehensive English ProgramA	2・3・4前	1												兼1	「Comprehensive English ProgramA ,A」と「Comprehensive English ProgramB ,B」を交互に開講		
	Comprehensive English ProgramA	2・3・4後	1												兼1			
	Comprehensive English ProgramB	2・3・4前	1												兼1			
	Comprehensive English ProgramB	2・3・4後	1												兼1			
	Grammar and Writing A	2・3・4前	2						1							年度ごとに交互に開講		
	Grammar and Writing B	2・3・4後	2						1									
	Creative Writing A	3・4前	2											兼1	年度ごとに交互に開講			
	Creative Writing B	3・4後	2						1									
	英語学演習(英語の構造)	3・4通	4							1					年度ごとに交互に開講			
英語学演習(英語の歴史)	3・4通	4							1									
英語学演習(英語の意味)	3・4通	4												兼1	年度ごとに交互に開講			
英語学演習(英語の諸相)	3・4通	4												兼1				
2年次Shakespeare演習	2通	4												兼1	年度ごとに交互に開講			
英語文学演習(詩)	3・4通	4						1										
英語文学演習(演劇)A	3・4通	4												兼1	年度ごとに交互に開講			
英語文学演習(演劇)B	3・4通	4												兼1				
英語文学演習(小説)A	3・4通	4												兼1	年度ごとに交互に開講			
英語文学演習(小説)B	3・4通	4												兼1				
英語文学演習(小説)C	3・4通	4												兼1	年度ごとに交互に開講			
英語文学演習(小説)D	3・4通	4								1								
英語文学演習(評論)	3・4通	4						1						兼1	年度ごとに交互に開講			
英語文学・文化演習A	3・4通	4												兼1				
英語文学・文化演習B	3・4通	4												兼1	年度ごとに交互に開講			
日本史演習(古代)A1	3・4前	2						1						「日本史演習(古代)A1, A2」と「日本史演習(古代)B1, B2」を交互に開講				
日本史演習(古代)A2	3・4後	2						1										
日本史演習(古代)B1	3・4前	2						1										
日本史演習(古代)B2	3・4後	2						1										

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	日本史演習(中世)A1	3・4前	2					1						史学専攻は 4単位必修 史学専攻は必修	
	日本史演習(中世)A2	3・4後	2					1							
	日本史演習(中世)B1	3・4前	2					1							
	日本史演習(中世)B2	3・4後	2					1							
	日本史演習(近世)A1	3・4前	2										兼1		
	日本史演習(近世)A2	3・4後	2										兼1		
	日本史演習(近世)B1	3・4前	2										兼1		
	日本史演習(近世)B2	3・4後	2										兼1		
	日本史演習(近現代)A1	3・4前	2										兼1		
	日本史演習(近現代)A2	3・4後	2										兼1		
	日本史演習(近現代)B1	3・4前	2										兼1		
	日本史演習(近現代)B2	3・4後	2										兼1		
	東洋史演習(中国)A1	3・4前	2						1						
	東洋史演習(中国)A2	3・4後	2						1						
	東洋史演習(中国)B1	3・4前	2						1						
	東洋史演習(中国)B2	3・4後	2						1						
	東洋史演習(アジア)A1	3・4前	2						1						
	東洋史演習(アジア)A2	3・4後	2						1						
	東洋史演習(アジア)B1	3・4前	2						1						
	東洋史演習(アジア)B2	3・4後	2						1						
	西洋史演習(古代)A1	3・4前	2												兼1
	西洋史演習(古代)A2	3・4後	2												兼1
	西洋史演習(古代)B1	3・4前	2						1						
	西洋史演習(古代)B2	3・4後	2						1						
	西洋史演習(中世)A1	3・4前	2												兼1
	西洋史演習(中世)A2	3・4後	2												兼1
	西洋史演習(中世)B1	3・4前	2												兼1
	西洋史演習(中世)B2	3・4後	2												兼1
	西洋史演習(近世)A1	3・4前	2												兼1
	西洋史演習(近世)A2	3・4後	2												兼1
西洋史演習(近世)B1	3・4前	2											兼1		
西洋史演習(近世)B2	3・4後	2											兼1		
西洋史演習(近現代)A1	3・4前	2											兼1		
西洋史演習(近現代)A2	3・4後	2											兼1		
西洋史演習(近現代)B1	3・4前	2						1							
西洋史演習(近現代)B2	3・4後	2						1							
4年次演習(史学)	4前	2						6						兼4	
小計(88科目)	-	0	250	0	-			20	1	1	0	0	兼26		
特殊演習	4年次特殊演習(哲学)	4通	4					4						哲学専攻は必修 日本文学専攻は必修 英語文学文化専攻は必修 史学専攻は必修	
	4年次特殊演習(日本文学)	4通	4					6	1						
	3年次特殊演習(英語文学文化)	3通	4					2		1					
	4年次特殊演習(英語文学文化)	4通	4					4							
	3年次特殊演習(史学)	3後	2					6							
	4年次特殊演習(史学)	4後	2					6							
	小計(6科目)	-	0	20	0	-			20	1	1	0	0		兼9
卒業論文	卒業論文	4通	8					20	1					8単位必修	
	Final Presentation	4通	8										兼1		
	小計(2科目)	-	0	16	0	-			20	1			兼11		
学科合計(403科目)		-	4	970	0	-			22	2	2	0	0	兼78	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
以下は全学共通カリキュラム等															
共通科目	(自然と生命)														
	自然科学と人間A	1・2・3・4 前	2			○								兼1	隔年開講
	自然科学と人間B	1・2・3・4 後	2			○								兼1	
	科学技術と人間	1・2・3・4 後	2			○								兼1	
	数学の世界	1・2・3・4 前	2			○								兼1	
	現代の数学とその応用	1・2・3・4 後	2			○								兼1	
	統計学入門	1・2・3・4 前	2			○								兼1	
	統計学入門	1・2・3・4 後	2			○								兼1	
	宇宙の科学	1・2・3・4 前	2			○								兼1	
	地球の科学	1・2・3・4 後	2			○								兼1	
	エネルギーの科学	1・2・3・4 後	2			○								兼1	
	物質の科学	1・2・3・4 後	2			○								兼1	隔年開講
	生命の科学A(生命と物質)	1・2・3・4 前	2			○								兼1	
	生命の科学B(生命と生体)	1・2・3・4 後	2			○								兼1	
	地球環境と人間	1・2・3・4 前	2			○								兼1	
	生物と環境A(動物と環境)	1・2・3・4 前	2			○								兼1	
	生物と環境B(植物と環境)	1・2・3・4 前	2			○								兼1	
	環境と社会A	1・2・3・4 前	2			○								兼1	
	環境と社会B	1・2・3・4 後	2			○								兼1	
	人の起源と進化	1・2・3・4 前	2			○								兼1	
	進化生物学入門	1・2・3・4 後	2			○								兼1	
	自然と人間	1・2・3・4 前	2			○								兼1	
	脳の科学	1・2・3・4 後	2			○								兼1	
	遺伝の科学 (遺伝のしくみ)	1・2・3・4 前	2			○								兼1	
	遺伝の科学 (遺伝子工学)	1・2・3・4 後	2			○								兼1	
	からだの科学	1・2・3・4 前	2			○								兼1	
	身体適応の科学A(環境適応)	1・2・3・4 前	2			○								兼1	
	身体適応の科学B(運動適応)	1・2・3・4 後	2			○								兼1	
	(人間と思想)														
	心理学入門	1・2・3・4 前後	2			○									兼2
	精神保健A	1・2・3・4 前	2			○									兼1
	精神保健B	1・2・3・4 後	2			○									兼1
	比較行動学A	1・2・3・4 前	2			○									兼1
比較行動学B	1・2・3・4 後	2			○									兼1	
心理学と現代社会A	1・2・3・4 前	2			○									兼1	
心理学と現代社会B	1・2・3・4 前	2			○									兼1	
教育と現代社会	1・2・3・4 前	2			○									兼1	
女性学・ジェンダー入門	1・2・3・4 前後	2			○									兼1	
ジェンダーと社会A	1・2・3・4 前	2			○									兼1	
ジェンダーと社会B	1・2・3・4 後	2			○									兼1	
総合講座(女性学・ジェンダー)A	1・2・3・4 前	2			○									兼6	
総合講座(女性学・ジェンダー)B	1・2・3・4 後	2			○									兼5	
論理学入門	1・2・3・4 前	2			○									兼1	
哲学と思想A	1・2・3・4 後	2			○									兼1	
哲学と思想B	1・2・3・4 前	2			○									兼1	
科学技術と倫理A	1・2・3・4 後	2			○									兼1	
科学技術と倫理B	1・2・3・4 後	2			○				1					兼1	
現代思想	1・2・3・4 後	2			○									兼1	
東洋思想	1・2・3・4 後	2			○									兼1	

共通科目の履修方法及び卒業要件
「自然と生命」、「人間と思想」、「文化と芸術」、「歴史と社会」の4領域からそれぞれ必ず各1科目2単位を含めて、演習、海外教養講座を除く4領域から16単位を修得しなければならない。

} 年度ごとに交互に開講

平成24年度は休講
平成24年度は休講

} 年度ごとに交互に開講

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	日本思想史	1・2・3・4 前		2		○								兼1	} 年度ごとに交互に開講
	キリスト教と諸宗教A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	キリスト教と諸宗教B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	宗教学	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	日本宗教史	1・2・3・4 後		2		○			1					兼1	
	宗教と現代社会A	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	宗教と現代社会B	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	比較思想	1・2・3・4 前		2		○			1					兼1	
	総合講座(比較思想)	1・2・3・4 後		2		○			1					兼2	
	(文化と芸術)														} とを年度ごとに交互に開講 } 年度ごとに交互に開講
	比較文化入門	1・2・3・4 前後		2		○								兼1	
	比較文化特論A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	比較文化特論B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	総合講座(比較文化)	1・2・3・4 前		2		○			2					兼1	
	総合講座(比較文化)	1・2・3・4 後		2		○			2					兼1	
	日本文化史A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	日本文化史B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	世界の文化A(ヨーロッパ)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	世界の文化B(イギリス・アメリカ)	1・2・3・4 前		2		○				1				兼1	
	世界の文化C(ラテンアメリカ)	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	世界の文化D(アジア)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	日本の文学A(古典文学)	1・2・3・4 後		2		○			1					兼1	
	日本の文学B(近代文学)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	日本の文学C(近代文学)	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	キリスト教と文学	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	女性と文芸	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	児童文学A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	児童文学B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	比較文学A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	比較文学B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	宗教音楽	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	音楽芸術	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	音楽史A	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	音楽史B	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	芸術論A(美術)	1・2・3・4 前		2		○			1					} 兼1	
	芸術論B(演劇)	1・2・3・4 前		2		○			1						
	芸術論C(映像芸術)	1・2・3・4 前		2		○									
	芸術論D(舞踊)	1・2・3・4 前		2		○									
	ことばの科学	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	ことばと社会A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	ことばと社会B	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	文章表現法	1・2・3・4 前後		2		○			1					兼1	
	日本語技法A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	日本語技法B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	日本語技法C	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	(歴史と社会)														
	日本国憲法入門	1・2・3・4 前後		2		○								兼3	
	公共政策と法	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	公共政策と法	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	市民社会と法	1・2・3・4 前		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考																																			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手																																				
	市民社会と法	1・2・3・4 後		2		○								兼1	}																																		
	国際社会と法	1・2・3・4 後		2		○								兼1		}																																	
	中心・周辺の歴史	1・2・3・4 後		2		○								兼1			}																																
	世界の地域と民族	1・2・3・4 前		2		○								兼1				}																															
	前近代史の諸相	1・2・3・4 後		2		○			1					兼1					}																														
	現代史の諸相	1・2・3・4 前		2		○								兼1						}																													
	人権発達史	1・2・3・4 前		2		○								兼1							}																												
	女性史A	1・2・3・4 後		2		○								兼1								}																											
	女性史B	1・2・3・4 前		2		○								兼1									}																										
	民俗学	1・2・3・4 前		2		○								兼1										}																									
	民俗学	1・2・3・4 後		2		○								兼1											}																								
	社会学入門	1・2・3・4 前		2		○								兼1												}																							
	社会保障と社会福祉	1・2・3・4 後		2		○								兼1													}																						
	現代社会の理論	1・2・3・4 後		2		○								兼1														}																					
	地域社会論	1・2・3・4 後		2		○								兼1															}																				
	都市空間論	1・2・3・4 前		2		○								兼1																}																			
	環境社会学	1・2・3・4 後		2		○								兼1																	}																		
	情報と社会	1・2・3・4 前		2		○								兼1																		}																	
	情報と社会	1・2・3・4 後		2		○								兼1																			}																
	日本経済入門	1・2・3・4 前		2		○								兼1																				}															
	環境経済論	1・2・3・4 後		2		○								兼1																					}														
	日本産業論	1・2・3・4 前		2		○								兼1																						}													
	日本産業事情	1・2・3・4 後		2		○								兼1																							}												
	グローバル経済の動態	1・2・3・4 後		2		○								兼1																								}											
	国際経済論 A	1・2・3・4 前		2		○								兼1																									}										
	国際経済論 B	1・2・3・4 後		2		○								兼1																										}									
	ジェンダーと開発	1・2・3・4 前		2		○								兼1																											}								
	現代の政治社会	1・2・3・4 前		2		○								兼1																												}							
	国際社会と日本	1・2・3・4 前		2		○								兼1																													}						
	比較政治 A	1・2・3・4 前		2		○								兼1																														}					
	比較政治 B	1・2・3・4 後		2		○								兼1																															}				
	比較政治 C	1・2・3・4 前		2		○								兼1																																}			
	自治と行政	1・2・3・4 後		2		○								兼1																																	}		
	現代の環境問題	1・2・3・4 前		2		○								兼1																																		}	
	日本政治外交史 A	1・2・3・4 前		2		○								兼1																																			}
	日本政治外交史 B	1・2・3・4 後		2		○								兼1																																			
	平和学 A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	}																																		
	平和学 B	1・2・3・4 後		2		○								兼1		}																																	
	現代世界の構造と力学 A	1・2・3・4 前		2		○								兼1			}																																
	現代世界の構造と力学 B	1・2・3・4 後		2		○								兼1				}																															
	アーカイブの世界	1・2・3・4 前		2		○								兼1					}																														
	(演習)																			}																													
	オープンテーマ演習	2・3・4 前後		2		○			2	1				兼2							}																												
	キリスト教学副専攻演習	2・3・4 後		2		○			1					兼1								}																											
	女性学・ジェンダー副専攻演習	2・3・4 後		2		○								兼1									}																										
	比較文化副専攻演習	2・3・4 後		2		○								兼1										}																									
	Critical Thinking演習	2 後		2		○								兼1											}																								
	発話・パフォーマンス演習	2 前		2		○								兼1												}																							
	討論演習1	3 前		2		○								兼2													}																						
	討論演習2	3 後		2		○								兼2														}																					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
	トータルプレゼンテーション演習	4通		4				○							兼2		
	(海外教養講座)																
	海外教養講座A	2・3・4		2					-	-	-	-	-	-			
	共通科目計(146科目)		0	294	0				10	2	0	0	0		兼97		
外国語科目	(第一外国語)																
	Communication Skills A	1前	1					○								兼19	
	Communication Skills B	1後	1					○								兼19	
	Discussion Skills A	1前	1					○								兼20	
	Discussion Skills B	1後	1					○								兼20	
	Reading A	1前	1					○	1	1	1					兼25	
	Reading B	1後	1					○	1	1						兼26	
	Reading A	2前	1					○	2	1	1					兼27	
	Reading B	2後	1					○	3	1	1					兼26	
	Translation A	2・3・4前		1				○								兼2	
	Translation B	2・3・4後		1				○								兼2	
	Reading and Discussion A	2・3・4前		1				○								兼3	
	Reading and Discussion B	2・3・4後		1				○								兼3	
	Listening and Presentation A	2・3・4前		1				○								兼2	
	Listening and Presentation B	2・3・4後		1				○								兼2	
	Writing A	2・3・4前		1				○	1							兼2	
	Writing B	2・3・4後		1				○	1							兼2	
	Drama	2・3・4前		1				○								兼1	
	Speaking	1前後		2				○								兼2	
	Speaking A	2・3・4前		1				○								兼4	
	Speaking B	2・3・4後		1				○								兼4	
	Journalistic English A	2・3・4前		1				○								兼2	
	Journalistic English B	2・3・4後		1				○								兼2	
	Intensive English	1・2・3・4		2				○	-	-	-	-	-	-		-	
	TOEIC講座	2・3・4前後		1				○								兼3	
	TOEFL講座	2・3・4前後		1				○								兼1	
	英語特別プログラム	2・3・4通		2				○								兼1	
	(第二外国語)																
	ドイツ語初級	1通		4				○								兼8	4単位選択必修
	フランス語初級	1通		4				○								兼11	
	スペイン語初級	1通		4				○								兼7	
	中国語初級	1通		4				○								兼15	
	韓国語初級	1通		4				○								兼5	
ドイツ語初級選択	1通		2				○								兼2		
フランス語初級選択	1通		2				○								兼3		
スペイン語初級選択	1通		2				○								兼2		
中国語初級選択	1通		2				○								兼3		
韓国語初級選択	1通		2				○								兼1		
ドイツ語中級	2・3・4前後		1				○								兼3		
フランス語中級	2・3・4前後		1				○								兼7		
スペイン語中級	2・3・4前後		1				○								兼4		
中国語中級	2・3・4前後		1				○								兼8		
韓国語中級	2・3・4前後		1				○								兼3		
ドイツ語上級	2・3・4前後		1				○								兼2		
フランス語上級	2・3・4前後		1				○								兼2		
スペイン語上級	2・3・4前後		1				○								兼2		
中国語上級	2・3・4前後		1				○								兼3		
韓国語上級	2・3・4前後		1				○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	(ギリシア語・ラテン語)														
	ギリシア語初級1	1・2・3・4 前	1				○								兼1
	ギリシア語初級2	1・2・3・4 後	1				○								兼1
	ラテン語初級1	1・2・3・4 前	1				○								兼1
	ラテン語初級2	1・2・3・4 後	1				○								兼1
	ギリシア語中級	2・3・4 前後	1				○								兼1
	ラテン語中級	2・3・4 前後	1				○								兼1
外国語科目 計(52科目)			8	67	0				4	1	2	0	0	兼129	
情報処理科目	コンピュータ	1 前	2				○								兼12
	コンピュータ A(プログラミング)	1・2・3・4 前後	2				○								兼2
	コンピュータ B(プログラミング)	1・2・3・4 前	2				○								兼2
	コンピュータ C(マルチメディア)	1・2・3・4 前後	2				○								兼3
	コンピュータ D(UNIXリテラシ)	1・2・3・4 後	2				○								兼3
	コンピュータ E(Webでの情報表現)	2・3・4 後	2				○								兼1
	コンピュータ F(文書作成法)	2・3・4 後	2				○								兼2
	コンピュータ J(情報の分析と表現)	2・3・4 前後	2				○								兼2
	コンピュータ K(文書化と発表技術)	1・2・3・4 前後	2				○								兼1
	コンピュータ L(情報学)	2・3・4 後	2				○								兼1
	コンピュータ A(プログラミング)	2・3・4 前	2				○								兼1
	コンピュータ B(プログラミング)	2・3・4 後	2				○								兼1
	コンピュータ C(マルチメディア)	2・3・4 後	2				○								兼2
	コンピュータ・サイエンス(基礎)	1・2・3・4 前	2				○								兼1
	コンピュータ・サイエンス(応用)	1・2・3・4 後	2				○								兼1
情報処理科目 計(15科目)			2	28	0				0	0	0	0	0	兼18	
健康・運動科学科目	健康・運動科学基礎実習	1 前	1					○							兼11
	健康・運動科学基礎実習	1 後	1					○							兼11
	健康・運動科学A(発育・発達)	2・3・4 前	2				○								兼1
	健康・運動科学B(エネルギー・栄養)	2・3・4 前	2				○								兼1
	健康・運動科学C(スポーツ科学)	2・3・4 前	2				○								兼1
	健康・運動科学D(身体文化)	2・3・4 後	2				○								兼1
	健康・運動科学E(性)	2・3・4 後	2				○								兼1
	健康・運動科学F(保健)	2・3・4 後	2				○								兼1
	スポーツ A	2・3・4 前	1					○							兼1
	スポーツ A	2・3・4 後	1					○							兼1
	スポーツ B	2・3・4 前	1					○							兼1
	スポーツ B	2・3・4 後	1					○							兼1
	フィットネスA	2・3・4 前	1					○							兼1
	フィットネスA	2・3・4 後	1					○							兼1
	フィットネスB	2・3・4 前	1					○							兼1
	フィットネスB	2・3・4 後	1					○							兼1
	身体表現A	2・3・4 前	1					○							兼3
	身体表現A	2・3・4 後	1					○							兼3
	身体表現B	2・3・4 前	1					○							兼1
	身体表現B	2・3・4 後	1					○							兼1
	健康支援実習	2・3・4 前	1					○							兼1
	健康支援実習	2・3・4 後	1					○							兼1
健康・運動科学科目 計(22科目)			2	26	0				0	0	0	0	0	兼20	
キリ	キリスト教学(入門1)	1 前	2				○		1						兼3
	キリスト教学(入門2)	1 後	2				○		1						兼3
	キリスト教学 A(旧約聖書の世界)	2・3・4 前	2				○		1						兼3

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
ト 教学科目	キリスト教学 B(新約聖書の世界)	2・3・4 前		2		○									兼1	2単位 選択必修 } 毎年2科目開講
	キリスト教学 C(キリスト教の歴史)	2・3・4 後		2		○									兼1	
	キリスト教学 D(キリスト教の思想)	2・3・4 前		2		○									兼1	
	キリスト教学 E(キリスト教と社会)	2・3・4 後		2		○									兼1	
	キリスト教学 F(キリスト教と倫理)	2・3・4 前		2		○									兼1	
	キリスト教学 G(キリスト教と女性)	2・3・4 前		2		○									兼1	
	キリスト教学 H(キリスト教と文化)	2・3・4 前後		2		○									兼2	
	キリスト教学 J(日本のキリスト教)	2・3・4 前		2		○									兼1	
	キリスト教学 K(アジアのキリスト教)	2・3・4 後		2		○									兼1	
	キリスト教学 L(世界のキリスト教)	2・3・4 前		2		○									兼1	
	キリスト教学 A(聖書とその周辺)	2・3・4 後		2		○			1						兼1	
	キリスト教学 B(キリスト教史とその周辺)	2・3・4 後		2		○									兼1	
	キリスト教学 C(キリスト教思想とその周辺)	2・3・4 前		2		○									兼1	
	キリスト教学科目 計(16科目)			4	28	0				1	0	0	0	0	兼8	
教職特設科目	書道	3 前後		2											兼1	教職特設科目は教育職員の資格を得ようとする者が履修できる。 (取得する免許科目により指定の科目を選択必修)
	人文地理学	2・3・4 前		2											兼1	
	自然地理学	2・3・4 前		2											兼1	
	地誌学	2・3・4 後		2											兼1	
	社会学概論	2・3・4 前		2											兼1	
	社会学概論	2・3・4 後		2											兼1	
	ミクロ経済学入門	1・2・3・4 前		2											兼1	
	マクロ経済学入門	1・2・3・4 前		2											兼1	
	法学概論	1・2・3・4 前		2											兼1	
	政治学概論	1・2・3・4 後		2											兼1	
	教職特設科目 計(10科目)			0	20	0				0	0	0	0	0	兼9	
教職課程科目	教職に関する科目															教育職員の資格を得ようとする者は必修 } 年度ごとに交互に開講 } 年度ごとに交互に開講 教育職員の資格を得ようとする者は選択必修 (取得する免許教科の科目) 中学校教諭免許状を取得する場合に必修
	教師論	1・2・3・4 前後		2											兼2	
	教育原論	2・3・4 後		2											兼1	
	教育心理学	2・3・4 後		2											兼2	
	教育社会学	2・3・4 前		2											兼1	
	教育課程・教育方法論	2・3・4 前後		2											兼1	
	宗教科教育法A	2・3 前			2				1							
	宗教科教育法B	2・3 後			2				1							
	宗教科教育研究A	2・3 前			2				1							
	宗教科教育研究B	2・3 前			2				1							
	国語科教育法A	2・3 前			2										兼1	
	国語科教育法B	2・3 前			2										兼1	
	国語科教育研究A	2・3 後			2										兼1	
	国語科教育研究B	2・3 後			2										兼1	
	英語科教育法A	2 前			2										兼1	
	英語科教育法B	2 後			2				1							
	英語科教育研究A	3 前			2										兼1	
	英語科教育研究B	3 後			2										兼1	
	社会・地理歴史科教育法A	2・3 前			2										兼1	
	社会・地理歴史科教育法B	2・3 後			2										兼2	
社会・公民科教育法A	2・3 前			2										兼1		
社会・公民科教育法B	2・3 後			2										兼2		
道徳教育の研究	2・3・4 前後			2										兼1		
特別活動論	2・3・4 前			2										兼1		
生徒指導論	2・3・4 前			2										兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	学校カウンセリング	2・3・4 前			2									兼1	教育職員の資格を得ようとする者は必修 教育職員の資格を得ようとする者は選択必修 中学校教諭免許状を取得する場合に必修
	総合演習	3・4 前後	2											兼3	
	教育実習事前事後指導	3 後			1									兼3	
	教育実習A	4 通			4									兼3	
	教育実習C	4 通			2									兼3	
	介護等の体験関連科目														
	特別支援教育と社会福祉	1・2・3・4 前後	2											兼1	
	教職課程科目 計(30科目)		0	14	47				2	0	0	0	0	兼12	
学芸員課程科目	博物館概論	2 前	2											兼1	学芸員の資格を得ようとする者は必修
	博物館経営・情報論	2 前	2											兼1	
	博物館資料論	2 後	2											兼1	
	教育学概論	2・3・4 前	2											兼1	
	生涯学習論	2・3・4 後	2											兼1	
	視聴覚教育	2・3・4 前後	2											兼1	
	博物館実習1	3 通		2										兼2	
	博物館実習2	4 通		1										兼1	
	学芸員課程科目 計(8科目)		0	12	3				0	0	0	0	0	兼6	
外国人留学生特別科目															外国人留学生のための科目
	日本語 (入門)	1 前	4											兼2	「日本語 (入門)」、「日本語 (応用)」の2科目計8単位は、外国語科目のうち第一外国語の必修8単位に代えることができる。 「英語初級」、「英語初級」の2科目計4単位は、外国語科目のうち第二外国語の必修4単位に代えることができる。 「日本事情A」、「日本事情B」、「日本事情C」、「日本事情D」各2単位は、共通科目の下記領域の各2単位に代えることができる。 「日本事情A」、「歴史と社会」領域の2単位 「日本事情B」、「歴史と社会」領域の2単位 「日本事情C」、「人間と思想」領域の2単位 「日本事情D」、「文化と芸術」領域の2単位
	日本語 (応用)	1 後	4											兼2	
	英語初級	1 前	2											兼1	
	英語初級	1 後	2											兼1	
	日本事情A	1 前	2											兼1	
	日本事情B	1 後	2					1							
	日本事情C	2 前	2											兼1	
	日本事情D	2 後	2					1							
外国人留学生特別科目 計(8科目)		0	20	0				2	0	0	0	0	兼6		
全学共通カリキュラム等 合計(307科目)		16	509	50				13	2	2	0	0	兼285		
総合計(710科目)		20	1479	50				22	2	2	0	0	兼342		
学位又は称号	学士(教養)	学位又は学科の分野			文学関係										
卒業要件及び履修方法											授業期間等				
卒業要件 4年以上在学し所定科目につき130単位以上を修得しなければならない。 修得すべき授業科目と単位数は、次のとおりとする。 (1) 共通科目 選択必修科目 16単位 (2) 外国語科目 第一外国語 必修科目 8単位 第二外国語 選択必修科目 4単位 計12単位 (3) 情報処理科目 必修科目 2単位 (4) 健康・運動科学科目 必修科目 2単位 (5) キリスト教学科目 必修科目及び選択必修科目 6単位 (6) 学科科目(自学科) 必修科目、選択必修科目、選択科目合わせて 64単位 (7) 自由選択科目 28単位 履修方法 履修科目の登録単位数の上限は、原則として1年間に44単位とする。 日本文学専攻の学生は、「*」印の範囲において8単位を修得しなければならない。ただし、選択必修科目の単位として修得した単位を除く。 4年次に進級するには、前年度末までに、卒業に必要な単位数130単位のうち、所定の科目の単位を含む86単位を修得していなければならない。											1学年の学期区分		2学期		
											1学期の授業期間		15週		
											1時限の授業時間		90分		

教 育 課 程 等 の 概 要

(現代教養学部国際社会学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
入門	国際社会論	1 前	2						4	2				兼1	国際関係専攻は 必修 他専攻及び他学科学生 は2年次以上 経済学専攻は 必修 社会学専攻は 必修	
	文化人類学入門	1 前		2					1					兼1		
	文化人類学入門	1 後		2					1					兼1		
	比較文化論	1・2 前		2										兼1		
	比較文化論	1・2 後		2										兼1		
	国際関係史	1・2 前		2										兼1		
	国際関係史	1・2 後		2										兼1		
	国際関係論	2・3 前		2										兼1		
	国際関係論	2・3 後		2										兼1		
	ミクロ経済学入門	1 前		2					1							
	マクロ経済学入門	1 前		2					1							
	社会学概論	1 前		2						1						
	社会学概論	1 後		2						1						
	小計(13科目)	-		2	24	0				6	3	0	0	0		兼4
基礎講義	日本文化論	1・2・3 前		2										兼1	国際関係専攻の学生は、 「*1」印の範囲において 12単位を修得しなければ ならない。 経済学専攻の学生は、 「*2」印の範囲において 12単位を修得しなければ ならない。ただし、選択必 修科目の単位として修得 した単位を除く。	
	中国文化論	1・2・3 後		2										兼1		
	朝鮮文化論	1・2・3 前		2										兼1		
	東南アジア文化論	1・2・3 前		2										兼1		
	アメリカ文化論	1・2・3 後		2					1					兼1		
	日本史概論	1・2・3 後		2										兼1		
	東洋史概論	1・2・3 前		2										兼1		
	西洋史概論	1・2・3 前		2										兼1		
	法学概論	1・2・3 前		2										兼1		
	政治学概論	1・2・3 後		2										兼1		
	初級ミクロ経済学	1 後		2										兼1		
	初級マクロ経済学	1 後		2					1							
	中級ミクロ経済学	2・3 後		2					1							
	中級マクロ経済学	2・3 後		2					1							
	公共経済学	2・3 前		2					1							
	経済政策	2・3 後		2					1							
	経済学史	2・3 後		2					1							
	経済史	2・3 前		2					1							
	経済数学	1・2・3 前		2					1							
	統計学	1・2・3 前		2					1							
社会学史	2 前		2										兼1			
社会学史	2 後		2										兼1			
社会調査法A	2 前		2										兼1			
小計(23科目)	-		0	46	0				5	0	0	0	0	兼12		
応用講義	日本近現代史A	2・3 前		2										兼1	「韓国政治・経済論」と年度ご とに交互に開講	
	日本近現代史B	2・3 後		2										兼1		
	中国近現代史	2・3 前		2					1							
	中国近現代史	2・3 後		2					1							
	朝鮮近現代史	2・3 前		2					1							
	朝鮮近現代史	2・3 後		2					1							
	アメリカ史	2・3 前		2					1							
	アメリカ史	2・3 後		2					1							
	現代中国論	2・3・4 前		2										兼1		
	現代韓国論	2・3・4 前		2										兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	現代アメリカ社会論	2・3・4 後		2					1							
	日本文化特論(近現代文学)	2・3・4 前		2											兼1	
	日本文化特論(近現代文学)	2・3・4 後		2											兼1	
	社会言語学特論A	2・3・4 前		2					1							
	社会言語学特論B	2・3・4 後		2					1							
	中国文化特論	2・3・4 後		2											兼1	
	南アジア文化特論	2・3・4 後		2											兼1	
	イスラム文化特論	2・3・4 前		2											兼1	
	アメリカ文化特論A	2・3・4 前		2					1							
	アメリカ文化特論B	2・3・4 前		2					1							
	近現代日本研究(社会・思想)A	3・4 前		2											兼1	
	近現代日本研究(社会・思想)B	3・4 後		2											兼1	
	近現代日本研究(日本語文化論)	3・4 前		2					1							
	近現代日本研究(日本語文化論)	3・4 後		2					1							
	中国研究	3・4 前		2											兼1	
	中国研究	3・4 後		2											兼1	
	朝鮮研究	3・4 前		2					1							
	朝鮮研究	3・4 後		2					1							
	アメリカ研究(社会史)	3・4 前		2					1							
	アメリカ研究(社会史)	3・4 後		2					1							
	ラテンアメリカ研究	3・4 前		2											兼1	
	ラテンアメリカ研究	3・4 後		2											兼1	
	日米比較文化	3・4 前		2					1							
	日米比較文化	3・4 後		2					1							
	アジア文化比較論	3・4 前		2											兼1	
	アジア文化比較論	3・4 後		2											兼1	
	宗教人類学	2・3・4 前		2					1							
	政治人類学	2・3・4 前		2					1							
	経済人類学	2・3・4 前		2					1							
	人種・民族・国民	2・3・4 後		2					1							
	ジェンダーと社会構造	2・3・4 後		2					1							
	人類学史	2・3・4 後		2					1							
	東アジアの文化と社会	3・4 前		2					1							
	エスニシティ論	3・4 後		2					1							
	周縁世界とグローバル化	3・4 前		2					1							
	現代文化の動態	3・4 後		2					1							
	国際関係(日米)	2・3・4 前		2											兼1	
	国際関係(日中)	2・3・4 後		2											兼1	
	国際関係(日朝)	2・3・4 前		2											兼1	
	国際法	2・3・4 前		2											兼1	
	中国政治・経済論	2・3・4 前		2											兼1	
	香港・台湾論	2・3・4 後		2											兼1	
	韓国政治・経済論	2・3・4 前		2											兼1	
	現代アメリカ政治論	2・3・4 前		2					1							
	国際政治経済	3・4 前		2											兼1	
	国際政治経済	3・4 後		2											兼1	
	アジア国際関係論	3・4 前		2					1							
	アジア国際関係論	3・4 後		2					1							
	近現代日本研究(政治・外交)A	3・4 前		2					1							
	近現代日本研究(政治・外交)B	3・4 後		2					1							

年度ごとに交互に開講

4年に1回開講

年度ごとに交互に開講

*1

を毎年1組開講(3年で一巡)
「宗教人類学」「人種・民族・国民」
「政治人類学」「ジェンダーと社会構造」
「経済人類学」「人類学史」

年度ごとに交互に開講

「現代韓国論」と交互に開講

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	アメリカ研究(政治・外交)	3・4前		2					1							
	アメリカ研究(政治・外交)	3・4後		2					1							
	国際経済学	2・3・4前		2					1							「国際経済学」と「開発経済学」を交互に開講
	国際経済学	2・3・4後		2					1							
	開発経済学	2・3・4前		2					1							「マーケティング」と交互に開講
	開発経済学	2・3・4後		2					1							
	計量経済学	2・3・4前		2					1							
	計量経済学	2・3・4後		2					1							
	金融論	2・3・4前		2										兼1		
	財政学	2・3・4後		2										兼1		
	環境経済学	2・3・4後		2						1						
	産業組織論	2・3・4前		2										兼1		とを交互に開講
	情報経済学	2・3・4後		2										兼1		
	都市・地域経済学	2・3・4前		2						1						
	労働経済学	2・3・4後		2										兼1		「産業組織論」「都市・地域経済学」「ジェンダーの経済学」「現代経済論」「国際経済史」
	ゲームの理論	2・3・4前		2										兼1		
	ジェンダーの経済学	2・3・4後		2										兼1		
	現代経済論	2・3・4前		2					1							「情報経済学」「労働経済学」「ゲームの理論」「日本経済史」「経営史」
	日本経済史	2・3・4後		2										兼1		
	国際経済史	2・3・4前		2										兼1		
	経営史	2・3・4後		2										兼1		
	経営学概論	2・3・4前		2										兼1		とを交互に開講
	経営学概論	2・3・4後		2										兼1		
	簿記論	2・3・4前		2										兼1		「経営学概論」「簿記論」「会計学概論」
	会計学概論	2・3・4後		2										兼1		
	マーケティング	2・3・4前		2										兼1		「計量経済学」と交互に開講
	マーケティング	2・3・4後		2										兼1		
	保険論	2・3・4前		2										兼1		とを交互に開講
	証券論	2・3・4後		2										兼1		
	中小企業論	2・3・4前		2										兼1		「保険論」「中小企業論」「企業法」「証券論」「経済法」「労働法」
	経済法	2・3・4後		2										兼1		
	企業法	2・3・4前		2										兼1		
	労働法	2・3・4後		2										兼1		
	日本経済総論	2・3・4前		2										兼1		年度ごとに交互に開講
	日本地域経済論	2・3・4後		2										兼1		
	アメリカ経済論	2・3・4後		2										兼1		年度ごとに交互に開講
	EU経済論	2・3・4前		2										兼1		
	アジア経済論	2・3・4後		2										兼1		年度ごとに交互に開講
	中国経済論	2・3・4前		2										兼1		
	国際地域経済論	2・3・4後		2										兼1		隔年開講
	社会調査法B	2・3・4後		2										兼1		隔年開講
	社会調査法C	2・3・4後		2										兼1		
	比較社会学A	2・3・4前		2										兼1		「比較社会学A,B」と「国際社会学A,B」を交互に開講
	比較社会学B	2・3・4後		2										兼1		
	国際社会学A	2・3・4前		2										兼1		
	国際社会学B	2・3・4後		2										兼1		
	労働社会学	2・3・4前		2					1							「労働社会学」と「経営社会学A,B」を交互に開講
	労働社会学	2・3・4後		2					1							
	経営社会学A	2・3・4前		2					1							
	経営社会学B	2・3・4後		2					1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	家族社会学	2・3・4 前		2										兼1	*3 社会学専攻の学生は、「*3」印の範囲において14単位を修得しなければならない。 「家族社会学」「都市社会学」「地域社会学」 「福祉社会学A」と「福祉社会学B,C」を交互に開講 年度ごとに交互に開講 年度ごとに交互に開講 年度ごとに交互に開講 「現代社会学A,B」と「現代社会学C」を交互に開講
	家族社会学	2・3・4 後		2										兼1	
	都市社会学	2・3・4 前		2										兼1	
	地域社会学	2・3・4 後		2										兼1	
	福祉社会学A	2・3・4 前		2					1					兼1	
	福祉社会学B	2・3・4 後		2										兼1	
	福祉社会学C	2・3・4 前		2										兼1	
	医療社会学A	2・3・4 前		2										兼1	
	医療社会学B	2・3・4 後		2										兼1	
	文化社会学A	2・3・4 前		2										兼1	
	文化社会学B	2・3・4 後		2										兼1	
	社会意識論	2・3・4 前		2						1				兼1	
	政治社会学	2・3・4 後		2										兼1	
	現代社会学A	2・3・4 前		2										兼1	
	現代社会学B	2・3・4 後		2						1					
現代社会学C	2・3・4 前		2						1						
小計(126科目)	-	0	252	0	-			16	1	0	0	0	兼50		
基礎演習	国際社会基礎演習	1 後	2						7	2				兼3	国際関係専攻は必修 経済学専攻は必修 社会学専攻は必修 国際関係専攻は必修 経済学専攻は必修 社会学専攻は必修
	基礎演習(国際関係)	1 前		2					3					兼3	
	基礎演習(経済学)	1 前		2					2	1					
	基礎演習(社会学)	1 前		2					1	1					
	2年次演習(国際関係)	2 前		2					5					兼3	
	2年次演習(国際関係)	2 後		2					5					兼3	
	2年次演習(経済学)	2 通		4					2	1				兼1	
	2年次演習(社会学)	2 通		4					3	1				兼1	
小計(8科目)	-	2	18	0	-			16	3	0	0	0	兼7		
発展演習	社会調査実習	3 通		4					4	2				兼1	社会学専攻は必修 *1 *2 国際関係専攻は必修 経済学専攻は必修 社会学専攻は必修 国際関係専攻は必修 経済学専攻は必修 社会学専攻は必修
	3年次演習(国際関係)	3 前		2					9					兼3	
	3年次演習(国際関係)	3 後		2					9					兼3	
	3年次演習(経済学)	3 通		4					4	1					
	3年次演習(社会学)	3 通		4					4	2					
	4年次演習(国際関係)	4 前		2					9					兼3	
	4年次演習(国際関係)	4 後		2					9					兼3	
	4年次演習(経済学)	4 通		4					4	1					
	4年次演習(社会学)	4 通		4					4	2					
小計(9科目)	-	0	28	0	-			17	3	0	0	0	兼4		
卒業論文	4 通		8						17	3	0	0	0	兼4	
小計(1科目)	-	8	0	0	-			17	3	0	0	0	兼4		
学科合計(180科目)			-	12	368	0	-		17	3	0	0	0	兼61	
以下は全学共通カリキュラム等															
共通科目	(自然と生命)														隔年開講 共通科目の履修方法及び卒業要件 「自然と生命」、「人間と思想」、「文化と芸術」、「歴史と社会」の4領域からそれぞれ必ず各1科目2単位を含めて、演習、海外教養講座を除く4領域から16単位を修得しなければならない。
	自然科学と人間A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	自然科学と人間B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	科学技術と人間	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	数学の世界	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	現代の数学とその応用	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	統計学入門	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	統計学入門	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	宇宙の科学	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	地球の科学	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
エネルギーの科学	1・2・3・4 後		2		○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	物質の科学	1・2・3・4 後		2		○								兼1	隔年開講 } 年度ごとに交互に開講 平成24年度は休講 平成24年度は休講
	生命の科学A(生命と物質)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	生命の科学B(生命と生体)	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	地球環境と人間	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	生物と環境A(動物と環境)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	生物と環境B(植物と環境)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	環境と社会A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	環境と社会B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	人の起源と進化	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	進化生物学入門	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	自然と人間	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	脳の科学	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	遺伝の科学(遺伝のしくみ)	1・2・3・4 前		2		○									
	遺伝の科学(遺伝子工学)	1・2・3・4 後		2		○									
	からだの科学	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	身体適応の科学A(環境適応)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	身体適応の科学B(運動適応)	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	(人間と思想)														
	心理学入門	1・2・3・4 前後		2		○								兼2	
	精神保健A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	精神保健B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	比較行動学A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	比較行動学B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	心理学と現代社会A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	心理学と現代社会B	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	教育と現代社会	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	女性学・ジェンダー入門	1・2・3・4 前後		2		○								兼1	
	ジェンダーと社会A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	ジェンダーと社会B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	総合講座(女性学・ジェンダー)A	1・2・3・4 前		2		○			2					兼4	
	総合講座(女性学・ジェンダー)B	1・2・3・4 後		2		○								兼5	
	論理学入門	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	哲学と思想A	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	哲学と思想B	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	科学技術と倫理A	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	科学技術と倫理B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	現代思想	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	東洋思想	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	日本思想史	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	キリスト教と諸宗教A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	キリスト教と諸宗教B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	宗教学	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	日本宗教史	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	宗教と現代社会A	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	宗教と現代社会B	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	比較思想	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	総合講座(比較思想)	1・2・3・4 後		2		○			1					兼2	
	(文化と芸術)														
	比較文化入門	1・2・3・4 前後		2		○								兼1	
	比較文化特論A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	比較文化特論B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	総合講座(比較文化)	1・2・3・4 前		2		○								兼3	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	総合講座(比較文化)	1・2・3・4 後		2		○								兼3	とを交互に開講 「芸術論A(美術)」 「芸術論B(演劇)」 「芸術論C(映像芸術)」 「芸術論D(舞踊)」 } 年度ごとに交互に開講	
	日本文化史A	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	日本文化史B	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	世界の文化A(ヨーロッパ)	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	世界の文化B(イギリス・アメリカ)	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	世界の文化C(ラテンアメリカ)	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	世界の文化D(アジア)	1・2・3・4 前		2		○			1					兼1		
	日本の文学A(古典文学)	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	日本の文学B(近代文学)	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	日本の文学C(近代文学)	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	キリスト教と文学	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	女性と文芸	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	児童文学A	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	児童文学B	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	比較文学A	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	比較文学B	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	宗教音楽	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	音楽芸術	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	音楽史A	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	音楽史B	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	芸術論A(美術)	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	芸術論B(演劇)	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	芸術論C(映像芸術)	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	芸術論D(舞踊)	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	ことばの科学	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	ことばと社会A	1・2・3・4 前		2		○			1					兼1		
	ことばと社会B	1・2・3・4 前		2		○			1					兼1		
	文章表現法	1・2・3・4 前後		2		○								兼2		
	日本語技法A	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	日本語技法B	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	日本語技法C	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	(歴史と社会)															
	日本国憲法入門	1・2・3・4 前後		2		○								兼3		} 毎年1科目開講(3年で一巡)
	公共政策と法	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	公共政策と法	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	市民社会と法	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	市民社会と法	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	国際社会と法	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	中心・周辺の歴史	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	世界の地域と民族	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	前近代史の諸相	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	現代史の諸相	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	人権発達史	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	女性史A	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	女性史B	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	民俗学	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	民俗学	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	社会学入門	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	社会保障と社会福祉	1・2・3・4 後		2		○			1					兼1		
	現代社会の理論	1・2・3・4 後		2		○			1					兼1		
	地域社会論	1・2・3・4 後		2		○			1					兼1		
	都市空間論	1・2・3・4 前		2		○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	環境社会学	1・2・3・4 後		2		○								兼1	隔年開講 「グローバル経済の動態」と「国際経済論A、B」を交互に開講
	情報と社会	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	情報と社会	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	日本経済入門	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	環境経済論	1・2・3・4 後		2		○			1					兼1	
	日本産業論	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	日本産業事情	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	グローバル経済の動態	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	国際経済論A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	国際経済論B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	ジェンダーと開発	1・2・3・4 前		2		○			1					兼1	
	現代の政治社会	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	国際社会と日本	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	比較政治A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	比較政治B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	比較政治C	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	自治と行政	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	現代の環境問題	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	日本政治外交史A	1・2・3・4 前		2		○			1					兼1	
	日本政治外交史B	1・2・3・4 後		2		○			1					兼1	
	平和学A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	平和学B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	現代世界の構造と力学A	1・2・3・4 前		2		○			1					兼1	
	現代世界の構造と力学B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	アーカイブの世界 (演習)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	オープンテーマ演習	2・3・4 前後		2		○								兼5	
	キリスト教学副専攻演習	2・3・4 後		2		○								兼1	
	女性学・ジェンダー副専攻演習	2・3・4 後		2		○								兼1	
	比較文化副専攻演習	2・3・4 後		2		○								兼1	
	Critical Thinking演習	2 後		2		○								兼1	
	発話・パフォーマンス演習	2 前		2		○								兼1	
	討論演習1	3 前		2		○								兼2	
	討論演習2	3 後		2		○								兼2	
	トータルプレゼンテーション演習 (海外教養講座)	4 通		4		○								兼2	
	海外教養講座A	2・3・4		2					-	-	-	-	-	-	
	共通科目 計(146科目)		0	294	0				8	1	0	0	0	兼100	
外国語科目	(第一外国語)														
	Communication Skills A	1 前	1			○								兼19	
	Communication Skills B	1 後	1			○								兼19	
	Discussion Skills A	1 前	1			○								兼20	
	Discussion Skills B	1 後	1			○								兼20	
	Reading A	1 前	1			○								兼28	
	Reading B	1 後	1			○								兼28	
	Reading A	2 前	1			○								兼31	
	Reading B	2 後	1			○								兼31	
	Translation A	2・3・4 前		1		○								兼2	
	Translation B	2・3・4 後		1		○								兼2	
	Reading and Discussion A	2・3・4 前		1		○								兼3	
	Reading and Discussion B	2・3・4 後		1		○								兼3	
	Listening and Presentation A	2・3・4 前		1		○								兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	Listening and Presentation B	2・3・4 後		1			○							兼2	
	Writing A	2・3・4 前		1			○							兼3	
	Writing B	2・3・4 後		1			○							兼3	
	Drama	2・3・4 前		1			○							兼1	
	Speaking	1 前後		2			○							兼2	
	Speaking A	2・3・4 前		1			○							兼4	
	Speaking B	2・3・4 後		1			○							兼4	
	Journalistic English A	2・3・4 前		1			○							兼2	
	Journalistic English B	2・3・4 後		1			○							兼2	
	Intensive English	1・2・3・4		2			○		-	-	-	-	-	-	
	TOEIC講座	2・3・4 前後		1			○							兼3	
	TOEFL講座	2・3・4 前後		1			○							兼1	
	英語特別プログラム (第二外国語)	2・3・4 通		2			○							兼1	
	ドイツ語初級	1 通		4			○							兼8	4単位選択必修
	フランス語初級	1 通		4			○							兼11	
	スペイン語初級	1 通		4			○							兼7	
	中国語初級	1 通		4			○							兼15	
	韓国語初級	1 通		4			○	1						兼4	
	ドイツ語初級選択	1 通		2			○							兼2	
	フランス語初級選択	1 通		2			○							兼3	
	スペイン語初級選択	1 通		2			○							兼2	
	中国語初級選択	1 通		2			○							兼3	
	韓国語初級選択	1 通		2			○	1						兼4	
	ドイツ語中級	2・3・4 前後		1			○							兼3	
	フランス語中級	2・3・4 前後		1			○							兼7	
	スペイン語中級	2・3・4 前後		1			○							兼4	
	中国語中級	2・3・4 前後		1			○							兼8	
	韓国語中級	2・3・4 前後		1			○	1						兼2	
	ドイツ語上級	2・3・4 前後		1			○							兼2	
	フランス語上級	2・3・4 前後		1			○							兼2	
	スペイン語上級	2・3・4 前後		1			○							兼2	
	中国語上級	2・3・4 前後		1			○							兼3	
	韓国語上級	2・3・4 前後		1			○							兼1	
	(ギリシア語・ラテン語)														
	ギリシア語初級1	1・2・3・4 前		1			○							兼1	
	ギリシア語初級2	1・2・3・4 後		1			○							兼1	
	ラテン語初級1	1・2・3・4 前		1			○							兼1	
	ラテン語初級2	1・2・3・4 後		1			○							兼1	
	ギリシア語中級	2・3・4 前後		1			○							兼1	
	ラテン語中級	2・3・4 前後		1			○							兼1	
	外国語科目 計(52科目)		8	67	0				1	0	0	0	0	兼135	
情報処理科目	コンピュータ	1 前	2				○							兼12	
	コンピュータ A(プログラミング)	1・2・3・4 前後		2			○							兼2	
	コンピュータ B(プログラミング)	1・2・3・4 前		2			○							兼2	
	コンピュータ C(マルチメディア)	1・2・3・4 前後		2			○							兼3	
	コンピュータ D(UNIXリテラシ)	1・2・3・4 後		2			○							兼3	
	コンピュータ E(Webでの情報表現)	2・3・4 後		2			○							兼1	
	コンピュータ F(文書作成法)	2・3・4 後		2			○							兼2	
	コンピュータ J(情報の分析と表現)	2・3・4 前後		2			○							兼2	
コンピュータ K(文書化と発表技術)	1・2・3・4 前後		2			○							兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	コンピュータ L(情報学)	2・3・4 後		2		○									兼1	
	コンピュータ A(プログラミング)	2・3・4 前		2		○									兼1	
	コンピュータ B(プログラミング)	2・3・4 後		2		○									兼1	
	コンピュータ C(マルチメディア)	2・3・4 後		2		○									兼2	
	コンピュータ・サイエンス (基礎)	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	コンピュータ・サイエンス (応用)	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	情報処理科目 計(15科目)		2	28	0				0	0	0	0	0	0	兼18	
健康・運動科学科目	健康・運動科学基礎実習	1 前	1					○							兼11	
	健康・運動科学基礎実習	1 後	1					○							兼11	
	健康・運動科学A(発育・発達)	2・3・4 前		2		○									兼1	
	健康・運動科学B(エネルギー・栄養)	2・3・4 前		2		○									兼1	
	健康・運動科学C(スポーツ科学)	2・3・4 前		2		○									兼1	
	健康・運動科学D(身体文化)	2・3・4 後		2		○									兼1	
	健康・運動科学E(性)	2・3・4 後		2		○									兼1	
	健康・運動科学F(保健)	2・3・4 後		2		○									兼1	
	スポーツ A	2・3・4 前		1				○							兼1	
	スポーツ A	2・3・4 後		1				○							兼1	
	スポーツ B	2・3・4 前		1				○							兼1	
	スポーツ B	2・3・4 後		1				○							兼1	
	フィットネスA	2・3・4 前		1				○							兼1	
	フィットネスA	2・3・4 後		1				○							兼1	
	フィットネスB	2・3・4 前		1				○							兼1	
	フィットネスB	2・3・4 後		1				○							兼1	
	身体表現A	2・3・4 前		1				○							兼3	
	身体表現A	2・3・4 後		1				○							兼3	
	身体表現B	2・3・4 前		1				○							兼1	
	身体表現B	2・3・4 後		1				○							兼1	
	健康支援実習	2・3・4 前		1				○							兼1	
	健康支援実習	2・3・4 後		1				○							兼1	
健康・運動科学科目 計(22科目)		2	26	0				0	0	0	0	0	0	兼20		
キリスト教学科目	キリスト教学 (入門1)	1 前	2			○									兼4	2単位 選択必修 毎年2科目開講
	キリスト教学 (入門2)	1 後	2			○									兼4	
	キリスト教学 A(旧約聖書の世界)	2・3・4 前		2		○									兼1	
	キリスト教学 B(新約聖書の世界)	2・3・4 前		2		○									兼1	
	キリスト教学 C(キリスト教の歴史)	2・3・4 後		2		○									兼1	
	キリスト教学 D(キリスト教の思想)	2・3・4 前		2		○									兼1	
	キリスト教学 E(キリスト教と社会)	2・3・4 後		2		○									兼1	
	キリスト教学 F(キリスト教と倫理)	2・3・4 前		2		○									兼1	
	キリスト教学 G(キリスト教と女性)	2・3・4 前		2		○									兼1	
	キリスト教学 H(キリスト教と文化)	2・3・4 前後		2		○									兼2	
	キリスト教学 J(日本のキリスト教)	2・3・4 前		2		○									兼1	
	キリスト教学 K(アジアのキリスト教)	2・3・4 後		2		○									兼1	
	キリスト教学 L(世界のキリスト教)	2・3・4 前		2		○									兼1	
	キリスト教学 A(聖書とその周辺)	2・3・4 後		2		○									兼1	
	キリスト教学 B(キリスト教史とその周辺)	2・3・4 後		2		○									兼1	
	キリスト教学 C(キリスト教思想とその周辺)	2・3・4 前		2		○									兼1	
キリスト教学科目 計(16科目)		4	28	0				0	0	0	0	0	0	兼9		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教職特設科目	人文地理学	2・3・4 前		2										兼1	教職特設科目は教育職員の資格を得ようとする者が履修できる。 (取得する免許科目により指定の科目を選択必修)	
	自然地理学	2・3・4 前		2										兼1		
	地誌学	2・3・4 後		2										兼1		
	哲学概論	2・3・4 前		2										兼1		
	教職特設科目 計(4科目)		0	8	0				0	0	0	0	0	0		兼4
教職課程科目	教職に関する科目															
	教師論	1・2・3・4 前後		2											兼2	教育職員の資格を得ようとする者は必修 教育職員の資格を得ようとする者は選択必修 (取得する免許教科の科目)
	教育原論	2・3・4 後		2											兼1	
	教育心理学	2・3・4 後		2											兼2	
	教育社会学	2・3・4 前		2											兼1	
	教育課程・教育方法論	2・3・4 前後		2											兼1	
	社会・地理歴史科教育法A	2・3 前			2										兼1	
	社会・地理歴史科教育法B	2・3 後			2										兼2	
	社会・公民科教育法A	2・3 前			2										兼1	
	社会・公民科教育法B	2・3 後			2										兼2	
	道德教育の研究	2・3・4 前後			2										兼1	
	特別活動論	2・3・4 前			2										兼1	教育職員の資格を得ようとする者は必修
	生徒指導論	2・3・4 前			2										兼1	
	学校カウンセリング	2・3・4 前			2										兼1	
	総合演習	3・4 前後		2											兼3	
	教育実習事前事後指導	3 後			1										兼3	教育職員の資格を得ようとする者は選択必修
	教育実習A	4 通			4										兼3	
	教育実習C	4 通			2										兼3	
介護等の体験関連科目																
特別支援教育と社会福祉	1・2・3・4 前後		2												兼1	中学校教諭免許状を取得する場合に必修
教職課程科目 計(18科目)		0	14	23				0	0	0	0	0	0	兼10		
学芸員課程科目	博物館概論	2 前		2											兼1	学芸員の資格を得ようとする者は必修
	博物館経営・情報論	2 前		2											兼1	
	博物館資料論	2 後		2											兼1	
	教育学概論	2・3・4 前		2											兼1	
	生涯学習論	2・3・4 後		2											兼1	
	視聴覚教育	2・3・4 前後		2											兼1	
	博物館実習1	3 通			2										兼2	
	博物館実習2	4 通			1										兼1	
学芸員課程科目 計(8科目)		0	12	3				0	0	0	0	0	0	兼6		
外国人留学生特別科目	外国人留学生のための科目															
	日本語 (入門)	1 前		4											兼2	「日本語 (入門)」、「日本語 (応用)」の2科目計8単位は、外国語科目のうち第一外国語の必修8単位に代えることができる。
	日本語 (応用)	1 後		4											兼2	
	英語初級	1 前		2											兼1	「英語初級」、「英語初級」の2科目計4単位は、外国語科目のうち第二外国語の必修4単位に代えることができる。
	英語初級	1 後		2											兼1	
	日本事情A	1 前		2					1						兼1	「日本事情A」、「日本事情B」、「日本事情C」、「日本事情D」各2単位は、共通科目の下記領域の各2単位に代えることができる。 「日本事情A」 「歴史と社会」領域の2単位 「日本事情B」 「歴史と社会」領域の2単位 「日本事情C」 「人間と思想」領域の2単位 「日本事情D」 「文化と芸術」領域の2単位
	日本事情B	1 後		2											兼1	
	日本事情C	2 前		2											兼1	
日本事情D	2 後		2											兼1		
外国人留学生特別科目 計(8科目)		0	20	0				1	0	0	0	0	0	兼7		
全学共通カリキュラム等 合計(289科目)		16	497	26				8	1	0	0	0	0	兼287		
総合計(469科目)		28	###	26				17	3	0	0	0	0	兼340		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	臨床心理学(心理療法・カウンセリング)A	2・3・4 前	2					1							心理学専攻は 2単位必修 毎年1科目開講(3年で一巡) 心理学専攻は 2単位必修 を毎年1組開講(3年で一巡) 「社会心理学(マクロ)A」 「社会心理学(個人内過程)A」 「社会心理学(個人内過程)B」 「社会心理学(個人内過程)C」 「社会心理学(個人内過程)D」 心理学専攻は 2単位必修 毎年1科目開講(3年で一巡) 心理学専攻は 2単位必修 毎年1科目開講(3年で一巡) 「メディア・コミュニケーション論」と交互に開講 コミュニケーション専攻は 12単位必修 「メディア社会学」と交互に開講 年度ごとに交互に開講 年度ごとに交互に開講
	臨床心理学(心理療法・カウンセリング)B	2・3・4 前	2					1							
	臨床心理学(心理療法・カウンセリング)C	2・3・4 後	2					1							
	臨床心理学(不適応・逸脱行動)A	2・3・4 前	2					1							
	臨床心理学(不適応・逸脱行動)B	2・3・4 前	2										兼1		
	臨床心理学(不適応・逸脱行動)C	2・3・4 前	2										兼1		
	精神保健学A	2・3・4 前	2										兼1		
	精神保健学B	2・3・4 前	2										兼1		
	精神保健学C	2・3・4 前	2										兼1		
	社会心理学(マクロ)A	2・3・4 前	2							1			兼1		
	社会心理学(マクロ)B	2・3・4 前	2										兼1		
	社会心理学(個人内過程)A	2・3・4 後	2										兼1		
	社会心理学(個人内過程)B	2・3・4 前	2										兼1		
	社会心理学(個人内過程)C	2・3・4 後	2					1					兼1		
	社会心理学(個人内過程)A	2・3・4 前	2										兼1		
	社会心理学(個人内過程)B	2・3・4 後	2					1					兼1		
	社会心理学(個人内過程)C	2・3・4 前	2										兼1		
	社会心理学(個人内過程)D	2・3・4 後	2										兼1		
	心理学特論(先端)A	2・3・4 前	2					1							
	心理学特論(先端)B	2・3・4 後	2							1					
	心理学特論(先端)C	2・3・4 前	2										兼1		
	心理学特論(応用)A	2・3・4 後	2										兼1		
	心理学特論(応用)B	2・3・4 前	2										兼1		
	心理学特論(応用)C	2・3・4 後	2										兼1		
	対人関係論	2・3・4 後	2					1							
	文化心理学(文化と自己)	2・3・4 前	2					1							
	文化心理学(文化と認知)	2・3・4 後	2					1							
	マルチメディアと心理学(聴覚)	2・3・4 前	2					1							
	マルチメディアと心理学(視覚)	2・3・4 後	2					1							
	コミュニケーションの社会心理学(対人)	2・3・4 前	2					1							
	コミュニケーションの社会心理学(集合現象)	2・3・4 後	2					1							
	メディア心理学	2・3・4 前	2					1							
	メディア社会学	2・3・4 前	2					1						「メディア・コミュニケーション論」と交互に開講	
	現代社会とコミュニケーション	2・3・4 後	2					1							
	ジェンダーとコミュニケーション	2・3・4 前	2					1							
	情報社会と女性の職業	2・3・4 前	2					1							
	情報社会と女性の職業	2・3・4 後	2					1							
	メディアと現代社会	2・3・4 前	2					1							
	メディア・コミュニケーション論	2・3・4 前	2					1						「メディア社会学」と交互に開講	
	マス・コミュニケーション論	2・3・4 前	2						1						
	広告コミュニケーション論	2・3・4 後	2					1							
	放送論	2・3・4 後	2							1					
	新聞出版論	2・3・4 後	2										兼1		
	メディア論	2・3・4 前	2										兼1		
	ジャーナリズム論	2・3・4 前	2										兼1		
	国際ジャーナリズム論	2・3・4 前	2										兼1	年度ごとに交互に開講	
	国際化とコミュニケーション	2・3・4 後	2					1							
	異文化コミュニケーション	2・3・4 後	2					1						年度ごとに交互に開講	
	情報社会論	2・3・4 後	2										兼1		
	情報科学論	2・3・4 後	2										兼1		
	情報とコミュニケーション	2・3・4 前	2										兼1		
	情報システム1(データベース)	2・3・4 前	2										兼1		
	情報システム2(設計と管理)	2・3・4 後	2										兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	情報通信ネットワーク1(ネットワークプロトコル)	2・3・4 前		2										兼1	集中
	情報通信ネットワーク2(通信サービスとセキュリティ)	2・3・4 後		2										兼1	
	インターネット概論	2・3・4 前		2										兼1	
	インターネット応用	2・3・4 後		2										兼1	
	情報と職業	2・3・4 集中		2										兼1	
	コミュニケーション特論(心理)	1・2・3・4 後		2										兼1	
	コミュニケーション特論(社会)	1・2・3・4 前		2										兼1	
	コミュニケーション特論(メディア)A	1・2・3・4 後		2										兼1	
	コミュニケーション特論(メディア)B	1・2・3・4 前		2										兼1	
	コミュニケーション特論(国際)A	1・2・3・4 後		2										兼1	
	コミュニケーション特論(国際)B	1・2・3・4 後		2										兼1	
	コミュニケーション特論(情報)A	1・2・3・4 後		2										兼1	
	コミュニケーション特論(情報)B	1・2・3・4 後		2										兼1	
	音韻論	2・3・4 前		2					1						「音韻論 , 」と「形態論 , 」を交互に開講
	音韻論	2・3・4 後		2					1						
	形態論	2・3・4 前		2					1						
	形態論	2・3・4 後		2					1						
	統語論	2・3・4 前		2					1						「統語論 , 」と「語用論 , 」を交互に開講
	統語論	2・3・4 後		2					1						
	語用論	2・3・4 前		2										兼1	
	語用論	2・3・4 後		2										兼1	
	意味論	2・3・4 前		2										兼1	
	意味論	2・3・4 後		2										兼1	
	コーパス言語学	2・3・4 前		2										兼1	
	コーパス言語学	2・3・4 後		2										兼1	
	文体論	2・3・4 前		2										兼1	
	文体論	2・3・4 後		2										兼1	
	言語類型論A	2・3・4 前		2					1						* 年度ごとに交互に開講
	言語類型論B	2・3・4 後		2					1						
	文字表記論A	2・3・4 前		2										兼1	
	文字表記論B	2・3・4 後		2										兼1	
	社会言語学A	2・3・4 前		2										兼1	
	社会言語学B	2・3・4 後		2										兼1	
	Cross-Cultural Understanding A	1・2・3・4 前		2										兼1	
	Cross-Cultural Understanding B	3・4 後		2										兼1	
	言語文化論	1・2・3・4 前		2					1						他学科学生は2年次以上
	翻訳研究 (翻訳と異文化理解)	2・3・4 前		2										兼1	
	翻訳研究 (異文化摩擦の諸相)	2・3・4 後		2										兼1	
	文学とことばA	2・3・4 後		2										兼1	
	文学とことばB	2・3・4 後		2										兼1	
	言語とアイデンティティ	1・2・3・4 前		2						1					年度ごとに交互に開講
	言語と社会の諸相A	2・3・4 前		2					1						年度ごとに交互に開講
	言語と社会の諸相B	2・3・4 後		2					1						
	言語とところA	2・3・4 前		2					1						年度ごとに交互に開講
	言語とところB	2・3・4 後		2					1						
	第二言語習得基礎論	2 前		2					1						
	第二言語習得基礎論	2 後		2					1						
	日本語教育研究概論	2 前		2						1					
	日本語教育研究概論	2 後		2						1					
	日本語教育研究	3 前		2					1						
	日本語教育研究	3 後		2					1						
	小計(125科目)	-	0	250	0				16	3	1	0	0	兼50	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基盤演習	1年次演習(心理学)	1 前		2					4		1			兼1	心理学専攻は 必修 コミュニケーション専攻は 必修 言語科学専攻は 必修	
	2年次演習(心理学)A	2 前		2					4	1	1					
	2年次演習(心理学)B	2 後		2					3	1	1			兼1		
	1年次演習(コミュニケーション)	1 前		2					2	1				兼1		
	2年次演習(コミュニケーション)	2 前		2					3	1				兼1		
	Writing Skills 1	1 通		2										兼4		
	Writing Skills 2	2 通		2										兼3		
	2年次演習(言語科学)	2 通		4					2	1				兼3		
小計(8科目)	-		0	18	0		-		11	3	1	0	0	兼11		
発展演習	3年次演習(心理学)A	3 前		2					5	1				兼3	心理学専攻は 2単位必修 を交互に開講 「心理学特殊演習(臨床)A,B,C」 「心理学特殊演習(認知)」 「心理学特殊演習(社会)」 「心理学特殊演習(発達)」 コミュニケーション専攻は 必修 言語科学専攻は 必修 *	
	3年次演習(心理学)B	3 後		2					3					兼3		
	心理学特殊演習(臨床)A	3・4 前		2										兼1		
	心理学特殊演習(臨床)B	3・4 前		2					1					兼1		
	心理学特殊演習(臨床)C	3・4 前		2										兼1		
	心理学特殊演習(認知)	3・4 前		2										兼1		
	心理学特殊演習(社会)	3・4 前		2										兼1		
	心理学特殊演習(発達)	3・4 前		2					1					兼2		
	3年次演習(コミュニケーション)	3 前		2					6	1						兼2
	3年次演習(コミュニケーション)	3 後		2					6	1						兼2
	4年次演習(コミュニケーション)	4 前		2					6	1						兼2
	4年次演習(コミュニケーション)	4 後		2					6	1						兼2
	3年次演習(言語科学)	3 通		4					3	1						兼3
	4年次演習(言語科学)	4 通		4					4	1						兼2
	Advanced Writing	3・4 通		4												兼2
	Advanced Reading & Discussion A	3・4 前		2												兼1
	Advanced Reading & Discussion B	3・4 後		2												兼1
	Advanced Speaking A	3・4 前		1												兼2
	Advanced Speaking B	3・4 後		1												兼2
小計(19科目)	-		0	42	0		-		17	3	0	0	0	兼17		
実験・実習	基礎実験演習	1 前		1					1						心理学専攻は 必修 コミュニケーション専攻は 必修 コミュニケーション専攻は 2単位必修 * 講義	
	基礎実験演習	1 後		1					1							
	一般実験演習 A	2 前		2					1	1						
	一般実験演習 B	2 後		2					1		1					
	一般実験演習	3 前		2					2							
	特殊実験演習1	3 後		2					6	1	1			兼1		
	特殊実験演習2A	4 前		1					6	1	1			兼1		
	特殊実験演習2B	4 後		1					6	1	1			兼1		
	コンピュータ・スキルズ	2 前後		2					1							兼1
	コミュニケーション研究法入門	2 後		4					4							
	コミュニケーション研究法実習(質問紙調査法)	3 前		2					1							
	コミュニケーション研究法実習(実験法)	3 前		2					1							
	コミュニケーション研究法実習(内容分析)	3 前		2					1							
	コミュニケーション研究法実習(質的研究)	3 前		2					1							
	社会調査法実習	3・4 前		2						1						
	社会調査法実習	3・4 後		2						1						
	フィールド言語学	2・3・4 通		4					1							
	日本語教育実習	4 通		4					1							兼1
小計(18科目)	-		0	38	0		-		14	2	1	0	0	兼3		
卒業論文	卒業論文	4 通		8					16	3	1			兼5		
	小計(1科目)	-		8	0	0			16	3	1	0	0	兼5		
学科合計(197科目)		-		10	400	0		-		17	3	1	0	0	兼71	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
以下は全学共通カリキュラム																
共通科目	(自然と生命)															
	自然科学と人間A	1・2・3・4 前	2			○								兼1	隔年開講	
	自然科学と人間B	1・2・3・4 後	2			○								兼1		
	科学技術と人間	1・2・3・4 後	2			○								兼1		
	数学の世界	1・2・3・4 前	2			○								兼1		
	現代の数学とその応用	1・2・3・4 後	2			○								兼1		
	統計学入門	1・2・3・4 前	2			○								兼1		
	統計学入門	1・2・3・4 後	2			○								兼1		
	宇宙の科学	1・2・3・4 前	2			○								兼1		
	地球の科学	1・2・3・4 後	2			○								兼1		
	エネルギーの科学	1・2・3・4 後	2			○								兼1		
	物質の科学	1・2・3・4 後	2			○								兼1	隔年開講	
	生命の科学A(生命と物質)	1・2・3・4 前	2			○								兼1	} 年度ごとに交互に開講	
	生命の科学B(生命と生体)	1・2・3・4 後	2			○								兼1		
	地球環境と人間	1・2・3・4 前	2			○								兼1		
	生物と環境A(動物と環境)	1・2・3・4 前	2			○								兼1		
	生物と環境B(植物と環境)	1・2・3・4 前	2			○								兼1		
	環境と社会A	1・2・3・4 前	2			○								兼1		
	環境と社会B	1・2・3・4 後	2			○								兼1		
	人の起源と進化	1・2・3・4 前	2			○								兼1		
	進化生物学入門	1・2・3・4 後	2			○								兼1		
	自然と人間	1・2・3・4 前	2			○								兼1		
	脳科学	1・2・3・4 後	2			○								兼1		
	遺伝の科学(遺伝のしくみ)	1・2・3・4 前	2			○								兼1	平成24年度は休講 平成24年度は休講	
	遺伝の科学(遺伝子工学)	1・2・3・4 後	2			○								兼1		
	からだの科学	1・2・3・4 前	2			○								兼1	} 年度ごとに交互に開講	
	身体適応の科学A(環境適応)	1・2・3・4 前	2			○								兼1		
	身体適応の科学B(運動適応)	1・2・3・4 後	2			○								兼1		
	(人間と思想)															
	心理学入門	1・2・3・4 前後	2			○				1					兼1	} 年度ごとに交互に開講
	精神保健A	1・2・3・4 前	2			○								兼1		
	精神保健B	1・2・3・4 後	2			○								兼1		
	比較行動学A	1・2・3・4 前	2			○								兼1		
	比較行動学B	1・2・3・4 後	2			○								兼1		
心理学と現代社会A	1・2・3・4 前	2			○								兼1			
心理学と現代社会B	1・2・3・4 前	2			○								兼1			
教育と現代社会	1・2・3・4 前	2			○								兼1			
女性学・ジェンダー入門	1・2・3・4 前後	2			○								兼1			
ジェンダーと社会A	1・2・3・4 前	2			○								兼1			
ジェンダーと社会B	1・2・3・4 後	2			○								兼1			
総合講座(女性学・ジェンダー)A	1・2・3・4 前	2			○				1				兼5			
総合講座(女性学・ジェンダー)B	1・2・3・4 後	2			○				3	1			兼1			
論理学入門	1・2・3・4 前	2			○								兼1	} 年度ごとに交互に開講		
哲学と思想A	1・2・3・4 後	2			○								兼1			
哲学と思想B	1・2・3・4 前	2			○								兼1			
科学技術と倫理A	1・2・3・4 後	2			○								兼1			
科学技術と倫理B	1・2・3・4 後	2			○								兼1			
現代思想	1・2・3・4 後	2			○								兼1			
東洋思想	1・2・3・4 後	2			○								兼1			
日本思想史	1・2・3・4 前	2			○								兼1			
キリスト教と諸宗教A	1・2・3・4 前	2			○								兼1			
キリスト教と諸宗教B	1・2・3・4 後	2			○								兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	宗教学	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	日本宗教史	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	宗教と現代社会A	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	宗教と現代社会B	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	比較思想	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	総合講座(比較思想)	1・2・3・4 後		2		○								兼3	
	(文化と芸術)														
	比較文化入門	1・2・3・4 前後		2		○								兼1	
	比較文化特論A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	比較文化特論B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	総合講座(比較文化)	1・2・3・4 前		2		○			1					兼2	
	総合講座(比較文化)	1・2・3・4 後		2		○			1					兼2	
	日本文化史A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	日本文化史B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	世界の文化A(ヨーロッパ)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	世界の文化B(イギリス・アメリカ)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	世界の文化C(ラテンアメリカ)	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	世界の文化D(アジア)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	日本の文学A(古典文学)	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	日本の文学B(近代文学)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	日本の文学C(近代文学)	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	キリスト教と文学	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	女性と文芸	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	児童文学A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	児童文学B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	比較文学A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	比較文学B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	宗教音楽	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	音楽芸術	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	音楽史A	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	音楽史B	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	芸術論A(美術)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	とを交互に開講 「芸術論A(美術)」、 「芸術論B(演劇)」、 「芸術論C(映像芸術)」、 「芸術論D(舞踊)」
	芸術論B(演劇)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	芸術論C(映像芸術)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	芸術論D(舞踊)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	ことばの科学	1・2・3・4 前		2		○								兼1	年度ごとに交互に開講
	ことばと社会A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	ことばと社会B	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	文章表現法	1・2・3・4 前後		2		○								兼2	
	日本語技法A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	日本語技法B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	日本語技法C	1・2・3・4 後		2		○			1						
	(歴史と社会)														
	日本国憲法入門	1・2・3・4 前後		2		○								兼3	
	公共政策と法	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	公共政策と法	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	市民社会と法	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	市民社会と法	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	国際社会と法	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	中心・周辺の歴史	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	世界の地域と民族	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	前近代史の諸相	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	現代史の諸相	1・2・3・4 前		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	人権発達史	1・2・3・4 前		2		○								兼1	} 毎年1科目開講(3年で一巡)
	女性史A	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	女性史B	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	民俗学	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	民俗学	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	社会学入門	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	社会保障と社会福祉	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	現代社会の理論	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	地域社会論	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	都市空間論	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	環境社会学	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	情報と社会	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	情報と社会	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	日本経済入門	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	環境経済論	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	日本産業論	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	日本産業事情	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	グローバル経済の動態	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	国際経済論A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	国際経済論B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	ジェンダーと開発	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	現代の政治社会	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	国際社会と日本	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	比較政治A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	比較政治B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	比較政治C	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	自治と行政	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	現代の環境問題	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	日本政治外交史A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	日本政治外交史B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	平和学A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	平和学B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	現代世界の構造と力学A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	現代世界の構造と力学B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	アーカイブの世界	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	(演習)														
	オープンテーマ演習	2・3・4 前後		2		○			1					兼4	
	キリスト教学副専攻演習	2・3・4 後		2		○								兼1	
	女性学・ジェンダー副専攻演習	2・3・4 後		2		○								兼1	
	比較文化副専攻演習	2・3・4 後		2		○								兼1	
	Critical Thinking演習	2 後		2		○								兼1	
	発話・パフォーマンス演習	2 前		2		○								兼1	
	討論演習1	3 前		2		○								兼2	
	討論演習2	3 後		2		○								兼2	
	トータルプレゼンテーション演習	4 通		4		○								兼2	
	(海外教養講座)														
	海外教養講座A	2・3・4		2					-	-	-	-	-	-	
	共通科目 計(146科目)		0	294	0				6	2	0	0	0	兼101	
外国語科目	(第一外国語)														
	Communication Skills A	1 前	1			○								兼19	
	Communication Skills B	1 後	1			○								兼19	
	Discussion Skills A	1 前	1			○								兼20	
	Discussion Skills B	1 後	1			○								兼20	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	Reading A	1 前	1				○		2					兼26	
	Reading B	1 後	1				○		2					兼26	
	Reading A	2 前	1				○		3					兼28	
	Reading B	2 後	1				○		3					兼28	
	Translation A	2・3・4 前		1			○							兼2	
	Translation B	2・3・4 後		1			○							兼2	
	Reading and Discussion A	2・3・4 前		1			○							兼3	
	Reading and Discussion B	2・3・4 後		1			○							兼3	
	Listening and Presentation A	2・3・4 前		1			○							兼2	
	Listening and Presentation B	2・3・4 後		1			○							兼2	
	Writing A	2・3・4 前		1			○							兼2	
	Writing B	2・3・4 後		1			○							兼3	
	Drama	2・3・4 前		1			○							兼1	
	Speaking	1 前後		2			○							兼2	
	Speaking A	2・3・4 前		1			○							兼4	
	Speaking B	2・3・4 後		1			○							兼4	
	Journalistic English A	2・3・4 前		1			○							兼2	
	Journalistic English B	2・3・4 後		1			○							兼2	
	Intensive English	1・2・3・4		2			○		-	-	-	-	-	-	
	TOEIC講座	2・3・4 前後		1			○							兼3	
	TOEFL講座	2・3・4 前後		1			○							兼1	
	英語特別プログラム (第二外国語)	2・3・4 通		2			○							兼1	
	ドイツ語初級	1 通		4			○							兼8	4単位選択必修
	フランス語初級	1 通		4			○							兼11	
	スペイン語初級	1 通		4			○							兼7	
	中国語初級	1 通		4			○							兼15	
	韓国語初級	1 通		4			○							兼5	
	ドイツ語初級選択	1 通		2			○							兼2	
	フランス語初級選択	1 通		2			○							兼3	
	スペイン語初級選択	1 通		2			○							兼2	
	中国語初級選択	1 通		2			○							兼3	
	韓国語初級選択	1 通		2			○							兼1	
	ドイツ語中級	2・3・4 前後		1			○							兼3	
	フランス語中級	2・3・4 前後		1			○							兼7	
	スペイン語中級	2・3・4 前後		1			○							兼4	
	中国語中級	2・3・4 前後		1			○							兼8	
	韓国語中級	2・3・4 前後		1			○							兼3	
	ドイツ語上級	2・3・4 前後		1			○							兼2	
	フランス語上級	2・3・4 前後		1			○							兼2	
	スペイン語上級	2・3・4 前後		1			○							兼2	
	中国語上級	2・3・4 前後		1			○							兼3	
	韓国語上級	2・3・4 前後		1			○							兼1	
	(ギリシア語・ラテン語)														
	ギリシア語初級1	1・2・3・4 前		1			○							兼1	
	ギリシア語初級2	1・2・3・4 後		1			○							兼1	
	ラテン語初級1	1・2・3・4 前		1			○							兼1	
	ラテン語初級2	1・2・3・4 後		1			○							兼1	
	ギリシア語中級	2・3・4 前後		1			○							兼1	
	ラテン語中級	2・3・4 前後		1			○							兼1	
	外国語科目 計(52科目)		8	67	0				4	0	0	0	0	兼132	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
情報処理科目	コンピュータ	1 前	2			○									兼12
	コンピュータ A(プログラミング)	1・2・3・4 前後		2		○									兼2
	コンピュータ B(プログラミング)	1・2・3・4 前		2		○									兼2
	コンピュータ C(マルチメディア)	1・2・3・4 前後		2		○			1						兼2
	コンピュータ D(UNIXリテラシ)	1・2・3・4 後		2		○									兼3
	コンピュータ E(Webでの情報表現)	2・3・4 後		2		○									兼1
	コンピュータ F(文書作成法)	2・3・4 後		2		○									兼2
	コンピュータ J(情報の分析と表現)	2・3・4 前後		2		○									兼2
	コンピュータ K(文書化と発表技術)	1・2・3・4 前後		2		○									兼1
	コンピュータ L(情報学)	2・3・4 後		2		○									兼1
	コンピュータ A(プログラミング)	2・3・4 前		2		○									兼1
	コンピュータ B(プログラミング)	2・3・4 後		2		○									兼1
	コンピュータ C(マルチメディア)	2・3・4 後		2		○			1						兼1
	コンピュータ・サイエンス(基礎)	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	コンピュータ・サイエンス(応用)	1・2・3・4 後		2		○									兼1
情報処理科目 計(15科目)			2	28	0				1	0	0	0	0	兼17	
健康・運動科学科目	健康・運動科学基礎実習	1 前	1					○							兼11
	健康・運動科学基礎実習	1 後	1					○							兼11
	健康・運動科学A(発育・発達)	2・3・4 前		2		○									兼1
	健康・運動科学B(エネルギー・栄養)	2・3・4 前		2		○									兼1
	健康・運動科学C(スポーツ科学)	2・3・4 前		2		○									兼1
	健康・運動科学D(身体文化)	2・3・4 後		2		○									兼1
	健康・運動科学E(性)	2・3・4 後		2		○									兼1
	健康・運動科学F(保健)	2・3・4 後		2		○									兼1
	スポーツ A	2・3・4 前		1				○							兼1
	スポーツ A	2・3・4 後		1				○							兼1
	スポーツ B	2・3・4 前		1				○							兼1
	スポーツ B	2・3・4 後		1				○							兼1
	フィットネスA	2・3・4 前		1				○							兼1
	フィットネスA	2・3・4 後		1				○							兼1
	フィットネスB	2・3・4 前		1				○							兼1
	フィットネスB	2・3・4 後		1				○							兼1
	身体表現A	2・3・4 前		1				○							兼3
	身体表現A	2・3・4 後		1				○							兼3
	身体表現B	2・3・4 前		1				○							兼1
	身体表現B	2・3・4 後		1				○							兼1
	健康支援実習	2・3・4 前		1				○							兼1
	健康支援実習	2・3・4 後		1				○							兼1
健康・運動科学科目 計(22科目)			2	26	0				0	0	0	0	0	兼20	
キリスト教学科目	キリスト教学(入門1)	1 前	2			○									兼4
	キリスト教学(入門2)	1 後	2			○									兼4
	キリスト教学 A(旧約聖書の世界)	2・3・4 前		2		○									兼1
	キリスト教学 B(新約聖書の世界)	2・3・4 前		2		○									兼1
	キリスト教学 C(キリスト教の歴史)	2・3・4 後		2		○									兼1
	キリスト教学 D(キリスト教の思想)	2・3・4 前		2		○									兼1
	キリスト教学 E(キリスト教と社会)	2・3・4 後		2		○									兼1
	キリスト教学 F(キリスト教と倫理)	2・3・4 前		2		○									兼1
	キリスト教学 G(キリスト教と女性)	2・3・4 前		2		○									兼1
	キリスト教学 H(キリスト教と文化)	2・3・4 前後		2		○									兼2
	キリスト教学 J(日本のキリスト教)	2・3・4 前		2		○									兼1
	キリスト教学 K(アジアのキリスト教)	2・3・4 後		2		○									兼1
	キリスト教学 L(世界のキリスト教)	2・3・4 前		2		○									兼1

2単位
選択必修

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	キリスト教学 A(聖書とその周辺)	2・3・4 後		2		○								兼1	毎年2科目開講
	キリスト教学 B(キリスト教史とその周辺)	2・3・4 後		2		○								兼1	
	キリスト教学 C(キリスト教思想とその周辺)	2・3・4 前		2		○								兼1	
	キリスト教学科目 計(16科目)		4	28	0				0	0	0	0	0	兼9	
教職特設科目	社会学概論	2・3・4 前		2										兼1	教職特設科目は教育職員の資格を得ようとする者が履修できる。 (取得する免許科目により指定の科目を選択必修)
	社会学概論	2・3・4 後		2										兼1	
	ミクロ経済学入門	1・2・3・4 前		2										兼1	
	マクロ経済学入門	1・2・3・4 前		2										兼1	
	法学概論	1・2・3・4 前		2										兼1	
	政治学概論	1・2・3・4 後		2										兼1	
	教職特設科目 計(6科目)		0	12	0				0	0	0	0	0	兼5	
教職課程科目	教職に関する科目														教育職員の資格を得ようとする者は必修 教育職員の資格を得ようとする者は選択必修 (取得する免許教科の科目) 年度ごとに交互に開講 中学校教諭免許状を取得する場合に必修 教育職員の資格を得ようとする者は必修 教育職員の資格を得ようとする者は選択必修 中学校教諭免許状を取得する場合に必修
	教師論	1・2・3・4 前後		2										兼2	
	教育原論	2・3・4 後		2										兼1	
	教育心理学	2・3・4 後		2										兼2	
	教育社会学	2・3・4 前		2										兼1	
	教育課程・教育方法論	2・3・4 前後		2										兼1	
	社会・公民科教育法A	2・3 前			2									兼1	
	社会・公民科教育法B	2・3 後			2									兼2	
	情報科教育法A	2・3 前			2									兼1	
	情報科教育法B	2・3 後			2									兼1	
	英語教授法	3 前			2				1						
	英語教育研究A	3 前			2									兼1	
	英語教育研究B	3 前			2									兼1	
	英語科教育法	2 後			2				1						
	道德教育の研究	2・3・4 前後			2									兼1	
	特別活動論	2・3・4 前			2									兼1	
	生徒指導論	2・3・4 前			2									兼1	
	学校カウンセリング	2・3・4 前			2									兼1	
	総合演習	3・4 前後		2										兼3	
	教育実習事前事後指導	3 後			1									兼3	
	教育実習A	4 通			4									兼3	
	教育実習C	4 通			2									兼3	
介護等の体験関連科目															
特別支援教育と社会福祉	1・2・3・4 前後		2										兼1		
教職課程科目 計(22科目)		0	14	31				1	0	0	0	0	兼11		
学芸員課程科目	博物館概論	2 前		2										兼1	学芸員の資格を得ようとする者は必修
	博物館経営・情報論	2 前		2										兼1	
	博物館資料論	2 後		2										兼1	
	教育学概論	2・3・4 前		2										兼1	
	生涯学習論	2・3・4 後		2										兼1	
	視聴覚教育	2・3・4 前後		2										兼1	
	博物館実習1	3 通			2									兼2	
	博物館実習2	4 通			1									兼1	
	学芸員課程科目 計(8科目)		0	12	3				0	0	0	0	0	兼6	
外国人留学生															外国人留学生のための科目
	日本語 (入門)	1 前		4					1					兼1	「日本語 (入門)」、「日本語 (応用)」の2科目計8単位は、外国語科目のうち第一外国語の必修8単位に代えることができる。
	日本語 (応用)	1 後		4				1					兼1		
	英語初級	1 前		2										兼1	「英語初級」、「英語初級」の2科目計4単位は、外国語科目のうち第二外国語の必修4単位に代えることができる。
英語初級	1 後		2									兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
特別科目	日本事情A	1 前		2										兼1	「日本事情A」、「日本事情B」、「日本事情C」、「日本事情D」各2単位は、共通科目の下記領域の各2単位に代えることができる。 「日本事情A」 「歴史と社会」領域の2単位 「日本事情B」 「歴史と社会」領域の2単位 「日本事情C」 「人間と思想」領域の2単位 「日本事情D」 「文化と芸術」領域の2単位
	日本事情B	1 後		2										兼1	
	日本事情C	2 前		2										兼1	
	日本事情D	2 後		2										兼1	
	外国人留学生特別科目 計(8科目)			0	20	0				1	1	0	0	0	
全学共通カリキュラム等 合計(295科目)			16	501	34				10	2	0	0	0	兼284	
総合計(492科目)			26	901	34				17	3	1	0	0	兼336	
学位又は称号	学士(教養)		学位又は学科の分野			文学関係, 社会学・社会福祉学関係									
卒業要件及び履修方法												授業期間等			
卒業要件												1学年の学期区分	2学期		
4年以上在学し所定科目につき130単位以上を修得しなければならない。												1学期の授業期間	15週		
修得すべき授業科目と単位数は、次のとおりとする。												1時限の授業時間	90分		
(1) 共通科目 選択必修科目 16単位															
(2) 外国語科目 第一外国語 必修科目 8単位															
第二外国語 選択必修科目 4単位 計12単位															
(3) 情報処理科目 必修科目 2単位															
(4) 健康・運動科学科目 必修科目 2単位															
(5) キリスト教学科目 必修科目及び選択必修科目 6単位															
(6) 学科科目(自学科)															
必修科目、選択必修科目、選択科目合わせて 64単位															
(7) 自由選択科目 28単位															
履修方法															
履修科目の登録単位数の上限は、原則として1年間に44単位とする。															
言語科学専攻の学生は、「*」印の範囲において22単位を修得しなければならない。ただし、選択必修科目の単位として修得した単位を除く。															
4年次に進級するには、前年度末までに、卒業に必要な単位数130単位のうち、所定の科目の単位を含む86単位を修得していなければならない。															

教 育 課 程 等 の 概 要

(現代教養学部数理科学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
数学基礎	微分積分学	1 前	2					1							
	微分積分学	1 後	2					1							
	微分積分学演習	1 前	1					1							
	微分積分学演習	1 後	1					1							
	線形代数学	1 前	2							1					
	線形代数学演習	1 前	1							1					
	小計(6科目)	-	9	0	0	-		1	0	1	0	0	兼0		
解析学	解析学概論	2 前	2					1							
	解析学概論	2 後	2					1							
	解析学の応用	2 前	2					1							
	連続と極限	2 後	2					1							
	複素関数論	3 前	2					1							
	複素関数論	3 後	2					1							
	数理モデルと微分方程式	3 前	2											兼1	
	数理モデルと微分方程式	3 後	2											兼1	
	数理解析学A	3・4 前	2											兼1	
	数理解析学A	3・4 後	2											兼1	
	数理解析学B	3・4 前	2					1							
	数理解析学B	3・4 後	2					1							
	情報解析学	3・4 前	2					1							
	情報解析学	3・4 後	2					1							
小計(14科目)	-	0	28	0	-		2	0	0	0	0	兼1	*1 数学専攻の学生は、「*1」印の範囲において20単位を修得しなければならない。 情報理学専攻の学生は、「*2」印の範囲において19単位を修得しなければならない。ただし、「」印の選択必修科目の単位として修得する単位を除く。 } *2 「数理解析学B」,「B」と「情報解析学」を交互に開講		
代数学	線形代数学	1 後	2							1					
	線形代数学演習	1 後	1							1					
	線形代数学	2 前	2					1							
	代数学A	2 前	2							1					
	代数学A	2 後	2							1					
	代数学B	2 後	2							1					
	代数学C	2 後	2					1							
	情報代数学	3 前	2					1							
	情報代数学	3 後	2					1							
	符号と暗号A	3・4 前	2					1							
	符号と暗号B	3・4 前	2							1					
	代数学特論A	3・4 前	2											兼1	
	代数学特論A	3・4 後	2											兼1	
	代数学特論B	4 前	2					1							
	代数学特論B	4 後	2					1							
小計(15科目)	-	0	29	0	-		1	0	1	0	0	兼1	数学専攻 } *2 は必修 } } *1 } *2 情報理学専攻の学生は、「」印の5科目のうち4単位を修得しなければならない。 } 年度ごとに交互に開講 } *2 } 年度ごとに交互に開講		
幾何学	幾何学A	2 前	2					1							
	幾何学A	2 後	2					1							
	幾何学とグラフ	2 後	2						1						
	幾何学B	3 前	2					1							
	幾何学B	3 後	2					1							
	グラフとその応用	3 前	2						1						
	結び目理論	3・4 前	2											兼1	
	結び目理論	3・4 後	2											兼1	
	位相幾何学A	4 前	2					1							
	位相幾何学A	4 後	2					1							
	位相幾何学B	4 前	2						1						
小計(11科目)	-	0	22	0	-		1	1	1	0	0	兼1	*1 *2		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	位相幾何学B	4 後		2					1							
	小計(12科目)	-	0	24	0				1	1	0	0	0	兼1		
応用数学	確率統計	2 前		2					1					*1	「確率統計特論A , A」と「確率統計特論B , B」を交互に開講	
	確率統計	2 後		2					1							
	数理モデルと確率論	3 前		2					1							
	数理モデルと確率論	3 後		2					1							
	確率統計特論A	3・4 前		2					1							
	確率統計特論A	3・4 後		2					1							
	確率統計特論B	3・4 前		2					1							
	確率統計特論B	3・4 後		2					1							
小計(8科目)	-	0	16	0				1	0	0	0	0	兼0			
情報学	情報学概論	1 前		2							1			*1	*2	年度ごとに交互に開講
	情報数学	1 後		2						1						
	プログラミング	2 後		2							1					
	ネットワーク	2 前		2						1						
	マルチメディア概論	2・3 後		2												
	アルゴリズムとデータ構造	2・3 後		2					1							
	コンピュータアーキテクチャ	3 前		2												
	数値計算	3・4 前		2					1							
	コンピュータグラフィックス	3・4 後		2							1					
	ソフトウェア工学	3・4 後		2												
	データベースA	3・4 前		2												
	データベースB	3・4 前		2												
	インターネット	3・4 前		2												
	オペレーティングシステム	3・4 後		2												
	情報学特論A	3・4 前		2							1					
	情報学特論B	3・4 後		2						1						
	情報学特論C	3・4 前		2							1					
	情報と職業	2・3・4 前		2												
小計(18科目)	-	0	36	0				1	2	1	0	0	兼3	*1		
自然科学	物理学概論	1・2 前		2					1					*2	毎年1科目開講	
	化学概論	1・2 後		2					1							
	生物学概論	1・2 後		2					1							
	力学	2・3・4 前		2					1							
	力学	2・3・4 後		2					1							
	電磁気学	2・3・4 前		2					1							
	電磁気学	2・3・4 後		2					1							
	数理物理学	2・3・4 後		2					1							
	現代物理学A	2・3・4 前		2					1							
	現代物理学B	2・3・4 後		2					1							
	物理化学A	2・3・4 前		2					1							
	物理化学B	2・3・4 後		2					1							
	化学反応学	2・3・4 前		2					1							
	物質科学	2・3・4 後		2												
	環境科学	2・3・4 前		2					1							
	現代化学A	2・3・4 前		2					1							
	現代化学B	2・3・4 後		2												
	基礎生態学	2・3・4 前		2					1							
	基礎生態学	2・3・4 後		2					1							
	応用生態学	2・3・4 前		2					1							
応用生態学	2・3・4 後		2					1								
生物分類学	2・3・4 前		2					1								
進化生物学	2・3・4 後		2					1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	生物学特論A	2・3・4 前		2					1						
	生物学特論B	2・3・4 後		2					1						
	小計(25科目)	-	0	50	0				3	0	0	0	0	兼1	
情報理学	数理モデルとシミュレーションA	2・3 前		2						1					} *1 } *2
	数理モデルとシミュレーションA	2・3 後		2						1					
	数理モデルとシミュレーションB	3・4 前		2					1						
	数理モデルとシミュレーションB	3・4 後		2					1						
	小計(4科目)	-	0	8	0				1	1	0	0	0	兼0	
講究	数学講究	4 通		8					5	1	1				数学専攻は必修
	情報理学講究	4 通		8					5	1	1				情報理学専攻は必修
	小計(2科目)	-	0	16	0				10	2	2	0	0	兼0	
学科合計(104科目)			-	9	207	0			10	2	2	0	0	兼7	
以下は全学共通カリキュラム等															
共通科目	(自然と生命)														兼1 隔年開講 共通科目の履修方法及び卒業要件 「自然と生命」、「人間と思想」、「文化と芸術」、「歴史と社会」の4領域からそれぞれ必ず各1科目2単位を含めて、演習、海外教養講座を除く4領域から16単位を修得しなければならない。 } 年度ごとに交互に開講 平成24年度は休講 平成24年度は休講
	自然科学と人間A	1・2・3・4 前		2		○			1						
	自然科学と人間B	1・2・3・4 後		2		○			1						
	科学技術と人間	1・2・3・4 後		2		○									
	数学の世界	1・2・3・4 前		2		○				1					
	現代の数学とその応用	1・2・3・4 後		2		○					1				
	統計学入門	1・2・3・4 前		2		○									
	統計学入門	1・2・3・4 後		2		○									
	宇宙の科学	1・2・3・4 前		2		○			1						
	地球の科学	1・2・3・4 後		2		○									
	エネルギーの科学	1・2・3・4 後		2		○									
	物質の科学	1・2・3・4 後		2		○									
	生命の科学A(生命と物質)	1・2・3・4 前		2		○									
	生命の科学B(生命と生体)	1・2・3・4 後		2		○									
	地球環境と人間	1・2・3・4 前		2		○			1						
	生物と環境A(動物と環境)	1・2・3・4 前		2		○			1						
	生物と環境B(植物と環境)	1・2・3・4 前		2		○									
	環境と社会A	1・2・3・4 前		2		○			1						
	環境と社会B	1・2・3・4 後		2		○			1						
	人の起源と進化	1・2・3・4 前		2		○									
	進化生物学入門	1・2・3・4 後		2		○			1						
	自然と人間	1・2・3・4 前		2		○									
	脳の科学	1・2・3・4 後		2		○			1						
	遺伝の科学 (遺伝のしくみ)	1・2・3・4 前		2		○									
	遺伝の科学 (遺伝子工学)	1・2・3・4 後		2		○									
	からだの科学	1・2・3・4 前		2		○									
	身体適応の科学A(環境適応)	1・2・3・4 前		2		○									
	身体適応の科学B(運動適応)	1・2・3・4 後		2		○									
	(人間と思想)														
心理学入門	1・2・3・4 前後		2		○										
精神保健A	1・2・3・4 前		2		○										
精神保健B	1・2・3・4 後		2		○										
比較行動学A	1・2・3・4 前		2		○										
比較行動学B	1・2・3・4 後		2		○										
心理学と現代社会A	1・2・3・4 前		2		○										
心理学と現代社会B	1・2・3・4 前		2		○										
教育と現代社会	1・2・3・4 前		2		○										
女性学・ジェンダー入門	1・2・3・4 前後		2		○										
ジェンダーと社会A	1・2・3・4 前		2		○										
ジェンダーと社会B	1・2・3・4 後		2		○										

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	総合講座(女性学・ジェンダー)A	1・2・3・4 前		2		○								兼6	隔年開講 } 年度ごとに交互に開講
	総合講座(女性学・ジェンダー)B	1・2・3・4 後		2		○								兼5	
	論理学入門	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	哲学と思想A	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	哲学と思想B	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	科学技術と倫理A	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	科学技術と倫理B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	現代思想	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	東洋思想	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	日本思想史	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	キリスト教と諸宗教A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	キリスト教と諸宗教B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	宗教学	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	日本宗教史	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	宗教と現代社会A	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	宗教と現代社会B	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	比較思想	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	総合講座(比較思想)	1・2・3・4 後		2		○								兼3	
	(文化と芸術)														} 年度ごとに交互に開講
	比較文化入門	1・2・3・4 前後		2		○								兼1	
	比較文化特論A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	比較文化特論B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	総合講座(比較文化)	1・2・3・4 前		2		○								兼3	
	総合講座(比較文化)	1・2・3・4 後		2		○								兼3	
	日本文化史A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	日本文化史B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	世界の文化A(ヨーロッパ)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	世界の文化B(イギリス・アメリカ)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	世界の文化C(ラテンアメリカ)	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	世界の文化D(アジア)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	日本の文学A(古典文学)	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	日本の文学B(近代文学)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	日本の文学C(近代文学)	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	キリスト教と文学	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	女性と文芸	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	児童文学A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	児童文学B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	比較文学A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	比較文学B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	宗教音楽	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	音楽芸術	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	音楽史A	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	音楽史B	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	芸術論A(美術)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	芸術論B(演劇)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	芸術論C(映像芸術)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	芸術論D(舞踊)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	ことばの科学	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	ことばと社会A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	ことばと社会B	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	文章表現法	1・2・3・4 前後		2		○								兼2	
	日本語技法A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	日本語技法B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	日本語技法C (歴史と社会)	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	日本国憲法入門	1・2・3・4 前後		2		○								兼3		
	公共政策と法	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	公共政策と法	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	市民社会と法	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	市民社会と法	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	国際社会と法	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	中心・周辺の歴史	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	世界の地域と民族	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	前近代史の諸相	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	現代史の諸相	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	人権発達史	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	女性史A	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	女性史B	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	民俗学	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	民俗学	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	社会学入門	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	社会保障と社会福祉	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	現代社会の理論	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	地域社会論	1・2・3・4 後		2		○								兼1	} 毎年1科目開講(3年で一巡)	
	都市空間論	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	環境社会学	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	情報と社会	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	情報と社会	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	日本経済入門	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	環境経済論	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	日本産業論	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	日本産業事情	1・2・3・4 後		2		○								兼1		} 隔年開講
	グローバル経済の動態	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	国際経済論A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	} 「グローバル経済の動態」と「国際経済論A、B」を交互に開講	
	国際経済論B	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	ジェンダーと開発	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	現代の政治社会	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	国際社会と日本	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	比較政治A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	} 隔年開講	
	比較政治B	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	比較政治C	1・2・3・4 前		2		○								兼1	} 隔年開講	
	自治と行政	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	現代の環境問題	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	日本政治外交史A	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	日本政治外交史B	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	平和学A	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	平和学B	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	現代世界の構造と力学A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	} 年度ごとに交互に開講	
	現代世界の構造と力学B	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	アーカイブの世界 (演習)	1・2・3・4 前		2		○								兼1		
	オープンテーマ演習	2・3・4 前後		2		○								兼5		
	キリスト教学副専攻演習	2・3・4 後		2		○								兼1		
	女性学・ジェンダー副専攻演習	2・3・4 後		2		○								兼1		
	比較文化副専攻演習	2・3・4 後		2		○								兼1		
	Critical Thinking演習	2 後		2		○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	発話・パフォーマンス演習	2前	2				○								兼1	
	討論演習1	3前	2				○								兼2	
	討論演習2	3後	2				○								兼2	
	トータルプレゼンテーション演習 (海外教養講座)	4通	4				○								兼2	
	海外教養講座A	2・3・4	2						-	-	-	-	-	-	-	
	共通科目 計(146科目)		0	294	0					3	1	1	0	0	兼104	
	(第一外国語)															
外国語科目	Communication Skills A	1前	1				○								兼19	
	Communication Skills B	1後	1				○								兼19	
	Discussion Skills A	1前	1				○								兼20	
	Discussion Skills B	1後	1				○								兼20	
	Reading A	1前	1				○								兼28	
	Reading B	1後	1				○								兼28	
	Reading A	2前	1				○								兼31	
	Reading B	2後	1				○								兼31	
	Translation A	2・3・4前	1				○								兼2	
	Translation B	2・3・4後	1				○								兼2	
	Reading and Discussion A	2・3・4前	1				○								兼3	
	Reading and Discussion B	2・3・4後	1				○								兼3	
	Listening and Presentation A	2・3・4前	1				○								兼2	
	Listening and Presentation B	2・3・4後	1				○								兼2	
	Writing A	2・3・4前	1				○								兼3	
	Writing B	2・3・4後	1				○								兼3	
	Drama	2・3・4前	1				○								兼1	
	Speaking	1前後	2				○								兼2	
	Speaking A	2・3・4前	1				○								兼4	
	Speaking B	2・3・4後	1				○								兼4	
	Journalistic English A	2・3・4前	1				○								兼2	
	Journalistic English B	2・3・4後	1				○								兼2	
	Intensive English	1・2・3・4	2				○			-	-	-	-	-	-	
	TOEIC講座	2・3・4前後	1				○								兼3	
	TOEFL講座	2・3・4前後	1				○								兼1	
	英語特別プログラム	2・3・4通	2				○								兼1	
	(第二外国語)															
	ドイツ語初級	1通	4				○								兼8	
	フランス語初級	1通	4				○								兼11	
	スペイン語初級	1通	4				○								兼7	
	中国語初級	1通	4				○								兼15	
	韓国語初級	1通	4				○								兼5	
ドイツ語初級選択	1通	2				○								兼2		
フランス語初級選択	1通	2				○								兼3		
スペイン語初級選択	1通	2				○								兼2		
中国語初級選択	1通	2				○								兼3		
韓国語初級選択	1通	2				○								兼1		
ドイツ語中級	2・3・4前後	1				○								兼3		
フランス語中級	2・3・4前後	1				○								兼7		
スペイン語中級	2・3・4前後	1				○								兼4		
中国語中級	2・3・4前後	1				○								兼8		
韓国語中級	2・3・4前後	1				○								兼3		
ドイツ語上級	2・3・4前後	1				○								兼2		
フランス語上級	2・3・4前後	1				○								兼2		
スペイン語上級	2・3・4前後	1				○								兼2		

4単位選択必修

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	中国語上級	2・3・4 前後		1			○								兼3
	韓国語上級	2・3・4 前後		1			○								兼1
	(ギリシア語・ラテン語)														
	ギリシア語初級1	1・2・3・4 前		1			○								兼1
	ギリシア語初級2	1・2・3・4 後		1			○								兼1
	ラテン語初級1	1・2・3・4 前		1			○								兼1
	ラテン語初級2	1・2・3・4 後		1			○								兼1
	ギリシア語中級	2・3・4 前後		1			○								兼1
	ラテン語中級	2・3・4 前後		1			○								兼1
外国語科目 計(52科目)			8	67	0				0	0	0	0	0	0	兼136
情報処理科目	コンピュータ	1 前	2				○			2					兼10
	コンピュータ A(プログラミング)	1・2・3・4 前後		2			○			1	1				
	コンピュータ B(プログラミング)	1・2・3・4 前		2			○								兼2
	コンピュータ C(マルチメディア)	1・2・3・4 前後		2			○								兼3
	コンピュータ D(UNIXリテラシ)	1・2・3・4 後		2			○			2	1				兼1
	コンピュータ E(Webでの情報表現)	2・3・4 後		2			○								兼1
	コンピュータ F(文書作成法)	2・3・4 後		2			○			1		1			
	コンピュータ J(情報の分析と表現)	2・3・4 前後		2			○								兼2
	コンピュータ K(文書化と発表技術)	1・2・3・4 前後		2			○								兼1
	コンピュータ L(情報学)	2・3・4 後		2			○								兼1
	コンピュータ A(プログラミング)	2・3・4 前		2			○			1					
	コンピュータ B(プログラミング)	2・3・4 後		2			○								兼1
	コンピュータ C(マルチメディア)	2・3・4 後		2			○								兼2
	コンピュータ・サイエンス(基礎)	1・2・3・4 前		2			○								兼1
コンピュータ・サイエンス(応用)	1・2・3・4 後		2			○								兼1	
情報処理科目 計(15科目)			2	28	0				2	1	1	0	0	0	兼14
健康・運動科学科目	健康・運動科学基礎実習	1 前	1					○							兼11
	健康・運動科学基礎実習	1 後	1					○							兼11
	健康・運動科学A(発育・発達)	2・3・4 前		2			○								兼1
	健康・運動科学B(エネルギー・栄養)	2・3・4 前		2			○								兼1
	健康・運動科学C(スポーツ科学)	2・3・4 前		2			○								兼1
	健康・運動科学D(身体文化)	2・3・4 後		2			○								兼1
	健康・運動科学E(性)	2・3・4 後		2			○								兼1
	健康・運動科学F(保健)	2・3・4 後		2			○								兼1
	スポーツ A	2・3・4 前		1				○							兼1
	スポーツ A	2・3・4 後		1				○							兼1
	スポーツ B	2・3・4 前		1				○							兼1
	スポーツ B	2・3・4 後		1				○							兼1
	フィットネスA	2・3・4 前		1				○							兼1
	フィットネスA	2・3・4 後		1				○							兼1
	フィットネスB	2・3・4 前		1				○							兼1
	フィットネスB	2・3・4 後		1				○							兼1
	身体表現A	2・3・4 前		1				○							兼3
	身体表現A	2・3・4 後		1				○							兼3
	身体表現B	2・3・4 前		1				○							兼1
	身体表現B	2・3・4 後		1				○							兼1
健康支援実習	2・3・4 前		1				○							兼1	
健康支援実習	2・3・4 後		1				○							兼1	
健康・運動科学科目 計(22科目)			2	26	0				0	0	0	0	0	0	兼20
キリスト	キリスト教学(入門1)	1 前	2				○								兼4
	キリスト教学(入門2)	1 後	2				○								兼4
	キリスト教学 A(旧約聖書の世界)	2・3・4 前		2			○								兼1
	キリスト教学 B(新約聖書の世界)	2・3・4 前		2			○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教学科目	キリスト教学 C(キリスト教の歴史)	2・3・4 後		2		○								兼1	2単位 選択必修 } 毎年2科目開講	
	キリスト教学 D(キリスト教の思想)	2・3・4 前		2		○								兼1		
	キリスト教学 E(キリスト教と社会)	2・3・4 後		2		○								兼1		
	キリスト教学 F(キリスト教と倫理)	2・3・4 前		2		○								兼1		
	キリスト教学 G(キリスト教と女性)	2・3・4 前		2		○								兼1		
	キリスト教学 H(キリスト教と文化)	2・3・4 前後		2		○								兼2		
	キリスト教学 J(日本のキリスト教)	2・3・4 前		2		○								兼1		
	キリスト教学 K(アジアのキリスト教)	2・3・4 後		2		○								兼1		
	キリスト教学 L(世界のキリスト教)	2・3・4 前		2		○								兼1		
	キリスト教学 A(聖書とその周辺)	2・3・4 後		2		○								兼1		
	キリスト教学 B(キリスト教史とその周辺)	2・3・4 後		2		○								兼1		
	キリスト教学 C(キリスト教思想とその周辺)	2・3・4 前		2		○								兼1		
キリスト教学科目 計(16科目)			4	28	0				0	0	0	0	0	兼9		
教職課程科目	教職に関する科目															
	教師論	1・2・3・4 前後		2											兼2	} 教育職員の資格を得ようとする者は必修 } 教育職員の資格を得ようとする者は選択必修 (取得する免許教科の科目) } 年度ごとに交互に開講 } 中学校教諭免許状を取得する場合に必修 } 教育職員の資格を得ようとする者は必修 } 教育職員の資格を得ようとする者は選択必修
	教育原論	2・3・4 後		2											兼1	
	教育心理学	2・3・4 後		2											兼2	
	教育社会学	2・3・4 前		2											兼1	
	教育課程・教育方法論	2・3・4 前後		2											兼1	
	情報科教育法A	2・3 前			2										兼1	
	情報科教育法B	2・3 後			2										兼1	
	数学科教育法A	2・3 前			2										兼1	
	数学科教育法B	2・3 後			2										兼1	
	数学科教育研究A	2・3 後			2										兼1	
	数学科教育研究B	2・3 後			2										兼1	
	道徳教育の研究	2・3・4 前後			2										兼1	
	特別活動論	2・3・4 前			2										兼1	
	生徒指導論	2・3・4 前			2										兼1	
	学校カウンセリング	2・3・4 前			2										兼1	
	総合演習	3・4 前後		2											兼3	
	教育実習事前事後指導	3 後			1										兼3	
	教育実習A	4 通			4										兼3	
教育実習C	4 通			2										兼3		
介護等の体験関連科目																
特別支援教育と社会福祉	1・2・3・4 前後		2											兼1		
教職課程科目 計(20科目)			0	14	27				0	0	0	0	0	兼9		
学芸員課程科目	博物館概論	2 前		2											兼1	} 学芸員の資格を得ようとする者は必修
	博物館経営・情報論	2 前		2											兼1	
	博物館資料論	2 後		2											兼1	
	教育学概論	2・3・4 前		2											兼1	
	生涯学習論	2・3・4 後		2											兼1	
	視聴覚教育	2・3・4 前後		2											兼1	
	博物館実習1	3 通			2										兼2	
	博物館実習2	4 通			1										兼1	
	学芸員課程科目 計(8科目)			0	12	3				0	0	0	0	0	兼6	
外国人留学	外国人留学生のための科目															
	日本語 (入門)	1 前		4											兼2	「日本語 (入門)」、「日本語 (応用)」の2科目計8単位は、外国語科目のうち第一外国語の必修8単位に代えることができる。 「英語初級」、「英語初級」の2科目計4単位は、外国語科目のうち第二外国語の必修4単位に代えることができる。
	日本語 (応用)	1 後		4											兼2	
	英語初級	1 前		2											兼1	
英語初級	1 後		2											兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
生 特 別 科 目	日本事情A	1 前		2										兼1	「日本事情A」、「日本事情B」、「日本事情C」、「日本事情D」各2単位は、共通科目の下記領域の各2単位に代えることができる。 「日本事情A」 「歴史と社会」領域の2単位 「日本事情B」 「歴史と社会」領域の2単位 「日本事情C」 「人間と思想」領域の2単位 「日本事情D」 「文化と芸術」領域の2単位
	日本事情B	1 後		2										兼1	
	日本事情C	2 前		2										兼1	
	日本事情D	2 後		2										兼1	
	外国人留学生特別科目 計(8科目)			0	20	0				0	0	0	0	0	
全学共通カリキュラム等 合計(287科目)				16	489	30			5	2	1	0	0	兼283	
総合計(391科目)				25	696	30			10	2	2	0	0	兼290	
学位又は称号		学士(理学)		学位又は学科の分野				理学関係							
卒業要件及び履修方法											授業期間等				
卒業要件											1学年の学期区分		2学期		
4年以上在学し所定科目につき130単位以上を修得しなければならない。											1学期の授業期間		15週		
修得すべき授業科目と単位数は、次のとおりとする。											1時限の授業時間		90分		
(1) 共通科目 選択必修科目 16単位															
(2) 外国語科目 第一外国語 必修科目 8単位															
第二外国語 選択必修科目 4単位 計12単位															
(3) 情報処理科目 必修科目 2単位															
(4) 健康・運動科学科目 必修科目 2単位															
(5) キリスト教学科目 必修科目及び選択必修科目 6単位															
(6) 学科科目(自学科)															
必修科目、選択必修科目、選択科目合わせて 72単位															
(7) 自由選択科目 20単位															
履修方法															
履修科目の登録単位数の上限は、原則として1年間に44単位とする。															
情報理学専攻の学生は、「」印の5科目のうち4単位を修得しなければならない。															
数学専攻の学生は、「*1」印の範囲において20単位を修得しなければならない。															
情報理学専攻の学生は、「*2」印の範囲において19単位を修得しなければならない。ただし、「」印の選択必修科目の単位として修得する単位を除く。															
4年次に進級するには、前年度末までに、卒業に必要な単位数130単位のうち、所定の科目の単位を含む86単位を修得していなければならない。															

別記様式第2号(その3の1)

授 業 科 目 の 概 要 (人間科学研究科 人間文化科学専攻 博士前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 基礎	人間文化科学基礎 演習	<p>(概要)本演習は、人間の営みと知の所産である文化の諸相を実践的かつ統合的に理解し、人間文化科学探求の基礎を涵養することを目的とする。そのために、この人間文化科学を構成する以下の五分野の具体的な研究事例を、他分野からの視点を交えて多角的に検討する演習を行い、分野間の有効な交流を促す。この演習を通じて、人間文化科学を専攻する学生は、基本的な研究調査能力を培うとともに、人間文化科学が対象とする諸分野とその全体像を把握することができる。演習はオムニバス方式とし、その詳細は以下の通りである。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(久保光志、H25年度近藤裕子/H24年度今井久代、原田範行、H25年度高田陽介/H24年度坂下史、H25年度熊谷智子/H24年度松尾慎/2回):人間文化科学の全体像とその特徴に関する説明</p> <p>(久保光志/2回):哲学・思想文化分野に関する研究事例発表と検討</p> <p>(平成25年度近藤裕子2回/平成24年度今井久代2回):日本文学文化分野に関する研究事例発表と検討</p> <p>(原田範行/2回):英語文学文化分野に関する研究事例発表と検討</p> <p>(平成25年度高田陽介2回/平成24年度坂下史2回):歴史文化分野に関する研究事例発表と検討</p> <p>(平成25年度熊谷智子2回/平成24年度松尾慎2回):現代日本語・日本語教育分野に関する研究事例発表と検討</p> <p>(久保光志、平成25年度近藤裕子/平成24年度今井久代、原田範行、平成25年度高田陽介/平成24年度坂下史、平成25年度熊谷智子/平成24年度松尾慎/3回):各分野の発表に関する総評(発表内容、研究手法、他分野からのコメントなどを全体的に検討)、演習のまとめとして分野間交流のあり方についての具体的な提案を提示</p>	オムニバス方式
	人間文化科学研究法	<p>(概要)本授業は、扱う対象が時代的にも地域的にも多彩な人間文化科学を探求するための基本的な研究法を、豊富な先行研究とそれらが有する今後の課題を軸に教授し、学生が各種の研究法に精通することを目的とする。具体的には対象地域をもとに東洋系、西洋系の二つの側面から研究法を紹介し、その特色を考察する。最終的には、この両者の相違点と共通点、相互に利用可能な諸点を明らかにし、人間文化科学探求のための方法論を統合的に把握する。講義はオムニバス方式とし、その詳細は以下の通りである。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(菅原克也、Ewick, David/2回):人間文化科学研究法の概要説明</p> <p>(菅原克也/6回):東洋系を中心とする人間文化科学研究法について。思想、文学、歴史、文化研究のための各種方法論とその特徴を紹介・比較しながら、東洋系の人間文化科学研究法についての統合的理解をめざす。</p> <p>(Ewick, David/6回):西洋系を中心とする人間文化科学研究法について。思想、文学、歴史、文化研究のための各種方法論とその特徴を紹介・比較しながら、西洋系の人間文化科学研究法についての統合的な理解をめざす。</p> <p>(菅原克也、Ewick, David/1回):東洋系および西洋系人間文化科学研究法のそれぞれのまとめと比較。研究法における相互交流の可能性についての提案。</p>	オムニバス方式

		人間文化交流研究	本授業は、人間文化科学を研究する上で不可欠な異文化間交流について、その態様や内容、受容や変容を含むさまざまな関係などを、具体的な事例をもとに多角的に考察し、人間文化科学が内包するダイナミズムを提示することを目的とする。異文化間交流には、翻訳や翻案から言語教育、言語政策、あるいは政治的・思想的影響関係までさまざまな形態の影響関係が考えられるが、本授業では、その多様な諸側面に注意を喚起しつつも、より具体的な項目に焦点をあて、それを理論的かつ実践的に考察することを主眼とする。	
哲学 思想文化分野	基礎	哲学・思想史研究	西洋の哲学・思想文化を深く研究するには、古代ギリシア・ローマの宗教、政治、学問、芸術から、中世のキリスト教思想とスコラ哲学、ルネサンス人文主義、近代の英独仏哲学、さらには現代思潮までの、哲学史・思想史の幅広い素養が不可欠である。しかも、単なる概論にとどまらずに、重要なテーマを粘り強く掘り下げる方式が望ましい。本講義は、「古代・中世」と「近世・現代」を範囲として 2 クラスを設定し、哲学・思想史研究の最前線に迫りつつ、伝統との対話・対決においてオリジナルな思索が結晶していく現場とすべく試みる。	
		哲学・思想史研究	哲学もまた時代の子であり、すべからく同時代の問題意識から出発する。だが、現代という刹那を近視眼的に動くだけでは、哲学的思索に必要な視野は得られない。本講義では、各人各様の問題意識を普遍的たらしめるべく、事柄を哲学・思想史にいったん差し戻して考えることを学ぶ。知と行為、自己と他者、自然と歴史、真と信、作品と美、私と公といった根本問題が、「古代・中世」ならびに「近世・現代」において、いかに論じられてきたかを、テキストの綿密な読解を踏まえて考察し、各自の問題関心を鍛え直す機会とする。	
		哲学・思想文化研究	哲学・思想文化を専門的に研究する上で前提となる基本的な理論や概念を受講者に習得させるとともに、これらに対する現在の研究状況を紹介することを目指す。また、これらに対する教員自身のアプローチと解釈を示すことによって、哲学・思想文化研究における問題の考察法を会得させることをも目的としている。このため本講義は、哲学思想の基本となるデカルト、ライプニッツ、カント等における人間観、および、人間機械論、正義論や義務論を取り上げて考察する。	
		哲学・思想文化研究	「哲学・思想文化研究」を承けて、本講義は現代の問題として哲学・思想文化の問題を取り上げ、これらを専門的に研究する上で前提となる知識を授けるとともに、これらの問題を扱う上での研究法を習得させることを目指す。具体的には、現代における人工知能問題や、生命倫理・環境倫理、さらには正義論や義務論の問題を取り上げ、これらを古典的哲学思想の観点から深く考察する。	
		倫理・社会哲学研究	倫理学や社会哲学など、実践に関わる哲学分野を専門的に研究する上で前提となる基本的な概念や理論を受講者に習得させるとともに、これらに対する現在の研究状況を紹介することを目指す。また、これらに対する教員自身のアプローチと解釈を示すことによって、倫理・社会哲学における問題の考察法を会得させることをも目的としている。このため本講義は、実践哲学をめぐる古代から近代に至る西洋の主要な哲学思想の基本とその展開の可能性を考察する。	
		倫理・社会哲学研究	「倫理・社会哲学研究」を承けて、本講義は現代における実践哲学のあり方を専門的に研究する上で前提となる知識を授けるとともに、これらの問題を扱う上での研究法を習得させることを目指す。具体的には、自由と共同体の相克、正義と恩恵の対立、価値観の衝突などの諸問題に、実践哲学の観点からどのようなアプローチが可能かを講ずる。また、応用倫理学についてもその基本姿勢、方向性、可能性などについて論じたい。	

		美学・芸術学研究	美学・芸術学を専門的に研究する上で前提となる基本的な理論や概念を受講者に習得させるとともに、これらに対する現在の研究状況を紹介することを目指す。また、これらに対する教員自身のアプローチと解釈を示すことによって、美学・芸術学における問題の考察法を会得させることをも目的としている。このため本講義は、美の観念と芸術の観念をめぐって、古代のプラトニズムから、近代の観念論の美学、現代のダントーに至るさまざまな思想を順次取り上げる予定である。	
		美学・芸術学研究	「美学・芸術学研究」を承けて、本講義は、より具体的に芸術理論と批評の問題を取り上げ、同じく、美学・芸術学を専門的に研究する上で前提となる知識を授けるとともに、これらの問題を扱う上での研究法を習得させることを目指す。具体的には、美術、文学における古典主義、ロマン主義、近代美術、アヴァンギャルドの理論における諸問題を順次取り上げて講ずる予定であるが、また西洋の理論を念頭におきながら、日本や中国の理論も積極的に取り上げる予定である。	
		キリスト教学研究	古代ギリシア・ローマの市民的教養とともに、西洋の精神文化のバックボーンをなしてきたキリスト教の宗教思想は、本格的な聖書解釈をもとにしてはじめて、理解し体得することが可能となる。本講義では、その根本となる「旧約学」と「新約学」に対応して2クラスを設定し、旧新約聖書それぞれについて、内古典的アプローチと最新研究動向を紹介し、かつ担当教員自身の専門的知見を披歴しながら、新たな読解可能性を示してゆく。ヘブライ語とギリシア語の含蓄を解きほぐすことで見えてくるものに目を向けることを眼目の一つとする。	
		キリスト教学研究	「神は死んだ」という言葉に代表されるように、現代人は信ずることの困難に行き当たっている。だが、信仰の危機に直面することは、宗教経験の本質について考える好機でもある。アブラハム以来のユダヤ民族のパワーは破局に見舞われつつ強化されたし、イエスの教えが滅亡と表裏一体だったことは言うまでもない。旧約と新約をそれぞれ対象とした本講義は、聖書のテキストにひそむ「ことば」の原初的な力を引き出して、現代におけるキリスト教の再生可能性について議論を深めることをめざす。	
専門		哲学・思想文化演習	哲学・思想文化に関わる古典的なテキストないし重要な諸問題についての文献を講読しながら、テキスト、文献の読解の訓練を受講者に施すとともに、これをもとに質疑応答、討論を行う。このことを通して、問題に対するアプローチと考察の方法を体得させることを目標としている。哲学・思想文化の専門的な研究を進める上で、古典的な書物や研究論文の読解は重要な基礎をなしているが、これらが現代の問題を考察する上でも基礎となることを受講者に理解させるよう配慮する。	
		哲学・思想文化演習	「哲学・思想文化演習」を承け、哲学・思想文化に関わる古典的なテキストないし重要な諸問題を取り上げ、文献の読解の能力をさらに進展させるとともに、質疑応答、討論を通して、問題を秩序立てて考察する方法をさらに深めることを目標としている。さらにまた、古典的なテキストを読解することが、それにとどまらず、各自の研究課題の取り組みにおいても、基礎として働き、研究を深める上でも大いに利するところがあることを、受講者に自覚させるよう指導する。	
日本文学文化分野	基礎	和漢比較文学研究	奈良時代から江戸時代までの日本の文学作品を取り上げ、その作品に表れた漢籍の影響について、語彙・発想などの点から明らかにする。また日本の文学作品の中で、和文・漢文を組み合わせた作品を取り上げ、両者の相関関係について明らかにする。以上を通して、日本文学における中国文学の役割に対する認識を深め、日本文化ならびに東アジア全体の文化に対する俯瞰的な視野を持つことを目標とする。本授業では、上記の目標を達成するため、教員の講義ばかりでなく、学生の参加による相互のディスカッションを通して、多面的な考究を行う。	

	和漢比較文学研究	「和漢比較文学研究」に引き続き、奈良時代から江戸時代までの日本の文学作品、例えば和歌と漢文を組み合わせた作品を取り上げ、その作品に表れた漢籍の影響について、語彙・発想などの点から明らかにすることを目標とする。特にでは、を通じて深められた日本文学における中国文学の役割に対する認識や、日本ならびに東アジア全体の文化に対する俯瞰的な視野を基として、学生の参加による相互のディスカッションの活性化を図っていく。	
	日本文学文化研究	古代から現代にいたる日本文学の流れを各時代文化との相関関係を視野に入れながらたどっていき、その全体を通じて、日本文学および文化の特質を探っていく。その際、特に留意すべき点としては、時代的変遷の相および変遷変化を越えて一貫する特質を明らかにすることであり、また欧米やアジアの文学文化との対比や影響、交流関係を補助視点到組み込むことである。さらに必要に応じて関連する文化人類学、臨床心理学など隣接諸科学の知見を援用することにより巨視的な理解に達することをめざす。	
	日本文学文化研究	「日本文学文化研究」に引き続き、日本文学の流れを各時代文化との相関関係を視野に入れながらたどっていき、その全体を通じて、日本文学および文化の特質を探っていく。時代的変遷の相および変遷変化を越えて一貫する特質とは何か、欧米やアジアの文学文化との対比や影響、交流関係を視野に入れ、時に文化人類学、臨床心理学など隣接諸科学の知見を援用しながら、からの巨視的な理解をさらに深め、広く文化的なコンテキストのなかに日本の文学や文化を位置づけ、意味づける。	
専門	日本語史研究	日本語の歴史を書記言語の分析を通して講述する。上代から中古・中世・近世・近代と時代を降りながら、各期の資料を、複製等を多く使いながら、言語の変遷を記述してゆく。取り上げる文献は、文学作品のみならず、従来日本語史では多くは取り上げられなかった仏教者遺文、古文書等をも視野に入れていく。言語の変化は、文字・音韻・文法・待遇表現・語彙・文章表現の各部門でおこるが、テ・マを絞って言語の歴史を描いていく。そして言語を変遷させた要因は何か、変化の背後に働いた要因についても考究していく。	
	日本語史研究	「日本語史研究」に引き続き、日本語の歴史を講述する。古代語から脱却し、近代語へと移り変わる時期の、中世の史料を主にとりあげて、中世の言語の変化の実態と特徴とを講述してゆく。分析文献も中央の知識階層の物のみならず、庶民の文書類や、女性の文書、又、地方の文書等を積極的に分析して、多彩な史料から伺える言語変化の様相を記述分析する。又、言語変化を論じた著名な論考を取り扱って、日本語の変遷がどのように論じられてきたかを確認する。更に、今後開拓すべき日本語の変化の問題についても話題を提供する。	
	日本古典文学研究	奈良時代から江戸時代までの日本の文学作品を取り上げ、その作品が作られた各時代の社会、歴史、文化、及び漢文学を含む他の文学作品との通時的共時的関連などを視野に入れながら、ことばに即した細部への着目をもとに、体系的に論を構築する論理的思考力を涵養することを目標とする。本授業では、上記の目標を達成するため、教員の講義ばかりでなく学生の積極的な参加を促すことによって、相互のディスカッションを通して種々の資料をもとに多角的な視点からの考究を行う。	
	日本古典文学研究	「日本古典文学研究」に引き続き奈良時代から江戸時代までの日本の文学作品を対象とし、時代の社会、歴史、文化、あわせて漢文学を含む他の文学作品との通時的共時的関連を視野に入れながら考究する。ことばに即し、細部への着目をもとに体系的な論を構築するにあたって必要な、辞典索引等の使い方、論理的批評的な考究に必要な先行研究の位置づけなどに特に留意し、学生相互のディスカッションを喚起して多角的な視点からの考究を行う。	

日本近現代文学研究	<p>明治から現代までの日本の文学テキスト（演劇・映画・漫画等のサブカルチャーも含む）を対象とし、その構成要素（語り・時間・空間・人間関係・身体・音響・イメージなど）の分析と考察を通じて、それぞれのテキストの独自性を明らかにする。本講義では、学生各自の研究に理論的支柱を立てることを目標に、文学理論・文化理論を学び、その批評的再検討と応用をはかる。また、臨床諸学・哲学等、境界領域の文献講読をもとにその援用も試みる。本授業では特に、学生の主体的な研究と発表、ディスカッションを重視する。異なる関心や方法意識を持った者同士の交流を通じて多様な研究に目を向けると同時に、論理的思考力やプレゼンテーション能力、批評能力を高めてゆく。</p>	
日本近現代文学研究	<p>「日本近現代文学研究」に引き続き、明治から現代までの日本の文学テキスト（演劇・映画・漫画等のサブカルチャーも含む）を対象とし、その構成要素（語り・時間・空間・人間関係・身体・音響・イメージなど）の分析と考察を通じて、それぞれのテキストの独自性を明らかにする。本講義では個別のテキスト研究を進展させ、社会・歴史・文化との相関関係を考究したり、語りの深層を分析して間テクスト的考察を加えるなど、テキストを关系的に捉えなおしてゆく。テキストや方法論の選択では修士論文を視野に入れ、それへの応用可能性を探る。本授業では、学生主体の研究発表と参加者全員によるディスカッションを重視し、論理的批評力や方法意識を幅広くむと共に、境界諸領域の知の積極的な援用によって学際研究への道を探る。</p>	
漢文学研究	<p>古代から近現代までの中国文学の様相を、それぞれの時代の文化状況との関係を考察しながら検討することを目標とする。特に、各時代の思想・宗教との影響関係、芸術・芸能との影響関係などに留意して、検討を進める。古代においては固有信仰、中近世においては儒教・道教・仏教、近代においては西洋文明等との関係を重視する。隣接諸科学の成果と方法に注目し、今後の中国文学研究の方法論についても考究する。合わせて、中国文学・文化からの日本文学・文化への広く深い影響を、各時代の様相の中で追求することを課題とする。</p>	
漢文学研究	<p>「漢文学研究」の到達点をふまえて、古代から近現代までの中国文学の様相を、それぞれの時代の文化状況との関係を考察しながら検討していく。特に、各時代の思想・宗教との影響関係、芸術・芸能との影響関係などに留意して、検討を進める。具体的には、古代の祭祀・呪術、中世の学術、近世の芸能、近現代の西洋思想・革命運動等との関係等を重視する。隣接諸科学の成果と方法に注目し、今後の中国文学研究の方法論についても考究しながら、中国文学・文化からの日本文学・文化への広く深い影響を、各時代の様相の中に位置づける。</p>	
日本語史演習	<p>日本語史の諸問題を、具体的に一文献を取り上げて、記述分析する方法を学んで行く。取り上げて分析する文献は、日本の文学作品のみならず、従来は日本史や仏教史の研究史料として取り上げられ、日本語の研究史料としては注目されて来なかった仏教者遺文や古文書等も視野に入れる。演習では、分析文献の厳密な読解、翻刻、諸本校合、それに基づいた語彙総索引の作成等を実践する。言語変化は、文字・音韻・文法・待遇表現・語彙・文章文体等の各部門に起こる現象で、分析文献からこれら諸項目の実態を記述する。その諸言語が日本語の歴史においてどのような特質を持つものかを論述するために、先学の論考を調査し、他文献との比較によって位置づけてゆく方法を学ぶ。</p>	
日本語史演習	<p>「日本語史演習」に引き続き、取り上げた文献の分析を継続する。翻刻・諸本校合・語彙総索引の精密化をはかり、分析の継続を行う。日本語の歴史は、時代別・分野別の通史だけでは捉えきれない。とすれば「言語の歴史」と言いながら、言語変化の事象を単なる変化の事実として羅列するだけで終わるが、それではなく、そこに働く変化の要因を解明することも必要である。又、文献が持つ位相的（性差・世代差・階層差・地域差）要素をも取り上げると、多彩な様相も把握出来る。厳密な文献学的記述的分析の成果に基づいて、日本語を通して、多面的創造的な日本文化の実証に努める。</p>	

英語文学文化分野	基礎	日本文学演習	奈良時代から現代までの日本における文学作品を取り上げ、個々の作品が社会や歴史や他の文学作品との深い関わりのなかから創造される様相を理解させる。奈良時代から江戸時代までの作品については、漢文学との影響関係を視野に、「古典」の規範意識や同時代社会の様相・価値観・文化と関わりつつ創造された日本文学の解明を企図する。明治時代から現代の文学作品については、さらに文学理論の理解を深めつつ、比較文学文化や臨床心理学、サブカルチャー等の視座を強め、日本現代社会の問題に立ち向かう知見を涵養する。	
		日本文学演習	「日本文学演習」に引き続き、奈良時代から現代までの日本における文学作品を取り上げ、歴史や他の文学と深く関わりながら創造される文学の様相を掴む。奈良時代から江戸時代までの文学については、漢文学との影響関係や、同時代社会の様相・価値観・文化との関わりに一層留意しつつ、日本古典文学の特徴を解明する。明治時代から現代の文学については、さらに文学理論の理解を深め、比較文学文化や臨床心理学、サブカルチャー等の視座などを援用しつつ、日本社会や文化を評する知見を獲得する。	
		漢文学演習	上代から現代までの中国文学の重要な作品をとりあげ、その作品分析を中心として、同時代の文学の全体像、さらには文化の特質について考究することを目標とする。作品分析を基礎としながら、作家の意識、地域的特性、文化的背景をとらえ、言語芸術としての文学が文化全体の中でどのような位置を占めていたのかを明確にする。各時代の社会構造に注目し、歴史学・社会学等の業績をとりいれ、漢文学研究の方法についても検討する。合わせて、日本文学・文化との深い関係に注意し、同時代・類似分野における日本文学について調査・研究し、アジア全体を見渡す視点を追求する。	
		漢文学演習	「漢文学演習」の成果を受けつぎ、上代から現代までの中国文学の重要な作品の分析をもとに同時代の文学の全体像、さらには文化の特質について考究していく。で身につけた作品分析の方法、漢文学研究の方法の成果としての作品理解をさらに深めつつ、作家の意識、地域的特性、文化的背景をとらえ、言語芸術としての文学が文化全体の中でどのような位置を占めていたのかを明確にする。合わせて、日本文学・文化との深い関係に注意し、同時代・類似分野における日本文学について調査・研究し、アジア全体を見渡す視点を追求する。	
	英米文学文化研究 (詩・演劇)	英米の詩および演劇について、まずは基本的な動向とその特質を歴史的な概観（イギリスの場合は中世から現代まで、アメリカの場合は建国から現代まで）とともに整理し、小説を中心とする散文芸術や絵画、建築、音楽といった隣接領域との共通点と相違点を、文体や構成、表象形式、シンボリズム、作品成立事情の諸特徴などを軸として考察する。そしてその上で、詩および演劇を研究対象とする場合の具体的な研究方法を、20世紀後半以降の批評理論なども参照しながら検討し、個別作品研究のための道筋を明らかにする。		
	英米文学文化研究 (詩・演劇)	「英米文学文化研究（詩・演劇）I」を踏まえ、英米の詩および演劇が有する諸特徴に対する全体的な理解を涵養しつつ、では、複数の個別作品とその時代状況や社会的背景に焦点をあて、文体や構成、表象形式、シンボリズム、作品成立事情などをめぐる作品分析と研究手法をより具体的・実践的に習得することを目標とする。そしてその過程で、それぞれの作品の広範な同時代言説（政治的言説やジャーナリズムなどを含む）や社会的位置づけ、作品の受容と変容をめぐる諸種の影響関係などについても視野を広げて考察の対象とし、個別作品の立体的な理解を促す。		
	英米文学文化研究 (小説)	近代から現代に至る英語圏の小説について、作品の歴史的・文化的背景を視野に入れて読解し、理解を深めるとともに、研究のための理論と方法を習得することを目標とする。本講義では、まず個々のテキストの緻密な分析と読解を試みる。さらに人種・階級・ジェンダーなどさまざまな視点から文学作品を生み出した歴史的・文化的背景、作家の伝記や文学史上の位置づけにも注目し、多面的にテキストを読むことを学ぶ。イギリス系の小説とアメリカ系的小説に分けて開講される。		

	英米文学文化研究 (小説)	「英米文学文化研究 (小説) I」を踏まえ、近代から現代にいたる英語圏の小説について、作品の歴史的・文化的背景を視野に入れ読解し、理解を深めるとともに、研究のための理論と方法を習得することを目標とする。本講義では、テキストの精読のみならず、個々のテキストおよび人種・階級・ジェンダーなどさまざまな視点から文学作品を生み出した歴史的・文化的背景に関する批評を読むことに重点を置く。イギリス系の小説とアメリカ系の小説に分けて開講される。	
	英米文学文化研究 (主題研究)	本講義は、英米文学文化領域における個別的な研究テーマを事例とし、その研究事例がどのような文脈で生まれ、どのような先行研究を有し、また今後の課題として何が考えられるのか、ということを具体的に提示することで、学生の主題研究への基礎を涵養することを目的とする。研究事例については、テーマそのものは個別的であるが、文学的、文化的、言語的側面から多角的に考察を加えられるようさまざまな方法論を紹介する。	
	英語学研究 (言語運用)	英語が発達させてきた様々な語法・表現と、それが実際に運用される文脈・場面との関係を理論的に分析することを目指す。言葉は発話された場面によって意味するところが変化する。このように、社会における言語運用を理解するには、コンテキストの分析が欠かせない。コンテキストから生じる「意味」を解明するために、英語の各種データ・資料に基づき、分析を試み、理論の体得へと導く。	
	英語学研究 (言語運用)	「英語学研究 (言語運用) I」をふまえ、言語とそれが用いられている社会との関係を視野に入れて、言語運用と社会との関わりを理論的に分析することを目指す。言語は社会や文化と密接な関係を持っている。本講義は、このような社会と言語の相互作用の実態を理解するために、主にイギリス英語とイギリス社会を研究対象として、英語のさまざまなデータ・資料に基づき、分析を試み、理論の体得へと導く。	
	英語学研究 (言語構造)	英語の言語としての構造について、歴史的観点も含め、語彙および文法構造を分析することを目指す。この目的のために、さまざまな言語素材の検証を行い、対象資料の正確な記述と、理論に基づいた体系的な分析に基づく言語構造の史的研究を行う。これにより、現代英語に至る発達の過程を経た英語の構造的変容を討究する。	
	英語学研究 (言語構造)	「英語学研究 (言語構造) I」をふまえて、歴史的観点も含め、言語構造の変遷をさらに、多面的なアプローチから分析することを目指す。この目的のために、異なる地域、時代の言語素材を取り上げて、言語構造の変化の諸相を詳細に分析する。とくに、手書き写本の検証、位相的要素も積極的に取り入れて、厳密かつ多面的な論究を行う。	
専門	英米文学文化研究 演習	本演習では英語圏の文学や文化に関わる様々なテキストを精読し、テキストを成立させている諸要因を学習し、議論を通して分析し、その結果をまとめ、発表する力を養うことを目標とする。文化的背景なくして文学テキストは成立しない。また、文化研究に際しても文学テキストはなくてはならない。I では、ある特定の文学作品を読み込む作業から始め、作品の書かれた時代の文化的背景を調べ、文化と文学作品との関係を考察していく。イギリス系の小説とアメリカ系の小説に分けて開講される。	
	英米文学文化研究 演習	「英米文学文化研究演習 I」を踏まえ、近代から現代にいたる英語圏の文学や文化について、作品の歴史的・文化的背景を視野に入れて読解し、理解を深めるとともに、研究のための理論と方法を習得することを目標とする。演習 では、テキストの精読のみならず、個々のテキストおよび人種・階級・ジェンダーなどさまざまな視点から文学作品を生み出した歴史的・文化的背景に関する批評を読むことに重点を置く。イギリス系の小説とアメリカ系の小説に分けて開講される。	
	英語学研究演習	世界言語となった英語が、どのようにして現代英語の持つ特質を発達させてきたかを概観した後、言語資料の精読を通して、英語の言語としての特質の変容を分析するための理論的・実証的分析手法を理解させる。資料としては、言語変化の大きかった 12、13 世紀のテキストを取り上げ、基礎となる先行研究および最新の研究成果をふまえて、語彙・文法などについて史的研究を深める。	

		英語学研究演習	「英語学研究演習」の内容をふまえ、さらに英語史上重要な 14 世紀の資料の精読を通して、さらなる英語の変化の諸相の分析を深化させることを目指す。とくに、最新の史的研究支援のデータベースの利用の指導も含め、現代英語の文法・語彙等との比較を視野に入れて、より幅広い視座から言語変化の様相に対する理解を深める。	
		特別演習 (Academic English Writing)	本演習は、英語文学文化分野において学術的価値の高い英語論文を執筆する際の実践的な発信能力を養うことを目的とする。研究テーマとその考察結果を、いかに正確に、日本語とは異なる言語で表現しうるか、その具体的な演習を通じて、英語の語彙や構文、表現方法、論理構成の手法に精通して行くことになる。主に修士論文を念頭に置き、基本的な研究テーマの論述や、各論の構成方法、引用・参考文献の扱いなどが、演習の中心課題となる。	
		特別演習 (Academic English Writing)	本演習は、英語文学文化分野において学術的価値の高い英語論文を執筆する際の実践的な発信能力を養うことを目的とする。研究テーマとその考察結果を、いかに正確に、日本語とは異なる言語で表現しうるか、その具体的な演習を通じて、英語の語彙や構文、表現方法、論理構成の手法に精通して行くことになる。主に修士論文の完成を念頭に置き、説得力のある論理構成と結論への導入方法、論文全体の最終的なまとめ方などが、演習の中心課題となる。	
歴史文化分野	基礎	世界史研究法	<p>(概要) 将来的に教職や専門職に就いて「研究」と「教養」との間を架橋する人材の養成を念頭に、高等学校までの世界史教育や一般書のなかに見られる世界史像と、学問的歴史学の最新の成果を対比させて、それぞれが持っている意義や意味を勘考することを目指す。本講義はこれを達成するために、世界史上の異なった時代や地域を研究する複数の教員がオムニバス方式で授業を担当する。教員は自らの専門分野について、一般に流布する歴史像と専門研究者が共有する歴史像を提示し、履修者と共に比較検討する。</p> <p>(オムニバス方式 / 全 15 回)</p> <p>(樋脇博敏、坂下史、芝健介、茂木敏夫 / 1 回) 授業の趣旨とスケジュール等の説明</p> <p>(樋脇博敏 / 3 回) 古代地中海世界について、一般的歴史像と学問的歴史学の成果を比較検討する。</p> <p>(坂下史 / 3 回) 中近世の欧米世界について、一般的歴史像と学問的歴史学の成果を比較検討する。</p> <p>(芝健介 / 3 回) 近現代の欧米世界について、一般的歴史像と学問的歴史学の成果を比較検討する。</p> <p>(茂木敏夫 / 3 回) 近現代のアジア世界について、一般的歴史像と学問的歴史学の成果を比較検討する。</p> <p>(樋脇博敏、坂下史 / 1 回) 前近代の世界全般について、一般的歴史像と学問的歴史学の成果を比較検討する。</p> <p>(芝健介、茂木敏夫 / 1 回) 近現代の世界全般について、一般的歴史像と学問的歴史学の成果を比較検討する。</p>	隔年開講 オムニバス方式

<p>日本史研究法</p>	<p>(概要) 将来的に教職や専門職に就いて「研究」と「教養」との間を架橋する人材の養成を念頭に、高等学校までの日本史教育や一般書のなかに見られる日本史像と、学問的歴史学の最新の成果を対比させて、それぞれが持っている意義や意味を勘考することを目指す。本講義はこれを達成するために、日本史上の異なった時代や地域を研究する複数の教員がオムニバス方式で授業を担当する。教員は自らの専門分野について、一般に流布する歴史像と専門研究者が共有する歴史像を提示し、履修者と共に比較検討する。</p> <p>(オムニバス方式 / 全 15 回)</p> <p>(勝浦令子、高田陽介、黒沢文貴、栗原純 / 1 回) 授業の趣旨とスケジュール等の説明</p> <p>(勝浦令子 / 3 回) 古代の日本について、一般的歴史像と学問的歴史学の成果を比較検討する。</p> <p>(高田陽介 / 3 回) 中近世の日本について、一般的歴史像と学問的歴史学の成果を比較検討する。</p> <p>(黒沢文貴 / 3 回) 近現代の日本について、一般的歴史像と学問的歴史学の成果を比較検討する。</p> <p>(栗原純 / 3 回) 近現代の日本と東アジア世界の関係と交流について、一般的歴史像と学問的歴史学の成果を比較検討する。</p> <p>(勝浦令子、高田陽介 / 1 回) 前近代の日本全般について、一般的歴史像と学問的歴史学の成果を比較検討する。</p> <p>(黒沢文貴、栗原純 / 1 回) 近現代の日本全般について、一般的歴史像と学問的歴史学の成果を比較検討する。</p>	<p>隔年開講 オムニバス方式</p>
<p>文献・資料研究(日本) A</p>	<p>学部課程で選択した研究テーマとは異なるテーマでの研究を希望する入学者や、社会人として研究の現場から離れていた入学者への初期的な対応も念頭に、歴史的資料を読解するために必要な基礎訓練を行う。これは語学的トレーニングを含むもので、修士論文執筆にあたって不可欠となる史資料を十分に読みこなす能力を身につけさせることを目標とする。ここでは上記の目標を達成するために、前近代の日本の歴史に関する最新の研究文献や一次史料を提示し、履修者と共にその内容を詳細に検討していく。</p>	
<p>文献・資料研究(日本) B</p>	<p>学部課程で選択した研究テーマとは異なるテーマでの研究を希望する入学者や、社会人として研究の現場から離れていた入学者への初期的な対応も念頭に、歴史的資料を読解するために必要な基礎訓練を行う。これは語学的トレーニングを含むもので、修士論文執筆にあたって不可欠となる史資料を十分に読みこなす能力を身につけさせることを目標とする。ここでは上記の目標を達成するために、近現代の日本の歴史に関する最新の研究文献や一次史料を提示し、履修者と共にその内容を詳細に検討していく。</p>	
<p>文献・資料研究(東アジア) A</p>	<p>学部課程で選択した研究テーマとは異なるテーマでの研究を希望する入学者や、社会人として研究の現場から離れていた入学者への初期的な対応も念頭に、歴史的資料を読解するために必要な基礎訓練を行う。これは語学的トレーニングを含むもので、修士論文執筆にあたって不可欠となる史資料を十分に読みこなす能力を身につけさせることを目標とする。ここでは上記の目標を達成するために、近世の東アジアの歴史に関する最新の研究文献や一次史料を提示し、履修者と共にその内容を詳細に検討していく。</p>	

	文献・資料研究(東アジア)B	学部課程で選択した研究テーマとは異なるテーマでの研究を希望する入学者や、社会人として研究の現場から離れていた入学者への初期的な対応も念頭に、歴史的資料を読解するために必要な基礎訓練を行う。これは語学的トレーニングを含むもので、修士論文執筆にあたって不可欠となる史資料を十分に読みこなす能力を身につけさせることを目標とする。ここでは上記の目標を達成するために、近現代の東アジアの歴史に関する最新の研究文献や一次史料を提示し、履修者と共にその内容を詳細に検討していく。	
	文献・資料研究(ヨーロッパ)A	学部課程で選択した研究テーマとは異なるテーマでの研究を希望する入学者や、社会人として研究の現場から離れていた入学者への初期的な対応も念頭に、歴史的資料を読解するために必要な基礎訓練を行う。これは語学的トレーニングを含むもので、修士論文執筆にあたって不可欠となる史資料を十分に読みこなす能力を身につけさせることを目標とする。ここでは上記の目標を達成するために、古代地中海世界の歴史に関する最新の研究文献や一次史料を提示し、履修者と共にその内容を詳細に検討していく。	
	文献・資料研究(ヨーロッパ)B	学部課程で選択した研究テーマとは異なるテーマでの研究を希望する入学者や、社会人として研究の現場から離れていた入学者への初期的な対応も念頭に、歴史的資料を読解するために必要な基礎訓練を行う。これは語学的トレーニングを含むもので、修士論文執筆にあたって不可欠となる史資料を十分に読みこなす能力を身につけさせることを目標とする。ここでは上記の目標を達成するために、近世以降のヨーロッパの歴史に関する最新の研究文献や一次史料を提示し、履修者と共にその内容を詳細に検討していく。	
専門	日本歴史文化演習	習得した史資料読解力を実践的に用いて、特定の地域や時代について歴史的な視角から理論的かつ実証的に検証することを目指す。また、履修者による研究報告を批判的に検討することを通じて、研究史を総合的に把握し、その歴史学上の意味を理解させる。上記の目標を達成するために、ここでは日本の特定の時代の社会と政治文化に関する主題を設定し、その時代や地域の全体像を再構成すると共に、各部分の特徴を把握する。	
	日本歴史文化演習	習得した史資料読解力を実践的に用いて、特定の地域や時代について歴史的な視角から理論的かつ実証的に検証することを目指す。また、履修者による研究報告を批判的に検討することを通じて、研究史を総合的に把握し、その歴史学上の意味を理解させる。上記の目標を達成するために、ここでは日本の特定の時代の社会と文化思想に関する主題を設定し、その時代や地域の全体像を再構成すると共に、各部分の特徴を把握する。	
	日本・アジア歴史文化演習	習得した史資料読解力を実践的に用いて、特定の地域や時代について歴史的な視角から理論的かつ実証的に検証することを目指す。また、履修者による研究報告を批判的に検討することを通じて、研究史を総合的に把握し、その歴史学上の意味を理解させる。上記の目標を達成するために、ここでは日本を含むアジアの特定の地域と時代の社会と政治文化に関する主題を設定し、その地域や時代の全体像を再構成すると共に、各部分の特徴を把握する。	
	日本・アジア歴史文化演習	習得した史資料読解力を実践的に用いて、特定の地域や時代について歴史的な視角から理論的かつ実証的に検証することを目指す。また、履修者による研究報告を批判的に検討することを通じて、研究史を総合的に把握し、その歴史学上の意味を理解させる。上記の目標を達成するために、ここでは日本を含むアジアの特定の地域と時代の社会と文化思想に関する主題を設定し、その時代や地域の全体像を再構成すると共に、各部分の特徴を把握する。	

		ヨーロッパ歴史文化演習	習得した史資料読解力を実践的に用いて、特定の地域や時代について歴史的な視角から理論的かつ実証的に検証することを目指す。また、履修者による研究報告を批判的に検討することを通じて、研究史を総合的に把握し、その史学史的な意味を理解させる。上記の目標を達成するために、ここではヨーロッパの特定の地域と時代の社会と政治文化に関する主題を設定し、その地域や時代の全体像を再構成すると共に、各部分の特徴を把握する。	
		ヨーロッパ歴史文化演習	習得した史資料読解力を実践的に用いて、特定の地域や時代について歴史的な視角から理論的かつ実証的に検証することを目指す。また、履修者による研究報告を批判的に検討することを通じて、研究史を総合的に把握し、その史学史的な意味を理解させる。上記の目標を達成するために、ここではヨーロッパの特定の地域と時代の社会と文化思想に関する主題を設定し、その地域や時代の全体像を再構成すると共に、各部分の特徴を把握する。	
現代日本語 日本語教育分野	基礎	現代日本語学研究	日本語学とは、日本語を研究する学問であり、文字・表記、語彙、文法、意味、運用等、さまざまな分野がある。日本語史の知識、日本語学史の知識も重要である。コーパス言語学等の新しい方法論も出現している。この科目では、日本語学の各分野に対する理解を深め、日本語史的観点も踏まえた上で、新しい方法論も駆使して研究を進める能力を養成することを目標とする。講義、関連文献の講読や議論を通じて、日本語についての知識や研究方法についての理解を深める。	
		現代日本語学研究	「現代日本語学研究」に引き続き、講義や文献講読、議論を通じて日本語学の基礎的能力を養うとともに、履修者各自の研究テーマに基づいた関連文献の講読や議論を通じてさらに専門的な分析・考察の方法を学ぶ。	
		社会言語学研究	言語が社会生活の中で人々にどのように用いられ、コミュニケーション手段として機能しているかを明らかにするための基礎的な研究能力の養成を目標とする。講義、関連文献の講読や議論を通じて、言語のバラエティ、ならびに社会言語学的研究におけるデータの種類、調査(データ収集)方法、分析方法などについての理解を深める。	
		社会言語学研究	「社会言語学研究」に引き続き、講義や文献講読、議論を通じて社会言語学的調査・研究の基礎的能力を養うとともに、履修者各自の研究テーマに基づいた関連文献の講読や議論を通じてさらに専門的な分析・考察の方法を学ぶ。	
		日本語教育学研究	社会がますます多元化しつつある世界、日本における日本語教育を中心とする言語教育が持つ役割とその意味を十全に理解し、研究のための基礎的概念、調査方法の基礎を身につけることを目標とする。具体的内容は、日本語教育を中心とする言語教育、母語保持を念頭に置いたバイリンガリズム、言語とアイデンティティなどの関連文献を読み進め、議論を行うことで理解を深めていく。	
		日本語教育学研究	「日本語教育学研究」に引き続き、社会がますます多元化しつつある世界、日本における言語教育が持つ役割とその意味を十全に理解し、研究のための基礎的概念、調査方法の基礎を身につけることを目標とする。具体的内容は、多文化・多言語主義、言語政策、移民統合政策などの関連文献を読み進め、議論を行うことで理解を深めていく。	
		現代日本語学演習	現代日本語のデータを自ら集め、分析する能力を養うことを目標とする。文字・表記、語彙、文法、意味、運用等、日本語の様々な側面について、履修者の興味に従って、先行論文の講読を通じて問題点を整理し、具体的なデータを収集するための調査項目の立案と検討、調査の実践を行う。	
	専門	現代日本語学演習	「現代日本語学演習」に引き続き、関連論文の講読を通じて、データの集計方法、分析・考察の観点を検討し、「現代日本語学演習」で収集した具体データをもとに日本語学の研究方法を深く掘り下げる。	

		社会言語学の分野において、調査意図を十分に反映させた調査を実施できる能力の養成を目標とする。身近な具体事象を取り上げ、地域差、世代差、性差、文化差等の観点から言語変化や変容の種々相を分析する。先行論文の講読を通じて問題点を整理し、具体的なデータを収集するための調査項目の立案と検討、調査の実践を行う。	
		「社会言語学演習」に引き続き、関連論文の講読を通じて、データの集計方法、分析・考察の観点を検討し、「社会言語学演習」で収集した具体データをもとに社会言語学的な研究方法を深く掘り下げる。	
		言語教育について学習者の認知活動としての第二言語学習の観点、個人のアイデンティティ形成や言語文化の保持・継承の観点および社会形成の観点等、複数の観点から立体的に捉える基礎的な力を養うことを目標とする。それによって国内および海外における多様な日本語教育の意味を考察する。言語習得、言語教育、日本語学、異文化コミュニケーション、多文化教育、言語政策等、関連する諸領域の文献を読み進めることと並行して、自らの研究課題の修練とデータの収集・分析方法の検討を行う。	
		言語教育について学習者の認知活動としての第二言語学習の観点、個人のアイデンティティ形成や言語文化の保持・継承の観点および社会形成の観点等、複数の観点から立体的に捉える力を養うことを目標とする。国内および海外における多様な日本語教育の具体的な実践の意味を複数の観点から評価し、深く理解する力を育てる。言語習得、言語教育、日本語学、異文化コミュニケーション、多文化教育、言語政策等、関連する諸領域の文献を読み進めることと並行して、自らの研究課題の検討を行う。	
共通	専門	<p>(研究指導)</p> <p>(概要) 博士前期課程1年次の学生が、人間文化科学専攻での学習成果を学術的価値の高い修士論文に収斂させることができるよう体系的に指導する。学生個々の主題に応じて、研究テーマや研究方法の選び方から、資料収集、研究発表の技法までの基本を指導する。</p> <p>哲学・思想文化分野 (森一郎) 近現代哲学のテーマを中心に指導を行なう。 (黒崎政男) 哲学・思想文化の古典的テキストを中心に、哲学・思想文化の課題について指導を行う。 (佐々木能章) 倫理・社会哲学の諸問題を中心に、哲学・思想文化の課題について指導を行う。 (久保光志) 美学・芸術学の諸問題を中心に、哲学・思想文化の課題について指導を行う。</p> <p>日本文学文化分野 (金子彰) 歴史的資料の分析を通して、日本語史研究を行う。中世語を主な研究の対象とする研究指導を行う。 (鉄野昌弘) 奈良時代以前の文学(万葉集・古事記・日本書紀・風土記)や平安時代以降の和歌文学などを対象として指導を行う。 (今井久代) 平安時代の物語・日記・随筆、及びその影響下の物語・日記を対象とし、指導を行う。 (矢野公和) 中・近世文学の多様なジャンルを対象として指導を行う。 (大久保喬樹) 明治から現代にいたる小説、詩などを対象とし、指導を行う。</p>	

	<p>(近藤裕子) 明治から現代までの文学テキストを対象とし、境界領域の知を援用する学際的文学研究指導を行う。</p> <p>(安藤信廣) 中国文学・日本漢文等の研究方法、それに必要な基礎的資料の調査法、さらには文章構成等について指導する。</p> <p>英語文学文化分野</p> <p>(原英一) 英文学および関連文化領域を中心に指導する。</p> <p>(原田範行) 英文学および関連文化領域を中心に指導する。</p> <p>(Ewick, David) 英語圏文化領域を中心に指導する。</p> <p>(Kleitzi, Dorsey) 米文学および関連文化領域を中心に指導する。</p> <p>(篠目清美) 米文学および関連文化領域を中心に指導する。</p> <p>(本合陽) 米文学および関連文化領域を中心に指導する。</p> <p>(小野祥子) 英語学および関連文化領域を中心に指導する。</p> <p>(野村恵造) 英語学および関連文化領域を中心に指導する。</p> <p>歴史文化分野</p> <p>(勝浦令子) 日本古代を中心に、政治、経済、社会、文化思想に関する主題につき研究指導を行う。</p> <p>(高田陽介) 日本中世を中心に、政治、経済、社会、文化思想に関する主題につき研究指導を行う。</p> <p>(黒沢文貴) 近現代日本の政治、外交、軍事に関する主題につき研究指導を行う。</p> <p>(栗原純) 近現代の東アジアを中心に、政治、社会、文化思想に関する主題につき研究指導を行う。</p> <p>(茂木敏夫) 近現代の中国を中心に、その政治、外交、思想に関する主題につき研究指導を行う。</p> <p>(樋脇博敏) 古代地中海世界を中心に、その政治、経済、社会・文化に関する主題につき研究指導を行う。</p> <p>(坂下史) 近世の西欧世界を中心に、ヨーロッパの政治、経済、社会・文化に関する主題につき研究指導を行う。</p> <p>(芝健介) 近現代の西欧世界を中心に、ヨーロッパの政治、経済、社会、文化思想に関する主題につき研究指導を行う。</p> <p>現代日本語・日本語教育分野</p> <p>(丸山直子) 現代日本語の文字・表記、語彙、文法、意味、運用等の各分野における諸現象についての研究指導を行う。</p> <p>(篠崎晃一) 現代日本語の地域差、世代差や言語運用の場面差等を対象とし、社会言語学的な観点から言語変化や言語変容について研究指導を行う。</p>	
--	---	--

	<p>(熊谷智子) 日本語の談話分析と言語行動分析に関する研究指導を行う。</p> <p>(石井恵理子) 多文化共生社会形成における日本語教育およびその推進にあたる人材育成についての研究指導を行う。</p> <p>(松尾慎) 日本語教育を社会言語学的視座、政策論的視座、教育学的視座で多角的に捉えられるよう研究指導を行う。</p>	
論文指導演習	<p>(概要) 本演習は、博士前期課程2年次の学生が、人間文化科学専攻での学習成果を学術的価値の高い修士論文に収斂させることができるよう体系的に教育することを目的とする。演習Iでは、特に、研究対象の明確化、各種研究手法に対する理解と実践的な習熟、研究上のオリジナリティの涵養、および文献資料調査の実践的手法への精通などに主眼をおく。そしてこれらの点から、各学生の研究を主に口頭発表や小規模な論文によって詳細に検討し、それを学生との学問的な対話を通じてフィードバックする。</p> <p>哲学・思想文化分野</p> <p>(森一郎) 近現代哲学のテーマを中心に各自の問題意識を高める一方、題目決定から資料収集、原書読解、研究ノートや草稿の作成、推敲まで、指導を行う。</p> <p>(黒崎政男) 哲学・思想文化の古典的テキストを中心に、哲学・思想文化の課題に対し、資料の取り扱い、研究の方法、論文作成について指導を行う。</p> <p>(佐々木能章) 倫理・社会哲学の諸問題を中心に、哲学・思想文化の課題に対し、資料の取り扱い、研究の方法、論文作成について指導を行う。</p> <p>(久保光志) 美学・芸術学の諸問題を中心に、哲学・思想文化の課題に対し、資料の取り扱い、研究の方法、論文作成について指導を行う。</p> <p>日本文学文化分野</p> <p>(金子彰) 歴史的資料の分析を通して、日本語史研究を行う。通時的に分析を行うが、日本語の古代語が崩壊し、近代語が生成されていく中で、中世語を主な研究の対象とする。単なる過渡期の言語分析というよりは、中世語に見られる中世的創造の実態解明が研究テーマとなる。日本語史の研究テーマの設定の仕方、分析資料の収集方法、分析する方法等を指導する。</p> <p>(鉄野昌弘) 奈良時代以前の文学(万葉集・古事記・日本書紀・風土記)や平安時代以降の和歌文学などを対象として、社会・歴史的な背景を考慮しつつ、語学・比較文学的方法などを応用し、作品を読み解く方法を指導し、修士論文作成に繋げる。</p> <p>(今井久代) 平安時代の物語・日記・随筆、及びその影響下の物語・日記を対象とし、社会・歴史・他作品を視野に入れつつ作品独自の達成の解明を課題とする論文指導を行う。</p> <p>(矢野公和) 中・近世文学の多様なジャンルを対象として、作品論・作家論或いは文芸思潮等に関する論文作成の指導を行う。</p> <p>(大久保喬樹) 明治から現代にいたる小説、詩などを対象とし、それぞれの作品、作家の特質を他作品、作家と照らし合わせながら解明することをめざして論文指導を行う。</p>	

	<p>(近藤裕子) 明治から現代までの文学テキスト(サブカルチャーも含む)を対象とし、身体論や臨床諸理論やジェンダー理論などの境界領域の知を援用する学際的文学研究を目指す論文指導を行う。</p> <p>(安藤信廣) 中国文学・日本漢文等の研究方法、それに必要な基礎的資料の調査法、さらには文章構成等について指導し、相互に検討する。作品の読解、関連分野の研究をふまえて、中国文学研究の視点を豊かにする。その上で、各分野の重要な著書・論文等を調査し、それをもとに論理的に分析・批判する独自の方法を検討・考究する。</p> <p>英語文学文化分野</p> <p>(原英一) 英文学および関連文化領域を中心に、資料の精密な読解と分析、研究テーマの設定、方法論の整備を中心に指導する。</p> <p>(原田範行) 英文学および関連文化領域を中心に、資料の精密な読解と分析、研究テーマの設定、方法論の整備を中心に指導する。</p> <p>(Ewick, David) 英語圏文化領域を中心に、資料の精密な読解と分析、研究テーマの設定、方法論の整備を中心に指導する。</p> <p>(Kleitz, Dorsey) 米文学および関連文化領域を中心に、資料の精密な読解と分析、研究テーマの設定、方法論の整備を中心に指導する。</p> <p>(篠目清美) 米文学および関連文化領域を中心に、資料の精密な読解と分析、研究テーマの設定、方法論の整備を中心に指導する。</p> <p>(本合陽) 米文学および関連文化領域を中心に、資料の精密な読解と分析、研究テーマの設定、方法論の整備を中心に指導する。</p> <p>(小野祥子) 英語学および関連文化領域を中心に、資料の精密な読解と分析、研究テーマの設定、方法論の整備を中心に指導する。</p> <p>(野村恵造) 英語学および関連文化領域を中心に、資料の精密な読解と分析、研究テーマの設定、方法論の整備を中心に指導する。</p> <p>歴史文化分野</p> <p>(勝浦令子) 日本古代を中心に、政治、経済、社会、文化思想に関する主題につき、歴史的な視角からその全体像を再構成するための研究指導を行う。</p> <p>(高田陽介) 日本中世を中心に、政治、経済、社会、文化思想に関する主題につき、歴史的な視角からその全体像を再構成するための研究指導を行う。</p> <p>(黒沢文貴) 近現代日本の政治、外交、軍事に関する主題につき、歴史的な視角からその全体像を再構成するための研究指導を行う。</p> <p>(栗原純) 近現代の東アジアを中心に、政治、社会、文化思想に関する主題に関して、歴史的な視角からその全体像を再構成するための研究指導を行う。</p> <p>(茂木敏夫) 近現代の中国を中心に、その政治、外交、思想に関する主題に関して、歴史的な視角からその全体像を再構成するための研究指導を行う。</p>	
--	--	--

	<p>(樋脇博敏) 古代地中海世界を中心に、その政治、経済、社会・文化に関する主題につき、歴史的な視角からその全体像を再構成するための研究指導を行う。</p> <p>(坂下史) 近世の西欧世界を中心に、ヨーロッパの政治、経済、社会・文化に関する主題につき、歴史的な視角からその全体像を再構成するための研究指導を行う。</p> <p>(芝健介) 近現代の西欧世界を中心に、ヨーロッパの政治、経済、社会、文化思想に関する主題につき、歴史的な視角からその全体像を再構成するための研究指導を行う。</p> <p>現代日本語・日本語教育分野</p> <p>(丸山直子) 現代日本語の文字・表記、語彙、文法、意味、運用等の各分野における諸現象の性質を明らかにするための研究指導を行う。実例を踏まえた帰納的な研究に重点を置く。</p> <p>(篠崎晃一) 現代日本語の地域差、世代差や言語運用の場面差等を対象とし、社会言語学的な観点から言語変化や言語変容の実態把握と、その要因や背景の解明を課題とする研究指導を行う。</p> <p>(熊谷智子) 日本語の談話分析と言語行動分析について研究指導を行う。前者は、相づち、くり返し、発話の重なりなどの諸現象と、談話における参加者間の各種相互行為を主に扱う。後者は、日本語話者が依頼や謝罪、断りなど、各種の言語行動を行う際のストラテジー分析を主に扱う。</p> <p>(石井恵理子) 日本語教育を、多文化共生社会形成における言語問題に対応する教育としてとらえ、地域社会、学校、家庭における言語教育およびその推進にあたる専門性を有する人材育成の理念、内容・方法に関する研究の指導を行う。</p> <p>(松尾慎) 日本語教育を言語接触と言語管理など社会言語学的視座、言語政策や移民政策など政策論的視座、多元文化教育やコミュニケーション教育などの教育的視座で多角的に捉えられるよう研究指導を行う。</p>	
論文指導演習	<p>(概要) 本演習は、博士前期課程2年次の学生が、人間文化科学専攻での学習成果を学術的価値の高い修士論文に収斂させることができるよう体系的に教育することを目的とする。演習IIでは、特に、これまでの研究のプロセスと成果を的確に論文に反映すべく、論文の構成、論理展開、各種の定義や専門用語使用の妥当性などに主眼を置き、各学生が執筆する修士論文の草稿に徹底した検討を加えて行く。この過程で学生は、修士論文の質を高めるとともに、人間文化科学の学問的内容を発信する実践的な方法に習熟することができる。</p> <p>哲学・思想文化分野</p> <p>(森一郎) 近現代哲学のテーマを中心に各自の問題意識を高める一方、資料収集、原書読解、研究ノートや草稿の作成、推敲まで、指導を行う。</p> <p>(黒崎政男) 哲学・思想文化の古典的テキストを中心に、哲学・思想文化の課題に対し、資料の取り扱い、研究の方法、論文作成について指導を行う。</p>	

	<p>(佐々木能章) 倫理・社会哲学の諸問題を中心に、哲学・思想文化の課題に対し、資料の取り扱い、研究の方法、論文作成について指導を行う。</p> <p>(久保光志) 美学・芸術学の諸問題を中心に、哲学・思想文化の課題に対し、資料の取り扱い、研究の方法、論文作成について指導を行う。</p> <p>日本文学文化分野</p> <p>(金子彰) 具体的に文献の分析作業を指導する。分析し解明されてきた研究成果を発表する技法や、それを論文に仕上げるまでの指導をする。研究成果の妥当性を、先学の論考、諸文献との比較等を行って検証する等、論文の深化をはかる指導をする。</p> <p>(鉄野昌弘) 奈良時代以前の文学(万葉集・古事記・日本書紀・風土記)や平安時代以降の和歌文学などを対象として、社会・歴史的な背景を考慮しつつ、語学・比較文学的方法などを応用し、作品を読み解く方法を指導し、修士論文作成に繋げる。</p> <p>(今井久代) 平安時代の物語・日記・随筆、及びその影響下の物語・日記を対象とし、社会・歴史・他作品を視野に入れ、作品独自の達成の解明を課題とする論文指導を行う。</p> <p>(矢野公和) 中・近世文学を対象として、作品論・作家論或いは文芸思潮等に関する論文作成の指導を行う。</p> <p>(大久保喬樹) 明治から現代にいたる小説、詩などを対象とし、それぞれの作品、作家の特質を他作品、作家と照らし合わせながら解明することをめざして論文指導を行う。</p> <p>(近藤裕子) 明治から現代までの文学作品(サブカルチャーも含む)を対象とし、身体論、ジェンダー論、臨床諸理論などの境界領域の知を援用する学際的文学研究を目指す論文指導を行う。</p> <p>(安藤信廣) 中国文学・日本漢文等の研究方法、それに必要な基礎的資料の調査法、さらには文章構成等について指導し、相互に検討する。作品の読解、関連分野の研究をふまえて、中国文学研究の視点を豊かにする。その上で、各分野の重要な著書・論文等を調査し、それをもとに論理的に分析・批判する独自の方法を検討・考究する。</p> <p>英語文学文化分野</p> <p>(原英一) 英文学および関連文化領域を中心に、研究テーマの深化、オリジナリティの明確化、論証方法の整備を中心に指導する。</p> <p>(原田範行) 英文学および関連文化領域を中心に、研究テーマの深化、オリジナリティの明確化、論証方法の整備を中心に指導する。</p> <p>(Ewick, David) 英語圏文化領域を中心に、研究テーマの深化、オリジナリティの明確化、論証方法の整備を中心に指導する。</p> <p>(Kleitzi, Dorsey) 米文学および関連文化領域を中心に、研究テーマの深化、オリジナリティの明確化、論証方法の整備を中心に指導する。</p> <p>(篠目清美) 米文学および関連文化領域を中心に、研究テーマの深化、オリジナリティの明確化、論証方法の整備を中心に指導する。</p>	
--	---	--

	<p>(本合陽) 米文学および関連文化領域を中心に、研究テーマの深化、オリジナリティの明確化、論証方法の整備を中心に指導する。</p> <p>(小野祥子) 英語学および関連文化領域を中心に、研究テーマの深化、オリジナリティの明確化、論証方法の整備を中心に指導する。</p> <p>(野村恵造) 英語学および関連文化領域を中心に、研究テーマの深化、オリジナリティの明確化、論証方法の整備を中心に指導する。</p> <p>歴史文化分野</p> <p>(勝浦令子) 日本古代を中心に、政治、経済、社会、文化思想に関する主題につき、歴史的な視角からその特徴を把握するための研究指導を行う。</p> <p>(高田陽介) 日本中世を中心に、政治、経済、社会、文化思想に関する主題につき、歴史的な視角からその特徴を把握するための研究指導を行う。</p> <p>(黒沢文貴) 近現代日本の政治、外交、軍事に関する主題につき、歴史的な視角からその特徴を把握するための研究指導を行う。</p> <p>(栗原純) 近現代の東アジアを中心に、政治、社会、文化思想に関する主題に関して、歴史的な視覚からその特徴を把握するための研究指導を行う。</p> <p>(茂木敏夫) 近現代の中国を中心に、その政治、外交、思想に関する主題に関して、歴史的な視角からその特徴を把握するための研究指導を行う。</p> <p>(樋脇博敏) 古代地中海世界を中心に、その政治、経済、社会・文化に関する主題につき、歴史的な視角からその特徴を把握するための研究指導を行う。</p> <p>(坂下史) 近世の西欧世界を中心に、ヨーロッパの政治、経済、社会・文化に関する主題につき、歴史的な視角からその特徴を把握するための研究指導を行う。</p> <p>(芝健介) 近現代の西欧世界を中心に、ヨーロッパの政治、経済、社会、文化思想に関する主題につき、歴史的な視角からその特徴を把握するための研究指導を行う。</p> <p>現代日本語・日本語教育分野</p> <p>(丸山直子) 現代日本語の文字・表記、語彙、文法、意味、運用等の各分野における諸現象の性質を明らかにするための研究指導を行う。実例を踏まえた帰納的な研究に重点を置く。</p> <p>(篠崎晃一) 現代日本語の地域差、世代差や言語運用の場面差等を対象とし、社会言語学的な観点から言語変化や言語変容の実態把握と、その要因や背景の解明を課題とする研究指導を行う。</p> <p>(熊谷智子) 日本語の談話分析と言語行動分析について研究指導を行う。前者は、相づち、くり返し、発話の重なりなどの諸現象と、談話における参加者間の各種相互行為を主に扱う。後者は、日本語話者が依頼や謝罪、断りなど、各種の言語行動を行う際のストラテジー分析を主に扱う。</p>	
--	--	--

		<p>(石井恵理子)</p> <p>日本語教育を、多文化共生社会形成における言語問題に対応する教育としてとらえ、地域社会、学校、家庭における言語教育およびその推進にあたる専門性を有する人材育成の理念、内容・方法に関する研究の指導を行う。</p> <p>(松尾慎)</p> <p>日本語教育を言語接触と言語管理など社会言語学的視座、言語政策や移民政策など政策論的視座、多元文化教育やコミュニケーション教育などの教育的視座で多角的に捉えられるよう研究指導を行う。</p>	
--	--	---	--

別記様式第2号(その3の1)

<p style="text-align: center;">授 業 科 目 の 概 要 (人間科学研究科 人間社会科学専攻 博士前期課程)</p>			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 基礎	人間社会科学基礎論	<p>(概要)現代社会の人間が直面するさまざまな問題に対し、各研究分野ではどのようなアプローチにより問題解決方法を探ろうとしているか、多様なアプローチを知ると同時に、受講生が主として採用するアプローチの特徴を理解することを目指す。本講義は、上記の目標を達成するために、3分野をカバーし、異なる研究領域から5名が担当する方法をとる。講義内容は、単なる知識の伝達ではなく、それぞれの研究領域の研究手法や研究対象へのアプローチの独自性を明らかにするものとなる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (柴山雅俊/3回) 精神病理学の立場から講義を行う。 (唐澤真弓/3回) 文化心理学の立場から講義を行う。 (工藤恵理子/3回) 社会心理学の立場から講義を行う。 (赤堀三郎/3回) 社会学の立場から講義を行う。 (白砂堤津耶/3回) 社会科学のための統計分析を実践する方法について、推測統計学を中心に、その基本的手法について解説する。</p>	オムニバス方式
	国際コミュニケーションワークショップ	<p>海外及び国内における英語での調査の実施や国際的な研究交流を想定して、研究の動機、目的、方法、成果について英語のプレゼンテーションを行う力を養うためのトレーニングを行う。具体的には、ウォーミングアップとしての発音練習やモデルスピーチの練習から、研究テーマに関連した作文(段階的に分量を増やす)、インタビュー、スライドやポスターの作成、質疑応答の作法、研究会やワークショップを想定したロールプレイ(司会、報告者、討論者)までの指導を含む。</p>	
	論文作成・プレゼンテーション技法	<p>(概要)論文作成・プレゼンテーション技術は、多様なバックグラウンドを持って入学してくる学生に対して、人間社会科学の論文とはどういうものなのかについて、章立ての仕方や引用の方法、注や文献の扱い等について、また、学会発表などのアカデミックなプレゼンテーションにおけるスライドやポスターの作り方、発表原稿の作り方、発表の仕方と質問応答の仕方などについて、研究分野ごとの違いに留意しながら教示する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (小田浩一/3回):人間科学・社会科学の論文についての概説と実験研究を中心とした基礎心理系の論文とプレゼンテーションのスタイルを講義する。 (李津娥/3回):人間科学・社会科学分野、特にメディア・コミュニケーション研究分野の研究論文とプレゼンテーションのスタイルを講義する。 (高島克子/3回):臨床心理学分野で重要な位置を占める事例を中心とした研究論文とそのプレゼンテーションのスタイルを講義する。 (栗田啓子/3回):社会科学分野、とくに経済学分野での研究論文における論点の抽出と論理の構成の仕方とプレゼンテーションのスタイルを講義する。 (伊奈正人/3回):社会学的想像力を働かせて論文を構想し、理論構成、理論展開をするための技法について講義する。</p>	オムニバス方式

臨床心理学分野	基礎	心理学研究法特論	本講義では、心理学研究法における質的研究法を中心に、質的調査法と量的調査法との相違、研究デザインの仕方、基礎的データ収集法の方法、データ分析の概要、執筆の際の留意点について学ぶことを目標とする。また研究者のあり方や倫理的問題について自分なりの考えを持つことも目指す。授業においては、受講生自身の問題関心と研究テーマに基づき、研究計画の立案、効果的なデータ収集の方法、質的データの特徴をいかした分析法に関する理解を深める。	
		臨床心理学研究法特論	本講義では、臨床心理学研究の基本、研究の方法、研究の実際を、具体例に即して理解することを目標とする。とくに事例研究法については、倫理的配慮をはじめとした実際問題についての具体的理解を深めることを目指す。授業では、研究論文にふれるとともに、受講者自らの研究テーマや関心に基づいて発表と討議を行い、臨床心理学研究法に関する各々の理解を深める。 (オムニバス方式 / 全15回) (柴山雅俊/7回) : さまざまな精神の病態を精神病理学的立場と臨床心理学的立場からの研究方法について論じる。 (高島克子/8回) : コミュニティ心理学研究とナラティブ研究の立場から実例を通して臨床心理学の研究法を論じる。	オムニバス方式
専門		臨床心理学特論1	心理臨床の専門家になることの意味について探究し、この領域での教育・訓練に見通しと目標を持って取り組めるようになることをめざす。また関係性(クライアント-セラピスト関係と、より大きな関係性)を見る基本的な視点を学ぶ。それらを通じて自分自身の関心と課題をふまえて、授業では、心理臨床とは何を実現しようとする活動なのかを考え、また、心理臨床における倫理について具体的に学ぶ。さらに、クライアント-セラピスト間のプロセスを見るいくつかの視点と、その心理臨床の実際を考える。	
		臨床心理学特論2	心理臨床的援助のうち、クライアントおよび彼らを取りまく環境(家庭・近隣・学校・組織など)に働きかけるコミュニティ心理学的アプローチを中心に、具体的事例を通して学ぶ。その際重要なコンセプトである「予防的介入」「ソーシャルサポート」「コラボレーション」「コンサルテーション」等の理論や技法について実践報告と研究論文を読み、理解を深める。	
		臨床心理面接特論1	子どものさまざまな発達段階と主訴に応じた面接・支援のあり方についての基本的理論と体験実習を通して臨床的支援を実際に行う力を養うことを目標とする。具体的には、子どもが主訴をもつケースのインテイク面接のしかた、発達の危機の理解と発達の利用した支援のありかた、保護者や家族、学校、コミュニティを含めた支援のありかた、学校や家族関係の中での主訴の理解、こどもとの面接、遊戯療法や箱庭療法など非言語的心理療法の実際などについて学ぶ。	
		臨床心理面接特論2	心理臨床の面接場面における学派を超えた基本的態度や留意点を理解し、心理臨床の専門家をめざす各自の問題点に気づくことを目標とする。授業では、クライアント理解の基本となる傾聴や共感的理解の意味と面接のプロセス等を中心に、いくつかの視点と面接の実際を学ぶ。また、心理臨床職の果たす役割と在り方はどのようなものなのか、ビデオやエクササイズ等も踏まえながら、理解を深めることを目指す。	
		臨床心理査定演習1	臨床心理の現場でしばしば用いられる基本的な査定法(知能検査、質問紙、投影法、描画法など)の理論と実際を学ぶことを目標とする。講義においては、まず教員が検査者、学生が被検者になって、学生は教員から検査のやり方を学ぶと同時に、学生自身が被検者になることで、心理検査がそれを受ける人にどのような影響を及ぼすかを体験する。さらに、自分のデータを分析・解釈し報告書に書くことで、自分自身をより深く知ることを目指している。	

臨床心理査定演習2	<p>心理査定を支援に生かすにはどのようなバッテリーを組む必要があるか、発達段階や主訴に応じてどのような査定が必要になるか、また、どのように導入するのがのぞましいか、さらに、被検者ならびに関係者にどのようにフィードバックすることで情報を支援に有効につなげていけるか、などについて学ぶことを目標とする。協力者には実際に倫理的配慮をし、査定の実習であることを了解の上で心理検査に協力していただき、評定ならびに分析を行ってフィードバックするという演習を行う。</p>	
臨床心理基礎実習1	<p>(概要) 臨床実習を行うための臨床心理学の基本的態度と技能を身につけ、さらに、心理臨床を実践する上での各自の問題点や課題等を自覚することを目標とする。実習では、倫理的配慮や具体的手続きに関する事前指導を行い、ロールプレイなどの実践的なエクササイズ、ワークを中心に、基礎的技能に関する実習を進める。また学外の病院等の機関での実習準備のためのオリエンテーション、グループ・スーパービジョン等を行う。あわせて自己理解・他者理解・グループプロセスの理解を促進する。</p> <p>(オムニバス方式 / 全15回)</p> <p>(無藤清子/8回) : 心理臨床実践における倫理的配慮の実際、および体験学習、グループ・スーパービジョンを行う。</p> <p>(近田輝行/7回) : 共感的コミュニケーション、セルフアウェアネス、ならびにグループ・スーパービジョンを行う。</p>	オムニバス方式
臨床心理基礎実習2	<p>(概要) 「臨床心理基礎実習1」に引き続き、臨床実習を行うための基本的態度と技能を身につけ、さらに、心理臨床を実践する上での各自の問題点や課題等を自覚することを目標とする。ロールプレイなどの実践的エクササイズの実施、検討を中心に、基礎的技能に関する実習を進める。また学外の病院等の機関での実習や学内の心理臨床センターでの実習準備のためのオリエンテーション、グループ・スーパービジョン等を行う。あわせて臨床倫理への理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式 / 全15回)</p> <p>(無藤清子/7回) : 倫理的配慮の実際、体験学習、グループ・スーパービジョン等を行う。</p> <p>(近田輝行/8回) : 共感的コミュニケーション、セルフアウェアネス、ならびにグループ・スーパービジョンを行う。</p>	オムニバス方式
臨床心理実習1	<p>(概要) 学外実習および心理臨床センターの実習によって、臨床心理士として必要な知識・技法・他職種やボランティアとの連携・守るべき倫理などを身につけ、さらに自分自身を振り返り、スーパーバイザーや同じ院生の意見を聞きながら、臨床家としての資質を磨くことを目標とする。個人およびグループ・スーパービジョンを通して心理臨床現場での実習体験とその検討、臨床心理学へのより一層の理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式 / 全15回)</p> <p>(柴山雅俊/5回) : 精神保健の観点から実習指導ならびにグループ・スーパービジョン等を行う。</p> <p>(高嶋克子/5回) : コミュニティ心理学、とくにコラボレーションの視点を中心に実習指導、ならびにグループ・スーパービジョン等を行う。</p> <p>(前川あさ美/5回) : 学校支援、発達の観点を中心に実習指導ならびにグループ・スーパービジョン等を行う。</p>	オムニバス方式

臨床心理実習2	<p>(概要)「臨床心理実習1」に引き続き、学外実習や心理臨床センターでの実習によって、臨床家としての知識・技法・他職種やボランティアとの連携・守るべき倫理などを身につけることが目標である。目標を達成するために、インターク面接、プレイセラピーの検討、査定の事例等に関する個人およびグループ・スーパービジョンを行い、臨床家としての資質を磨く。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(柴山雅俊/5回)：精神保健の観点を中心に心理臨床センターの実習指導ならびにグループ・スーパービジョン等を行う。</p> <p>(高島克子/5回)：コミュニティ心理学の視点を中心に、心理臨床センター実習のインタークカンファレンス、ケース検討会等を行う。</p> <p>(前川あさ美/5回)：学校支援、発達の観点を中心に心理臨床センター実習のインタークカンファレンス、ケース検討会等を行う。</p>	オムニバス方式
障害者(児)心理学特論	<p>本講義では、障害をもつ子どもと関わる際の具体的な方法を習得し、他者の世界を解明する際の表現方法について学習し、また他者と関わることの意味について考えることを通して自らの「関わり観」を確立することを目標とする。障害の重い子どもとの関わりの場面を見ることを通して、具体的な関わりの方をを考え、他者の世界を広げること考察する。さらに、関わりの中で他者の世界を解明することの意味を考察し、両者の関係についての考えを深めることを目指す。</p>	
老年心理学特論	<p>急激な増加が見込まれる認知症患者の人々の理解を学際的な観点から深めることを本講義の目的とする。具体的には、認知症の概念(原因・症状・診断・治療)、認知症の神経心理学的アセスメント、認知症の非薬物的治療(認知リハビリテーション、本人・家族に対する心理教育)について理解を深めることを目標とする。また、認知症の概念、原因疾患、症状、治療に関する最新の知見に基づいて、心理学の専門家として患者と家族のためにどのような貢献ができるのかを考察し、討論する。</p>	
精神医学特論A	<p>臨床心理士が現場で要請される様々な精神医学的知識について幅広く理解することを目的とする。社会精神医学、生物学的精神医学、精神分析学、精神病理学などについて分かりやすく講義する。病院精神医学のみならず、産業精神医学などにも眼を向ける。生物学的精神医学では脳科学の観点から、心理療法の現状と限界について理解する。また、社会、歴史、文学の領域から臨床心理学の周辺について幅広い視点を持つことができるようにする。</p>	
精神医学特論B	<p>心理療法と精神科診断との関係の諸相を学ぶことによって、心理療法の位置づけと意義、さらに限界について知り、医療における臨床心理士の役割について考えることを目標とする。また疾患の病態構造を理解することにより、治療の道筋を探る。薬物療法についても講義する。診断することの大きな目的のひとつは治療をすることにある。さまざまな疾患における精神療法(心理療法)を「診断と治療」の観点からとりあげる。</p>	
学校臨床心理学特論	<p>教育現場である学校システムというものを理解し、学校教育相談に関する基礎知識を学ぶとともに、学校システムの中で起こるさまざまな問題(例えば、いじめや登校しぶり、保健室登校、離席、学習の極端な遅れなど)への理解と、問題を訴える子ども本人だけでなく、教師、保護者、クラスメイトを支援するスクールカウンセラーという専門職の機能についての理解を深めるとともに、学校というシステムの中でどのような協働が行われ、どのような発達支援が可能であるかについて事例を交えて具体的多面的に考えることを目標とする。</p>	

		心理療法特論A	本講義では、とりあげる心理療法の学派における基本的な考え方と、心理療法での対話の基盤にあるセラピストの基本的なスタンスを理解することを目標とする。そのために、心理療法における具体的介入を取り上げ、どのような認識論から、どのような意図と技法をもってその実践を行っているのかを検討する。あわせて、クライアントの語りを大切にしつつ、クライアントが属するシステム、コミュニティ、社会文化をも視野に入れることを学ぶ。エクササイズの体験をもとに、促進的な態度・スキルを身につけ、自分のものの見方や拠って立つ理論を自覚して照らし合わせる。	
		心理療法特論B	本講義では、とりあげる心理療法の学派の理論的立場から、クライアントまたは複数の来談者との心理療法場面において、どのようなやりとりが行われ、また、セラピストとしてどのような考慮や技法が必要なのかについて理解することを目標とする。そのため、心理療法場面での実践を目指して、ロールプレイなどのエクササイズを行い、心理療法場面での対話や相互作用を体験し、また、来談者たちが本来持っている力が発揮されるプロセスを体験していくことも目標とする。上記の目標を達成するために、学派の技法特有の介入時における自分のテーマに気づき、それに取り組むことも行う。	
		心理療法特論C	本講義では、心理学・臨床心理学の知識を現場で実際に実践できるように、知識としてもっていることを、クライアントの状況に合わせて柔軟に考えて対処できる力を養うことを目標とする。心理臨床の実践に必要な他職種との連携や協働、アセスメント、心身の訴えをどう受け止めるかなど、現場で必要ないくつかのテーマを取り上げ、臨床現場の実態に合わせて検討して理解を深める。また、医療領域で必要なことの具体的なイメージを持てることを中心的に想定しているが、教育領域、産業領域、福祉領域等の他領域においても共通に必要なとされる問題を扱う。	
心理・コミュニケーション科学分野	基礎	心理・コミュニケーション科学基礎論	(概要)心理科学およびコミュニケーション科学において重要な基礎概念(理論やキーワードなど)を専門領域の異なる5名の教員によるオムニバス方式で学んでいく。 (オムニバス方式/全15回) (有馬明恵/3回):ステレオタイプを中心に「メディアと現代社会」に関する講義を行う。 (加藤尚吾/3回):電子メディアコミュニケーションに関する講義を行う。 (斉藤慎一/3回):社会学・社会心理学の視点からメディアコミュニケーションに関する講義を行う。 (平林秀美/3回):発達心理学を中心に心理科学に関する講義を行う。 (渡辺隆行/3回):ヒューマン・コンピュータ・インタラクションに関する講義を行う。	オムニバス方式
	専門	心理科学(感覚知覚認知)	心理科学とコミュニケーション科学の両方の文脈の中で、感覚・知覚・認知に関する最近の基礎知識を習得し、現実社会におけるさまざまな問題と関連づけて理解することを目的とする。人間の感覚・知覚・認知を研究することで、情報通信技術やメディア、さまざまな社会サービスを人間にとって使いやすく、より価値の高いものにしていくことができる。この講義では、人間の感覚・知覚・認知の特性と現実社会の課題を関連づけて考える事ができるような柔軟な発想力や応用力をつけることを目指す。本講義では主に感覚・知覚・認知の基本的な概念について扱う。	

心理科学(感覚知覚認知)	心理科学とコミュニケーション科学の両方の文脈の中で、感覚・知覚・認知に関する最近の基礎知識を習得し、現実社会におけるさまざまな問題と関連づけて理解することを目的とする。人間の感覚・知覚・認知を研究することで、情報通信技術やメディア、さまざまな社会サービスを人間にとって使いやすく、より価値の高いものにしていくことができる。この講義では、人間の感覚・知覚・認知の特性と現実社会の課題を関連づけて考える事ができるような柔軟な発想力や応用力をつけることを目指す。では「心理科学(感覚知覚認知)」をベースにして発展的な内容と応用的問題について扱う。	
心理科学(発達)	発達心理学の基礎概念を習得し、人間の発達の様相やメカニズムを探究することおよび発達心理学の研究法について理解することを目的とする。主として対人関係の発達などの社会的発達、感情発達等のトピックを取り上げ、対人コミュニケーションの発達およびノンバーバルコミュニケーションの発達について検討し、様々な研究アプローチについて解説する。発達心理学の概説にとどまらず、具体的研究を取り上げ、研究方法も含めて学習できるように講義を行う。	
心理科学(発達)	「心理科学(発達)」で得た知見を踏まえ、発達心理学の最新の研究動向を理解するとともに、発達心理学の最新の研究アプローチについて理解することを目的とする。主として対人関係の発達などの社会的発達、感情発達等のトピックを取り上げ、対人コミュニケーションの発達およびノンバーバルコミュニケーションの発達に関する最新の研究論文を多数学習することにより、先行研究を概観し今後の研究の展開を考究する。発達心理学の国内外の主要なジャーナルを教材として、講義を行う。	
心理科学(家族・対人関係)	本講義では、心理学における、最新の家族研究、対人関係研究に基づき、対人関係、家族関係にまつわる心理を、社会・文化的規定要因を中心に、家族と対人関係について理解することを目標とする。また研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、研究手法についての理解を深めることも目指す。上記の目標を達成するために、授業では、家族に関しては、家族イメージ、家族とジェンダー、親子関係の変化・発達・家族システム論等の重要なトピックをとりあげ、解説する。	
心理科学(家族・対人関係)	本講義では、「心理科学(家族・対人関係)」に引き続き、心理学における、最新の家族研究、対人関係研究に基づき、対人関係、家族関係にまつわる心理を、社会・文化的規定および、他のさまざまな要因を考察し、家族と対人関係について理解することを目標とする。研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、研究手法についての理解を深めることも目指す。家族関係、対人関係の問題は多岐にわたるが、その中から重要なトピックを選び、解説する。	
心理科学(社会)	現代の社会心理学研究の多くは、社会的認知研究のモデルや理論の影響を受けており、社会的認知の基礎的知識なしに、それらの研究を的確に理解することは難しい。この授業ではそういった理解の基盤となる社会的認知研究の基礎的知見と方法の理解を目標とする。そのため、本講義では他者の認知や社会的推論にとどまらず、自己、感情など幅広いテーマを扱い、具体的研究を取り上げ、研究方法まで含めて学習する。	
心理科学(社会)	社会心理学における新しい研究動向を理解することを目標とする。研究が活発に行われ、進展が著しい研究領域にスポットをあて、新たな知見、研究方法を理解することを目標とする。特に集中的に同じ研究領域の論文を学習することで、研究内容の理解だけでなく、研究の進め方、研究の発展のさせ方について理解を深めることも目指す。そのため本講義では、主要なジャーナルから当該の研究領域の注目論文を複数取り上げ、研究上の位置付けを示し、体系的な理解が可能ないように授業を展開する。	

心理科学(文化)	文化心理学における基本的な知識を習得し、自己、思考、知覚、感情、動機付けといった心理プロセスの社会・文化的基盤を理解することを目的とする。会話、儀礼、子育てや学校教育、さらに広くは社会制度や道徳、イデオロギーなど、文化によって、人間の心の性質が構成されている様相を探求することを通じて、グローバルイゼーションの中で人間理解を深める。この講義では、近年の文化心理学的アプローチの核となる文化的自己観について、特に洋の東西の文化比較研究を中心に考究していく。	
心理科学(文化)	「心理科学(文化)」で得た知見を踏まえ、文化心理学の中心的理論である文化と心の相互構成過程について、理解することを目的とする。心の性質(プロセスと構造)と社会の性質(文化的慣習や通念)が相互に構成しあう様態を最新の雑誌論文にある実証研究から同定していく。さらに、東西の文化間の差異だけではなく、それぞれの文化圏内の分散や、ジェンダー・教育・社会階層などを視野にいれ、文化内の変化や一貫性について、検討する。	
コミュニケーション科学(メディア)	本講義では、現代社会においてマス・メディアやインターネットが果たす役割について、主に社会学・社会心理学的視点から研究する。特に、メディアが伝える内容が人々の意識や行動に与える影響について詳しく検討する。例えば、メディアと政治意識、メディアと性役割意識、メディアと流行の心理、インターネットと情報行動などのテーマをとりあげる。また、各テーマに関する代表的な実証研究を取り上げ、データ収集方法やデータ分析方法についても合わせて学習していく。	
コミュニケーション科学(メディア)	本講義では、「コミュニケーション科学(メディア)」に引き続き、現代社会においてマス・メディアやインターネットが果たす役割について、主に社会学・社会心理学的視点から研究する。では特に、質問紙調査データの分析方法にも重点を置いていく。具体的には、重回帰分析を中心に、分散分析、因子分析、パス解析など代表的な多変量解析を取り上げ、それぞれの分析方法について基本的な解説を加えた後、SPSS を用いて実際に調査データを分析しながら主要な多変量解析法の習得を目指す。	
コミュニケーション科学(広告)	コミュニケーションの多くは、何らかの影響を与える目的や意図でなされており、こうした説得コミュニケーションは社会の様々な場面で見られる。本講義では、マス・メディアやインターネット上の多くの情報が持つ広告性とその影響に注目し、現代社会の代表的な説得メッセージである広告の内容的特徴と受容について理論的検討を行う。具体的には、メディア研究、説得コミュニケーション研究、広告効果研究、消費者行動研究などの関連領域の研究と理論をレビューし、考察する。	
コミュニケーション科学(広告)	本講義では、多様な広告メッセージのコミュニケーション戦略とその効果について、関連領域の諸研究と理論を踏まえ、実証研究を中心に検討を行う。具体的には、商品広告と企業広告に見る企業のコミュニケーション戦略と消費者に対する影響、広告・宣伝的要素の強い政治情報の特徴と有権者の政治意識や行動に対する影響、公共広告やキャンペーンの訴求戦略と人々への意識や行動への影響、広告メッセージの比較文化的研究など、広告情報の特徴と受容に関する実証研究の検討を通して、現代社会において広告が持つ意味について理解する。	
コミュニケーション科学(現代社会)	この授業では、マス・メディアやインターネットが発達した現代社会において、それらのメディアやメディアの内容が人々に与える影響を学問的な理論やモデルに依拠して批判的に検討することを目標とする。そうしたメディアがもたらす現代社会の問題として、社会集団(年齢、性別、職業、エスニックなど)に対するステレオタイプや偏見の問題などを取り上げる。教材には日本語ならびに英語で書かれた学術書ならびに一般書を主に使用し、履修者と教員とでディスカッションも行う。	

<p>コミュニケーション科学 (現代社会)</p>	<p>この授業では、マス・メディアやインターネットが発達した現代社会において、それらメディアやメディアの内容が人々に与える影響を実証的に検討する方法(内容分析、質問紙調査、インタビュー調査、実験)の長所と短所と研究計画の立案の仕方を理解することを目標とする。授業では、メディアの内容と社会集団(年齢、性別、職業、エスニックなど)に対するステレオタイプや偏見などに関する研究論文の講読と要約を行う。また、それら先行研究の知見をまとめることも試みる。</p>	
<p>コミュニケーション科学 (電子メディア)</p>	<p>本講義では、様々な電子メディアの特徴を理解することを目標とする。現代のコミュニケーションにおいて、電子メディアは大きな部分を占めている。電子メディアには文字ベースから、音声、画像、映像などのマルチメディアまでが存在する。また使用方法に関しても同期的、非同期的に分けることができる。電子メディアの特徴を理解することは、電子メディアコミュニケーションに関する研究において欠かすことができない。また、本授業科目では、電子メディアの特徴を理解するために電子メディアコミュニケーションに関する基礎研究を紹介する。</p>	
<p>コミュニケーション科学 (電子メディア)</p>	<p>本講義では、電子メディアコミュニケーションの特徴を理解することを目標とする。電子メディアの持つ様々な特徴によって、私たちのコミュニケーションはどのような制約を受けているのか、また制約から解放されているのか、について理解する。その上で、これらの制約が有効なコミュニケーションや、制約の方略としての使用について考察する。また、本授業科目では、電子メディアコミュニケーションの特徴を理解するために電子メディアを用いたコミュニケーションに関する応用研究・実践研究を紹介する。</p>	
<p>コミュニケーション科学 (ヒューマン・コンピュータ・インタラクション)</p>	<p>認知心理学や人間工学などの予備知識がない受講者を対象に、ヒューマン・コンピュータ・インタラクション(HCI)の基礎を学習する。人間の情報処理過程(知覚・認知・運動システム)とコンピュータの基本機能(入力・出力・記憶・演算制御)をまず学習し、両者を対比しながら情報システムと人間のインタラクションの基本を学ぶ。次に、人間のモデル化やエラー等のこの分野で重要なトピックをいくつか取り上げ、最後に、HCIとユニバーサルデザイン・ユーザビリティ・アクセシビリティとの関係を指摘する。</p>	
<p>コミュニケーション科学 (ヒューマン・コンピュータ・インタラクション)</p>	<p>HCIの観点からユニバーサルデザイン・ユーザビリティ・アクセシビリティを理解させる。WHOのICF等を元に、多様な身体・認知特性を持つ人間の機能と生活をまず理解する。次に、ユニバーサルデザイン・ユーザビリティ・アクセシビリティそれぞれの定義と関係を理解させ、各分野のユーザ分析及びシステム評価の両場面で必要となる調査研究手法をいくつか紹介する。最後に、ウェブなどを題材に取り上げて、ユーザビリティとアクセシビリティを評価する実習を行い、この科目で学んだ知識の定着と実践への応用を図る。</p>	

グローバル共生社会分野	基礎	<p>グローバル共生社会論</p> <p>(概要)本講義は、グローバル化が進む中でそれに対応した制度やシステム構築が遅れている現状を踏まえて、グローバル化の時代にふさわしい新たな共生社会を構想するための研究能力を育成することを目標とする。本講義は、上記の目標を達成するため、複数の方法論を用いて既存の国際関係社会関係の枠組みのさまざまな視点からの批判的再検討を行い、その過程でグローバル化がはらむ共生の障壁を探るとともに、グローバル共生社会を構想するための諸理論の基礎を学んでいく。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(平成25年度滝口太郎3回/平成24年度黒川修司3回):グローバルな国際システムの変容とその要因を歴史的中核の経緯も絡めながら検討する。その際既存の国際秩序の中核を担ってきた国の視点だけでなく、現秩序に変わる新秩序を求めている国の視点も取り入れて講義する。</p> <p>(平成25年度湯浅成大3回/平成24年度油井大三郎3回):現在の国際システムにおいて依然として大きな影響力を持っているアメリカに焦点を当て、グローバル社会における共生とアメリカとの関係について多面的に検討する。</p> <p>(平成25年度兼若逸之3回/平成24年度轟莉莉3回):アジアにおけるグローバル共生社会の可能性について、特に文化の面から検討する。その際文化人類学的手法や比較文化的な手法などを適宜用いて分析する。</p> <p>(平成25年度二村真理子3回/平成24年度竹内健蔵3回):望ましい共生社会を形成するために、望ましい社会の定義およびそれを客観的な指標によって計測するための方法を検討する。ここでは経済学が考える望ましい社会の定義からはじめ、望ましさの計測手法並びに望ましい社会の実現に向けての政策評価などについて考察する。</p> <p>(平成25年度中村真人3回/平成24年度染谷淑子3回):共生社会の基本単位として自明視されてきた家族、仕事などの枠組について、グローバル化という変動の中で新しい枠組の可能性はどのように可能か、社会学的な比較研究の視点から明らかにする。</p>	オムニバス方式
	グローバルジェンダー分析	<p>グローバルジェンダー分析</p> <p>(概要)「グローバル共生社会」分野では、一人一人の「生」(生命、生活、人生)を見つめ、一人一人の「生」が抑圧や暴力から解放される新しい共生社会をグローバルに構想するため、社会的文化的性別・性差である「ジェンダー」をすべての学問、政策、運動を横断する重要な課題と捉える。本講義では、さまざまな分野で今日まで取り組まれてきたジェンダー分析の成果を超領域的に学ぶことで、より明確にその分析視角を理解し、各自の研究と実践にジェンダー視点を統合する能力をつけることを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(小樽山ルイ/3回)</p> <p>ジェンダーという概念は歴史理解、歴史叙述にどのような可能性を開いたのかを学ぶ。「私的で個人的なことは政治的なことである」というフェミニズムの標語は、歴史叙述をどう変えてきたのだろうか。</p> <p>(国広陽子/3回)</p> <p>フェミニズム運動におけるマスメディア批判から、フェミニズム視点に立ったジェンダー研究におけるメディア批判の展開について映像資料を紹介しつつ検討する。</p> <p>(金野美奈子/3回)</p> <p>仕事と家族の領域における既存のジェンダー研究の主要な成果を概観し、ワークライフスタイルの多様化など近代型ジェンダー構造の変容を受けた新たな課題について考察する。</p> <p>(岡村清子/3回)</p> <p>生活問題と社会福祉政策についてのジェンダー分析を行う。具体的には、アメリカと日本におけるシングルマザーの社会福祉政策を比較し、今後の日本の課題について考察する。</p> <p>(古沢希代子/3回)</p> <p>発展途上国の開発や紛争後の平和構築の過程で発生するジェンダー問題を追究する。あわせてジェンダー平等の見地から具体的な援助プログラムや政策の評価を行う。</p>	オムニバス方式

グローバル社会基礎研究(国際関係論)	<p>冷戦終了後の定まらない、ある意味では古典的な世界に回帰したような国際関係を分析するための方法論あるいはアプローチを身につけることを目標とする。具体的には「理論」やモデルを重視しながら、複雑な国際社会に接近していく。本講義では上記の目標を達成するために、政策決定論を中心として、歴史的分析をすることで「冷戦」を深く理解していく。一体どのような国際環境において、各国の政策決定者は「選択肢」からある決定を選びだしたのか、どの程度の自由度があったのかを考えてみたい。「合理的決定者モデル」「組織過程モデル」などを具体例で検討する。</p>	
グローバル社会基礎研究(国際関係論)	<p>冷戦終了後の定まらない、ある意味では古典的な世界に回帰したような国際関係を分析するための方法論あるいはアプローチを身につけることを目標とする。具体的には「理論」やモデルを重視しながら、複雑な国際社会に接近していく。本講義では上記の目標を達成するために、「グローバル社会基礎研究(国際関係論)」で学んだ政策決定論の視角に留意しながら、パワー・ポリティクスから、国際関係の変容をアクターの複雑さに注目して考察していく。具体的には、「同盟」、「安全保障」、「外交」、「主権国家」などを冷戦後の事例に則して検討する。</p>	
グローバル社会基礎研究(国際機構論)	<p>21世紀に入り国際社会の変容は大きい。国連を中心とする国際機構は、冷戦の終結により東西対立に起因する機能麻痺に陥る確率は低下した。主権国家と国際機構の相互の連関に注目しながら、国際法の視点から国際機構を分析することが目標である。上記の目標を達成するために、本講義では国際機構が国際社会でどのように機能してきたかを講義するが、政治面だけでなく、国際経済の面でも国際機構が果たす役割が増大していることに注目したい。そこでも国際法(あるいは国際経済法)が果たす役割を改めて検討する。</p>	
グローバル社会基礎研究(国際法)	<p>グローバルコミュニティの基本法である国際法の主要な問題を取り上げて、国際法の基礎を学ぶとともに、現代国際法の特徴および動向を明らかにすることを目標とする。同時にグローバル共生社会構築の基盤となる国際人権法に関する理解を深めることも目標とする。本講義では、国際法の基礎、法源、国家主権と管轄権、国際関係と人権、人権概念の普遍性、国際人道法など幅広いテーマを取り扱う。国際法の理論の解説にとどまらず、さまざまな具体的な事例や国際判決の判例などグローバル共生社会構築の実践にもつながる授業をめざす。</p>	
共生経済基礎研究(ミクロ経済学)	<p>公共政策を分析、評価し、政策提言につなげていく一連の過程を実行するためにはミクロ経済学の知識とその手法の適用は必要不可欠である。本授業においては政策志向のミクロ経済学の修得を目的とし、特に現実の政策への応用を主眼とする。具体的には中級から上級クラスの英文のミクロ経済学のテキストのうち、市場の失敗の分野を中心に取上げて講読する。したがって初級程度のミクロ経済学の素養は必要であり、大学学部卒業程度の数学能力を前提とする。</p>	
共生経済基礎研究(マクロ経済学)	<p>この講義では、現実のマクロ経済の構造を理解し、その理解をさまざまな政策立案に役立てるよう、マクロ経済学の内容を学説史的・体系的に講義する。特に力点を置く講義項目としては、開放経済における国民所得の決定メカニズム、IS-LM分析と財政政策・金融政策、AD-AS分析、マンデル=フレミング・モデル等であり、実証分析例も紹介しつつ講義を進める。毎回、マクロ経済モデルを用いた演習問題を解き、講義中に学んだ理論の理解が深まるよう、配慮する。</p>	

共生経済基礎研究(社会統計学)	重回帰分析を中心とした多変量解析を、福祉や雇用、金融や財政、消費や貯蓄、開発や援助といった実際のデータへ適用した例を厳密に検討しつつ、毎回の講義では統計解析ソフトウェアを使用し、社会統計学の理論と応用力の習得をはかる。また、日本の総務省統計局・厚生労働省・財務省・日本銀行、あるいは世界銀行・国連開発計画(UNDP)・国際労働機関(ILO)・国連食糧農業機関(FAO)等の公表したデータの特性・利用法についても詳細な講義を行い、広範かつ高度な実証分析を行う能力を養う。	
共生経済基礎研究(経済思想)	共生社会を構想する基盤として、グローバルな社会における共生の可能性を示唆した経済思想を理解することを目標とする。具体的には、19世紀中葉から20世紀初頭にかけてのヨーロッパを中心に、環境との共生、地域社会における共生、経済成長とともに発現した格差に対する是正の試みなどをめぐる経済思想の歴史的展開を講義する。とくに、共生社会のデザインの多様性と共生における中間組織の重要性に焦点を当ててゆくことにしたい。	
共生社会基礎研究(社会学原論)	受講生が自分自身の研究を進めていくための基礎となる、現代社会理論ないし古典的社会理論を身につけることを目指す。内容は、社会理論をソーシャルについての理論とソサエティについての理論に大別して言えば、前者については行為、合理性、秩序、規範、権力、信頼といった古典的テーマから、コミュニケーション、ネットワーク、意味とシンボル、リアリティ、アイデンティティなどの現代的テーマまでを扱い、後者については、分化と統合、進化、市民社会論、世俗化、階級・階層といった古典的テーマから、リスク、環境、情報、メディア、固定化/液化化、再帰性などの現代的テーマまでを題材とする。	
共生社会基礎研究(社会文化論)	工業化に伴う社会の変容は、当初大衆社会論という危機として認識されたが、国民国家、性別役割分業家族、職業などを基本ユニットとする一定の安定した枠組を得た。しかし、今日グローバル化・自由化というかたちでそれが解体され、新しい枠組が模索されている。こうした現状認識に立ち、現代社会の社会関係と社会規範の関わり、すなわち社会文化の問題について考察する。とりわけ、社会のマイノリティ、弱者と呼ばれる人々の生の営みとしてのサブカルチャーに胚胎される文化規範のありように着目し、新しい共生社会の可能性を考究する。	
共生社会基礎研究(質的調査)	「質的」と特に形容される調査方法、問題設定の特性を理解することを目標とする。「質的」な社会調査法の意味を理解するため、その学史的背景としての社会構造論、社会変動論、意味の社会学などを概観した上で、研究課題と調査法の関係、質的データの諸形態と特性、質的データの獲得方法の特徴、質的データの獲得方法の課題、データの質的な分析法などについて解説する。また、研究論文を質的データとして解読する方法、分析の手順を学ぶ。そして、データ収集法及び分析法を模擬的に実習しながら実践的能力の基礎を習得する。	
共生社会基礎研究(多変量解析)	多くの変数が同時に複雑にかかわり合う人間行動や社会現象を対象とする人間社会科学の研究の中では、因子分析や重回帰分析などの多変量解析は重要な研究のツールとなっている。本講義では、多変量解析を理解する上で必須となる統計的な基礎概念から始め、平均値の差の検定や分散分析を経て、多変量を扱う統計的解析手法まで指導する。それぞれの統計的手法や概念については、統計パッケージソフトを実際に使用してデータ分析をしながら活用できるようにする。	

専門	地域共生研究(アメリカ)	アメリカと国際社会の共生についての理解を深めることを目標とする。そのために、アメリカ外交のイデオロギーやアメリカの国際秩序観を概観し、アメリカ外交の持っている普遍志向と特殊性について検討していく。またアメリカ外交は国内的な価値観、社会契約のあり方、あるいは国内における政治対立が直裁的に反映される面が強いため、アメリカ政治における国内政治と外交政策の連関や、国内での政治イデオロギーの対立などにも焦点を当てていく。さらにアジアとアメリカの共生関係についても歴史的事例や現状の分析を通じて理解を深めていくことにする。	
	地域共生研究(アメリカ)	アメリカ合衆国における多人種・多民族集団間の対立・相克の歴史過程を概観した上で、「多文化主義」など人種・民族集団間の共生をめざす理論的・実務的努力の過程を検討することを目指す。本講義は、上記の目標を達成するために、1990年代のアメリカ合衆国で展開された「多文化主義」論争に関する文献を精読する。また、日系移民や他のアジア系移民をめぐる差別や排斥の歴史過程を検討するとともに、法的差別の撤廃やアジア系移民の社会的・経済的地位上昇を通じて共生の条件が高まっていった過程についても検討する。	
	地域共生研究(東アジア)	現代における中国の外交政策と日中関係の基本構造を理解させることを目標とする。まず、中国の外交政策を規定している歴史的要因、国内的諸要因について説明。次いで、近年の大国化に伴う外交政策の変化を講義する。中国外交の歴史、思想、行動パターンを理解させた上で、現代の日中関係を考察する。国交回復以来、複雑化する両国関係の様々な分野における諸問題を分析、理解し、日中両国が政治的、経済的に共生するための諸条件を検討する。	
	地域共生研究(東アジア)	東アジア世界における共生の問題を日韓の文化比較を中心として考察し、その結果浮き彫りにされる日韓両国の社会的な特質についての理解を深めることを目標とする。日韓両国のさまざまな生活習慣や社会関係・家族関係のあり方をはじめとする日韓比較文化に関する書籍・論文などを幅広く読み、それぞれの文化比較論を成り立たせている方法論を批判的に検討し、そのような比較の長所及び短所および既存の論著の妥当性と限界性をあわせて考察する。	
	平和共生研究(多文化共生論)	本講義は、文化人類学の異文化理解の方法論や他者へのまなざし、例えば、他者を理解する参与調査法、多様な人間文化を理解する立場としての文化相対主義、人間集団をめぐる多様な情報を整理し一つの知の体系として提示してゆく統合的思考法、研究者自身の立場を考慮する内省的視点などを学びながら、多文化共生に必要な視点と方法論を理解することを目指す。関連する文化人類学の古典的研究を紹介すると同時に、多様な民族集団を統合する複合社会の動態や、民族紛争とその和解、文化交流と相互に与えた影響など現代社会に関する新しい研究も紹介する。	
	平和共生研究(平和教育学)	平和教育の理論と実践について、日本に焦点を当てつつ、海外諸国やユネスコ等の国際的動向も視野に入れて検討することで、近年提起されている「平和教育学」研究の成果から学ぶとともに、平和教育に関する各自の知見を深めることを目標とする。近年の「包括的平和教育」論では、戦争に関する問題のみならず、開発、人権、環境、異文化理解等多様な課題を含み込んで平和教育の理論と実践を構築しようとしている。こうした平和教育研究の到達点を学ぶとともに、そこに残されている諸課題を剔抉してその克服への道筋を具体的実践に即して検討する。	

共生経済研究(公共政策論)	主として経済学における分析手法に依拠して、現実の経済問題に対して行われている諸政策を分析、評価、検討する。これら一連のプロセスを経ることによって、将来の修士論文作成における明確な問題意識と分析手法の獲得を目的とする。具体的には、市場と政府(公的介入)との関係に焦点を当てる。電力・ガス・水道・情報通信・交通などのような公益事業においては、民間の採算性と公共の目的が相克しがちであるので、こうした分野において、どのような政策を策定することが望ましいかを考えていきたい。	
共生経済研究(環境経済学)	本講義では、地域環境問題、地球環境問題、資源エネルギー問題などの諸問題を経済学的視点から分析し、解決のための望ましい政策手法の導出や仕組みの設計を行うことを目的とする。具体的には、固定発生源、移動発生源による大気汚染の解決や、温室効果ガスの排出抑制に対する、経済的手法の適用について理論面から理解した上で、政策手段の歴史的変遷、現在の諸外国の政策について知識を深める。また、資源エネルギー問題については、化石燃料の枯渇問題について、世代間配分、新エネルギーの可能性などについて議論を行う。	
共生経済研究(開発経済学)	共生社会を構想する基盤として、人々の生活や人生に多大な影響を及ぼす貧困や経済格差の問題を扱い、その原因を一国及び地球規模で分析し、より良い経済発展の方法を探ることを目標とする。具体的には、まず、貧困や格差の概念や計測手法と開発理論の発展過程を講義し、次に、現代の発展途上国が直面する国内的問題と国際的問題に焦点をあて、その問題を論じる際の理論的枠組み、問題の現状、解決のための政策を論じる。	
共生経済研究(国際金融論)	世界的な金融自由化は金融危機のグローバルな連鎖をもたらし、そのショックは実体経済を揺さぶって人々の生活を脅かしている。本講義の目的は、共生社会を構想する一環として、国際金融市場に対するグローバルなガバナンスを構想することである。そのために、国際金融のメカニズムと国際マクロ経済学を理解し、金融危機の原因と危機が波及するメカニズム及びその影響を分析し、既存の制度や政策を検討する力を養う。	
共生社会研究(産業と労働の社会学)	グローバルな規模で進む産業発展および企業活動の現状と、多様な人々の協働と共生が求められる仕事の世界について、理論的・経験的な知識を身につけることを目標とする。発展途上地域では工業化が進むとともに、工業化を遂げた諸地域では知識社会化が進んでいる。本講義では、こうした現象についての、社会学理論の文献検討と、アジアはじめ各地域の諸事例の検討、諸統計の分析を行う。その基礎の上に、産業分野での国際協力、科学技術とイノベーション、持続可能な発展と人的資源開発などについて考察し、共生社会形成の課題を追求する。	
共生社会研究(少子高齢化と福祉)	福祉社会の概念とその発展の歴史、また、近年の少子高齢社会における福祉の現状と課題について、歴史的、地域的な視点から多角的に捉える。福祉の変遷、福祉社会形成の考察に始まり、少子高齢社会の現状と課題、現代社会の目指すものを検証し、その上でわが国社会の特性について、多角的な探求を行う。他方、先進諸国の現状(スウェーデン、オーストラリア、英国、アメリカ合衆国など)の考察、及び福祉社会の類型比較を行い、急激に変貌するアジア社会の検証と、グローバルな視点から少子高齢社会と福祉の課題について考究していく。	
グローバルジェンダー研究(仕事と家族)	再生産の様式、職場に関わる法規範の変化、労働市場構造などの変化を背景に、とりわけ先進諸国において、職場と家族に関する近代型ジェンダー構造の変容が指摘されて久しい。この歴史的な過程とその背景について理解を深めるとともに、近年のジェンダー研究の展開を踏まえつつ、職場と家族の結節点における現代的な諸問題について、労働者個人、家族、企業、国家など多様なアクターを視野に入れた複眼的な視点から考察を行う。グローバルな相互比較に特に力点を置く。	

グローバルジェンダー研究(社会福祉)	近代社会における社会保障制度は、イギリスのベバリッジ報告による福祉国家論と北欧諸国のノーマライゼーション思想や福祉社会論の影響を受けて展開してきた。1970年代以降は、ジェンダーアプローチからの批判があり改革がなされている。日本では女性の労働参加が進んでいるが、性別役割分業の家族モデルが背景にあるために介護・育児などケア労働の社会化という新たな家族福祉ニーズへの対応が求められている。このような状況を踏まえ、日本における少子高齢化や家族の多様化に対応した社会福祉政策のあり方についてジェンダーの視点から論じる。	
グローバルジェンダー研究(コミュニケーション)	ジェンダー研究のための方法論として、ライフヒストリー分析、会話分析、メディアの言説分析など質的調査法を理解させる。あわせて、質的調査法の多様性とその意義について、質的調査に基づく論文を講読し理解を深める。また、実習を通してフィールドワークの技法を習得する。調査倫理、とくに研究対象との関係性、研究者としての立場などについての理解も重視する。	
グローバルジェンダー研究(開発と平和構築)	本研究では発展途上国における経済開発・社会開発の現状をジェンダーの視点から分析する手法(ジェンダー分析)と開発政策にジェンダーによる差別や格差の是正を組み込む手法(ジェンダー平等推進計画)について学ぶ。また、同じ手法を紛争地域における紛争後の平和構築のプロセスに適用し、平和構築期に取り組みられるべき問題群とその方策をジェンダーの視点から検討する。期末には、既存のプロジェクトや政策を評価する、自らの調査研究にジェンダー視点を組み込むといった課題を与える。	
グローバルジェンダー研究(比較ジェンダー研究)	近代日本のジェンダー構造は、日本以外の国や地域からどのような影響を受けて構築されていったのかを理解させることを目標とする。家族や女性らしさ、結婚の形態、学問体系などは、異なる地域や国ではどのような差異と共通性が見られ、それらはどのように相互に影響し合ってきたのだろうか。各自がトピックを選び、ブックレポートを行い、また、独自の調査結果を発表する。	
共生社会拠点実習	<p>本演習は、グローバル共生社会分野で学ぶ学生が共生社会の実現に取り組む国際機関、NPO/NGO、行政機関、企業等でインターンとして実務を経験することをサポートするプログラムである。まず派遣前は、インターンシップ先の選定、インターンシップ先との交渉、インターンシップ先の業務・活動領域や業務・活動内容の把握、参与観察の手法、インターンシップ中の心がまえ・安全確保・健康維持に関する指導を行う。インターンシップ中は、定期的に報告を出させ、必要に応じて助言を与える。修了後は、インターンシップ経験の総括、フォローアップのための学習、学内でのプレゼンテーション、報告書作成を指導する。</p> <p>(オムバス方式/全15回)</p> <p>(岡村清子、古沢希代子、黒川修司、竹内久顕/1回) インターンシッププログラムとは (岡村清子、古沢希代子/1回) インターンシップ先の選定 (竹内久顕/2回) プレゼンテーションワークショップ (岡村清子/1回) 調査法ワークショップ (古沢希代子/1回) 調査法ワークショップ (黒川修司/2回) ディスカッションワークショップ (岡村清子、古沢希代子/1回) 派遣前の諸注意 (岡村清子、古沢希代子/1回) インターンシップの振り返り(1) (黒川修司、竹内久顕/1回) インターンシップの振り返り(2) (岡村清子、古沢希代子/1回) フォローアップのための調査研究報告(1) (黒川修司、竹内久顕/1回) フォローアップのための調査研究報告(2) (岡村清子、古沢希代子、黒川修司、竹内久顕/1回) 学内報告会の開催 (岡村清子、古沢希代子、黒川修司、竹内久顕/1回) プログラムの評価会</p>	<p>オムニバス方式</p> <p>演習 30時間 実習 80時間</p>

共通	専門	(研究指導)	<p>(概要) 博士前期課程 1 年次の学生を対象とし、人間社会科学の分野における学術論文を執筆できるように体系的に指導する。学生個々の主題に応じて、研究テーマや研究方法の選び方から、資料収集、研究発表の技法までの基本を指導する。</p> <p>臨床心理学分野 (柴山雅俊) 精神保健に関連する領域について、精神病理学を主に援用し指導する。 (高島克子) 学生自身が興味・関心を持つ研究分野において、コミュニティ心理学的視点を加えながら指導を行う。 (近田輝行) パーソン・センタード・アプローチ、フォーカシング指向心理療法、青年期のカウンセリング等に関する研究指導を行う。 (前川あさ美) 発達過程における問題、学校における問題、および家族関係における問題に関して発達臨床的視点から指導する。 (無藤清子) 学生自身が関心を持つ研究分野について、家族臨床心理学的支援の視点から、研究指導を行う。</p> <p>心理・コミュニケーション科学分野 (小田浩一) 精神物理学を中心にした実験的手法により、人間の感覚知覚認知、人間の行う情報処理に関する研究指導を行う。 (平林秀美) 主に観察法を用いて、発達心理学、特に感情発達および社会的発達に関する研究指導を行う。 (工藤恵理子) 主に実験的手法を用いて、社会心理学、特に社会認知的アプローチによる研究課題の指導を行う。 (唐澤真弓) 文化比較研究の妥当性、問題点を理解した上で、心の社会・文化的構造を同定する比較研究についての指導を行う。 (斎藤慎一) 質問紙調査、内容分析、実験などの手法を用いて、マス・メディアやインターネットとその社会的影響について指導を行う。 (李津娥) 内容分析、実験、質問紙調査などの手法を用いて、マス・メディアとインターネットにおける広告コミュニケーションに関する研究指導を行う。 (有馬明恵) 内容分析、質問紙調査、インタビュー調査、実験などの手法を用いて、マス・メディアにおける年齢、ジェンダー、エスニックなどの問題やその影響についての指導を行う。 (渡辺隆行) HCI、特にユーザビリティとアクセシビリティに関して指導を行う。</p>	

	<p>グローバル共生社会分野</p> <p>(黒川修司) 国際紛争、平和構築、人道的介入、国際協力などの国際関係論の幅広いテーマに関して研究指導を行う。</p> <p>(湯浅成大) 国際政治学、外交史の手法を用いて、アメリカの政治、外交に関するテーマの研究指導を行う。</p> <p>(油井大三郎) 比較地域研究や歴史学的手法を用いて、アメリカ合衆国や日本における多文化共生などに関するテーマの研究指導を行う。</p> <p>(滝口太郎) 国際政治学、外交史の手法を用いて、中国の政治、外交に関するテーマの研究指導を行う。</p> <p>(兼若逸之) 歴史学的・比較文化的手法を用いて、韓国の社会・文化・歴史などのテーマについての指導を行う。</p> <p>(轟莉莉) 文化人類学的手法を用いて、東アジアの社会・文化をテーマとする指導を行う。</p> <p>(小檜山ルイ) 社会史、女性史、ジェンダー論の手法を用いて、アメリカ社会や日米比較をテーマとする指導を行う。</p> <p>(国広陽子) ジェンダーとマスメディアについて実証主義的アプローチ(アメリカ)と批判的アプローチ(ドイツ、イギリス)の両者を取りあげ、研究指導を行う。</p> <p>(竹内久顕) 平和教育学に関する基礎的文献の読解と実践の検討について研究指導を行う。</p> <p>(古沢希代子) 複合的なアプローチを用いて、開発や平和構築のプロセスで発生するジェンダー問題について指導を行う。</p> <p>(宍戸恒信) 国際経済学と開発経済学的手法を用いて、国レベルの政策、グローバルな監視制度、国際協力の方策を構想する力をつける。</p> <p>(竹内健蔵) ミクロ経済学の分析手法を用いて、特に料金規制や参入退出規制などの問題について指導を行う。</p> <p>(二村真理子) ミクロ経済学、環境経済学の分析手法を用いて、環境関連の諸問題への対処に関する研究指導を行う。</p> <p>(白砂堤津耶) 計量経済学の基本的な手法を用いて、日本及びアジア諸国・地域の経済的課題に関する研究指導を行う。</p> <p>(栗田啓子) 共生社会の経済思想の基礎的な理解を深めるため、現代的な問題意識のもとに歴史的文献を研究することを指導する。</p> <p>(中村真人) 産業発展および企業活動の現状と、多様な人々の協働と共生が求められる仕事の問題について、産業と労働の社会学の観点から指導する。</p> <p>(金野美奈子) 職場と家族の結節点におけるジェンダーの社会学の諸問題について、労働者個人、家族、企業、国家などを視野に入れた複眼的でグローバルな視点から指導する。</p>	
--	---	--

	<p>(赤堀三郎) 近代社会の原基的構造をめぐる諸問題について、社会学史、理論社会学の視点から指導する。</p> <p>(伊奈正人) 近代社会の原基的構造をめぐる諸問題について、大衆社会論、文化社会学の視点から指導する。</p> <p>(岡村清子) 現代日本社会における生活、家族、社会福祉をめぐる諸問題について、福祉社会学の視点から指導する。</p> <p>(染谷淑子) 少子高齢社会における諸問題について、国際比較を踏まえつつ指導する。</p>	
論文指導演習	<p>(概要) 人間社会科学の分野における学術論文を執筆できるように指導する。学生個々の研究主題に応じて、先行研究のレビュー、オリジナルな研究課題と研究手法の計画、一次・二次資料の精査・分析、学術論文の形式の執筆や発表ができるよう指導する。演習では主に先行研究の検討から資料の収集分析までを扱う。</p> <p>臨床心理学分野</p> <p>(柴山雅俊) 精神保健に関連する領域について、精神病理学を主に援用しながら、幅広い文献を読み込み、深く考察できるように指導する。</p> <p>(高島克子) 学生自身が興味・関心を持つ研究分野において、先行文献をできるだけ多く読むことを進め、コミュニティ心理学的視点を加えながら指導を行う。</p> <p>(近田輝行) パーソン・センタード・アプローチ、フォーカシング指向心理療法、青年期のカウンセリング等に関する研究指導を行う。</p> <p>(前川あさ美) 発達過程における問題、学校における問題、および家族関係における問題への理解と支援に関する研究を発達臨床的視点から指導する。</p> <p>(無藤清子) 学生自身が関心を持つ研究分野について、先行研究の展望を行う。人の語りを重視しつつ、人を取り巻く家族・地域社会などのシステムや社会文化・制度なども視野に入れる家族臨床心理学的支援の視点から、研究指導を行う。</p> <p>心理・コミュニケーション科学分野</p> <p>(小田浩一) 精神物理学を中心とした実験的手法により、人間の感覚知覚認知、人間の行う情報処理に関する研究指導を行う。</p> <p>(平林秀美) 主に観察法を用いて、発達心理学、特に感情発達および社会的発達に関する研究指導を行う。</p> <p>(工藤恵理子) 主に実験的手法を用いて、社会心理学、特に社会認知的アプローチによる研究課題の指導を行う。</p> <p>(唐澤真弓) 文化比較研究の妥当性、問題点を理解した上で、心の社会・文化的構造を同定する比較研究についての論文指導を行う。</p> <p>(斉藤慎一) 質問紙調査、内容分析、実験などの手法を用いて、マス・メディアやインターネットが伝える内容の分析とその社会的影響に関する研究について論文指導を行う。</p> <p>(李津娥) 内容分析、実験、質問紙調査などの手法を用いて、マス・メディアとインターネットにおける広告コミュニケーションの内容的特徴と訴求戦略の分析、広告コミュニケーションの受容過程と効果に関する研究指導を行う。</p>	

	<p>(有馬明恵) 内容分析、質問紙調査、インタビュー調査、実験のいずれかの手法を用いて、マス・メディアにおける年齢、ジェンダー、エスニックなどの問題やそれらが人々に及ぼす影響に関する研究についての論文指導を行う。</p> <p>(渡辺隆行) HCI、特にユーザビリティとアクセシビリティに関する論文講読をベースに、この分野で論文を書くために必要な指導を行う。</p> <p>グローバル共生社会分野</p> <p>(黒川修司) 国際紛争、平和構築、人道的介入、国際協力などの国際関係論の幅広いテーマに関して研究指導を行う。</p> <p>(湯浅成大) 国際政治学、外交史の手法を用いて、アメリカの政治、外交に関するテーマの研究指導を行う。修士論文執筆に向けての応用的な分析枠組みの理解を深めることを目指す。</p> <p>(油井大三郎) 比較地域研究や歴史学的手法を用いて、アメリカ合衆国や日本における多文化共生などに関するテーマの研究指導を行う。</p> <p>(滝口太郎) 国際政治学、外交史の手法を用いて、中国の政治、外交に関するテーマの研究指導を行う。中国における不平等条約体制の成立とその撤廃交渉をめぐる中国政治外交史を扱った文献を利用し、研究分析の視角と方法論を身につける。</p> <p>(兼若逸之) 歴史的・比較文化的手法を用いて、韓国の社会・文化・歴史などのテーマについての論文指導を行う。</p> <p>(轟莉莉) 文化人類学的手法を用いて、東アジアの社会・文化をテーマとする論文作成の指導を行う。</p> <p>(小檜山ルイ) 社会史、女性史、ジェンダー論の手法を用いて、アメリカ社会や日米比較をテーマとする論文作成の指導を行う。</p> <p>(国広陽子) アメリカを中心に進展した実証主義的アプローチとドイツ、イギリスから展開した批判的アプローチの両者を取りあげ、ジェンダーとマスメディアについて研究指導を行う。</p> <p>(竹内久顕) 平和教育学に関して共有しておくべき基礎的文献の読解と実践の検討を行うことで、今日の平和教育学研究の到達点を整理・解明することを課題とする研究指導を行う。</p> <p>(古沢希代子) 開発や平和構築のプロセスで発生するジェンダー問題に取り組むため、複合的なアプローチによる現状分析や政策評価について指導を行う。</p> <p>(穴戸恒信) 国際経済学と開発経済学的手法を用いて、グローバル化する金融、産業、労働力の現状を分析し、国レベルの政策、グローバルな監視制度、国際協力の方策を構想する力をつける。</p> <p>(竹内健蔵) ミクロ経済学の分析手法を用いて、特に料金規制や参入退出規制などの問題について指導を行う。</p> <p>(二村真理子) ミクロ経済学、環境経済学の分析手法を用いて、環境関連の諸問題への対処に関する研究指導を行う。</p>	
--	--	--

	<p>(白砂堤津耶) 計量経済学の基本的な手法を用いて、日本及びアジア諸国・地域の経済的課題に関する研究指導を行う。</p> <p>(栗田啓子) 経済思想史の絶対主義的アプローチあるいは相対主義的アプローチを用いて、共生社会をめざす経済思想の特質について研究指導を行う。</p> <p>(中村真人) グローバルな規模で進む産業発展および企業活動の現状と、多様な人々の協働と共生が求められる仕事の問題について、産業と労働の社会学の観点から、論文の構想、調査の企画立案について指導する。</p> <p>(金野美奈子) 職場と家族の結節点におけるジェンダーの社会学の諸問題について、労働者個人、家族、企業、国家など多様なアクターを視野に入れた複眼的でグローバルな視点から、論文の構想、調査の企画立案について指導する。</p> <p>(赤堀三郎) グローバル化という変動のなかで見直しを迫られる近代社会の原基的構造をめぐる諸問題について、社会学史、理論社会学の視点から、文献研究や調査研究の企画立案について指導する。</p> <p>(伊奈正人) グローバル化という変動のなかで見直しを迫られる近代社会の原基的構造をめぐる諸問題について、大衆社会論、文化社会学の視点から、論文の構想、調査の企画立案について指導する。</p> <p>(岡村清子) グローバル化する現代日本社会における生活、家族、社会福祉をめぐる諸問題について、福祉社会学の視点から、論文の構想、調査の企画立案について指導する。</p> <p>(染谷淑子) 現代日本における少子高齢社会における諸問題について、グローバルな視点からの国際比較を踏まえつつ、論文の構想、調査の企画立案について指導する。</p>	
論文指導演習	<p>(概要) 人間社会科学の分野における学術論文を執筆できるように指導する。学生個々の研究主題に応じて、先行研究のレビュー、オリジナルな研究課題と研究手法の計画、一次・二次資料の精査・分析、学術論文の形式の執筆や発表ができるよう指導する。演習では主に資料の分析から論文執筆・発表までを扱う。</p> <p>臨床心理学分野 (柴山雅俊) 精神病理学を越えて、広く学際的見地から論文指導を行なう。</p> <p>(高畠克子) コミュニティ心理学の理念と研究法を用いて論文のまとめ方の指導を行う。</p> <p>(近田輝行) パーソン・センタード・アプローチ、フォーカシング指向心理療法、青年期のカウンセリング等に関する研究指導を行う。</p> <p>(前川あさ美) 発達過程における問題、学校における問題、および家族関係における問題への理解と支援に関する研究を発達臨床的視点から指導する。</p>	

	<p>(無藤清子) 人の語りを重視しつつ、人を取り巻く家族・地域社会などのシステムや社会文化・制度なども視野に入れる家族臨床心理学的支援の視点から、研究指導を行う。</p> <p>心理・コミュニケーション科学分野</p> <p>(小田浩一) 精神物理学を中心にした実験的手法により、人間の感覚知覚認知、人間の行う情報処理に関する研究指導を行う。</p> <p>(平林秀美) 主に観察法を用いて、発達心理学、特に感情発達および社会的発達に関する研究指導を行なう。</p> <p>(工藤恵理子) 主に実験的手法を用いて、社会心理学、特に社会認知的アプローチによる研究課題の指導を行う。</p> <p>(唐澤真弓) 文化比較研究の妥当性、問題点を理解した上で、心の社会・文化的構造を同定する比較研究についての論文指導を行う。</p> <p>(斉藤慎一) 質問紙調査、内容分析、実験などの手法を用いて、マス・メディアやインターネットが伝える内容の分析とその社会的影響に関する研究について論文指導を行う。</p> <p>(李津娥) 内容分析、実験、質問紙調査などの手法を用いて、マス・メディアとインターネットにおける広告コミュニケーションの内容的特徴と訴求戦略の分析、広告コミュニケーションの受容過程と効果に関する研究指導を行う。</p> <p>(有馬明恵) 内容分析、質問紙調査、インタビュー調査、実験のいずれかの手法を用いて、マス・メディアにおける年齢、ジェンダー、エスニックなどの問題やそれらが人々に及ぼす影響に関する研究についての論文指導を行う。</p> <p>(渡辺隆行) 実験・質問紙・インタビュー・評価ツール・官能評価などの手法を組み合わせ、HCI、特にユーザビリティとアクセシビリティに関する研究課題の論文指導を行う。</p> <p>グローバル共生社会分野</p> <p>(黒川修司) 国際紛争、平和構築、人道的介入、国際協力などの国際関係論の幅広いテーマに関して研究指導を行う。</p> <p>(湯浅成大) 国際政治学、外交史の手法を用いて、アメリカの政治、外交に関するテーマの研究指導を行う。演習で培った分析枠組みを用いた修士論文の完成を目指す。</p> <p>(油井大三郎) 比較地域研究や歴史学的手法を用いて、アメリカ合衆国や日本における多文化共生などに関するテーマとする修士論文の完成に向けて研究指導を行う。</p> <p>(滝口太郎) 国際政治学、外交史の手法を用いて、中国の政治、外交に関するテーマの研究指導を行う。現代中国外交の諸側面、たとえば米中関係、日中関係などを扱った文献を利用し、研究分析の視角と方法論を身につける。</p> <p>(兼若逸之) 歴史学的・比較文化的手法を用いて、韓国の社会・文化・歴史などのテーマについての修士論文の論文完成に向けて指導を行う。</p>	
--	--	--

	<p>(轟莉莉) 文化人類学的手法を用いて、東アジアの社会・文化をテーマとする修士論文の完成に向けて指導を行う。</p> <p>(小檜山ルイ) 社会史、女性史、ジェンダー論の手法を用いて、アメリカ社会や日米比較をテーマとする修士論文完成に向けて指導を行う。</p> <p>(国広陽子) 質的調査法的手法を用いて、現代社会における諸個人のジェンダーに関する知のあり方とメディアコミュニケーションのあり方に関する研究課題についての研究指導を行う。</p> <p>(竹内久顕) 平和教育学の基礎理論に基づいて各自の研究課題を深めていくことで、平和教育学の今日的水準を踏まえた修士論文の作成を課題とする研究指導を行なう。</p> <p>(古沢希代子) 開発や平和構築のプロセスで発生するジェンダー問題に取り組むため、複合的なアプローチで自ら現状分析や政策評価が行えるよう指導する。</p> <p>(宍戸恒信) 国際経済学と開発経済学的手法を用いて、グローバル化する金融、産業、労働力の現状分析や関連する政策に関する論文執筆の指導を行う。</p> <p>(竹内健蔵) ミクロ経済学の分析手法を用いて、特に料金規制や参入退出規制などの問題について指導を行う。</p> <p>(二村真理子) ミクロ経済学、環境経済学の分析手法を用いて、環境関連の諸問題への政策的対応に関する研究指導を行う。</p> <p>(白砂堤津耶) 計量経済学の標準的手法を用いて、日本を含むアジア諸国・地域の経済的課題に関する研究指導を行う。</p> <p>(栗田啓子) 環境、少子化とジェンダー、経済格差などの共生社会に関する問題について、経済思想史の分析手法を用いた論文執筆のための研究指導を行う。</p> <p>(中村真人) グローバルな規模で進む産業発展および企業活動の現状と、多様な人々の協働と共生が求められる仕事の問題について、産業と労働の社会学の観点から、論文執筆の指導を行う。</p> <p>(金野美奈子) 職場と家族の結節点におけるジェンダーの社会学の諸問題について、労働者個人、家族、企業、国家など多様なアクターを視野に入れた複眼的でグローバルな視点から、論文指導を行う。</p> <p>(赤堀三郎) グローバル化という変動のなかで見直しを迫られる近代社会の原基的構造をめぐる諸問題について、社会学史、理論社会学の視点から、論文指導を行う。</p> <p>(伊奈正人) グローバル化という変動のなかで見直しを迫られる近代社会の原基的構造をめぐる諸問題について、大衆社会論、文化社会学の視点から、論文指導を行う。</p> <p>(岡村清子) グローバル化する現代日本社会における生活、家族、社会福祉をめぐる諸問題について、福祉社会学の視点から論文指導を行う。</p>	
--	--	--

		(染谷淑子) 現代日本における少子高齢社会における諸問題について、 グローバルな視点からの国際比較を踏まえつつ、論文指導を 行う。	
--	--	--	--